

marantz® AV Surround Receiver

SR5005

取扱説明書

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜け

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜く

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

火気禁止

火や炎を近づけない

本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。
火災の原因になります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水滴や水しぶきのかかるところに置かない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災、感電の原因になります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

高温注意

使用中、使用直後に高温となる部分には触らない

使用中、使用直後は上面や高温注意マークの付近には触れないでください。
機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。

禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意 禁止

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施 禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるように設置する

電源のスイッチを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。
万一の事故防止のため、本機をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにしてください。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

必ず実施 禁止

電池を交換するときは

- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

5 年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

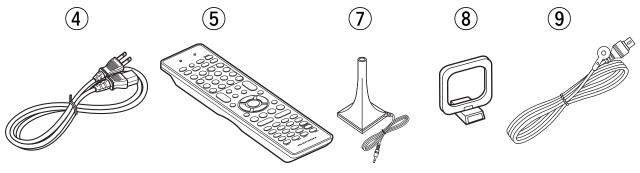
お買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、「保証書」とともに大切に保存してください。
なお、お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、ご不審な箇所などありましたら、お早めにお買い上げ店、当社お客様ご相談センター、または最寄りの当社営業所 / サービスセンターにお問い合わせください。

目次

付属品を確認する

ご使用の前にご確認ください。

① 取扱説明書（本書）..1
② 保証書（梱包箱に貼り付けています）..............................1
③ 製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内 1
④ 電源コード【本機専用】..1
⑤ リモコン（RC010SR）...1
⑥ 単4形乾電池...2
⑦ セットアップマイク（ACM1H）..................................1
⑧ AMループアンテナ 1
⑨ FM室内アンテナ 1



本書について

❏操作説明のボタンについて

本書の操作説明は、リモコンの操作ボタンをメインに説明しています。

❏マークについて

☞ このマークは、関連情報を記載している参照先のページをあらわします。

このマークは、補足説明や操作上のアドバイスをあらわします。

ご注意 このマークは、操作時に留意していただきたい注意点や、機能の制約などをあらわします。

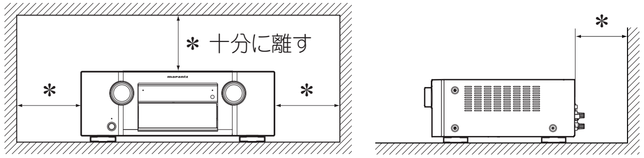
❏イラストについて

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

使用上のご注意

設置について

本機内部の放熱を良くするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。



＊30cm 以上

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露（つゆつき）について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部）に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1～2 時間放置してから使用してください。

ステレオ音のエチケット



- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

本機の特長

ディスクリート回路構成による全 7 チャンネル同一クオリティーのパワーアンプ搭載 (実用最大出力 180W、6 Ω)
本機には、オリジナル音源を忠実にサラウンド再生するために、全チャンネルに同一のクオリティーと同一のパワーを持つパワーアンプを搭載しています。
パワーアンプ回路には、ディスクリート回路構成を採用することによって、高品位なサラウンド再生を実現しています。

HDMI Ver. 1.4a 対応(Ver. 1.4a、3D、ARC、Deep Color、x.v.Color、Auto Lipsync、HDMI コントロール機能対応)
本機は、ブルーレイディスクプレーヤーから入力する 3D 映像信号を、3D 対応テレビに出力することができます。また、本機とテレビ * を接続している HDMI ケーブルを経由してテレビの音声を本機で再生する ARC(Audio Return Channel)機能にも対応しています。
* テレビも ARC 機能に対応していることが必要です。

さまざまなデジタル AV 機器を接続できる HDMI 端子を装備(入力:4 系統、出力 1 系統)
本機は、ブルーレイディスクプレーヤー、ゲーム、HD ビデオカメラなどの様々な HDMI 端子搭載機器との接続に対応するために、4 系統の HDMI 入力端子を装備しています。

ブルーレイディスクプレーヤーの HD オーディオに対応
本機には、ブルーレイディスクプレーヤーの音声フォーマットである Dolby TrueHD や DTS-HD Master Audio などの高品位デジタル音声フォーマットに対応したデコーダーを搭載しています。

音場の立体感を生み出す Dolby Pro Logic IIz プロセッサー搭載
本機には、Dolby Pro Logic IIz デコーダーを搭載しています。本機にフロントハイトスピーカーを接続して Dolby Pro Logic IIz 再生をおこなうことにより、より豊かな空間表現力を持った再生をお楽しみいただけます。

画面を見ながら各種設定ができるオン・スクリーン・ディスプレイ(OSD)
テレビの画面に表示する各種設定メニューを見ながら簡単に本機の設定ができます。また、音量調節つまみ操作時には音量レベルを、入力ソースの切り替え操作時には入力ソース名をそれぞれ表示します。

お部屋とスピーカーの音響特性を最適化するオートセットアップ機能装備
本機には、お部屋の環境に最適なスピーカーの設定を自動的におこなう「Auto Setup 機能」を搭載しています。スピーカーから出力する音を付属の専用マイクが集音。お部屋の反響音や各スピーカーの音響特性を測定し、適切な音場を自動で設定します。

アナログ映像信号 (SD 解像度) を 1080p(HD 解像度) の信号にアップスケーリングするデジタルビデオプロセッサー搭載
本機には、本機に入力されるアナログ映像信号を 1080p (HD 解像度) 信号にアップスケーリングして HDMI 端子からテレビに出力できる「HDMI ビデオアップスケーリング機能」を搭載しています。これにより本機とテレビの接続が HDMI ケーブル 1 本で済むだけでなく、どの映像ソースでも HD 画質に迫る精細な映像を再現することができます。

iPhone® や iPod® の再生に対応した USB 端子搭載
本機の USB 端子に、iPod に付属の専用 USB ケーブルを接続することで、iPod の再生や、本機のリモコンで iPod を操作することができます。

M-XPort (Marantz-eXtension Port)
拡張性に優れたマランツ独自の M-XPort を搭載しました。ワイヤレスレシーバー RX101 (別売) を接続して Bluetooth 機器(デジタルオーディオプレーヤー、携帯電話など) の音楽ファイルを本機で再生することができます。

フロントハイトチャンネル専用スピーカーターミナルを装備
本機背面にフロントハイトチャンネル専用スピーカーターミナルを装備しました。これによりスピーカーの設置をやり直すことなく、フロントハイトチャンネルを使用した 7.1 チャンネル再生とサラウンドバックチャンネルを使用した 7.1 チャンネル再生をお楽しみいただけます。

その他
- ドルビーバーチャルスピーカー (☞33 ページ)
- ドルビーヘッドホン (☞33 ページ)
- DTS Neural Surround (☞31 ページ)

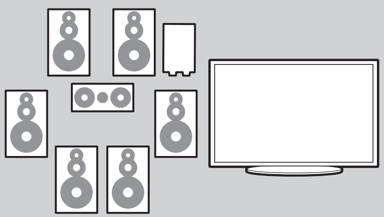
Simple version 入門編（かんたんセットアップガイド）

ここでは、ホームシアターを簡単にお楽しみいただくための手順を説明しています。
「入門編」ではサラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設置 / 接続 / 設定方法については、35 ページをご覧ください。

- ❑ **接続するときは、各機器の電源を切ってください。**
- ❑ **接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。**

1 設置する

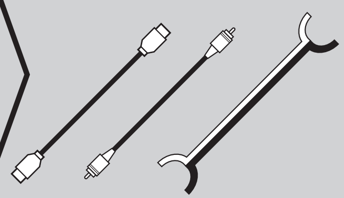
（☞8 ページ）



正しい設置方法で、
より良い音質が楽しめます。

2 接続する

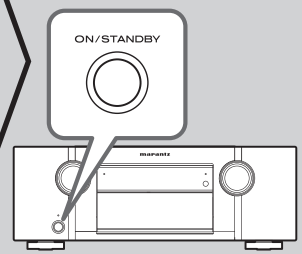
（☞8 ページ）



7.1 チャンネルのスピーカーとHDMI 端子付きのテレビ、ブルーレイディスクプレーヤーを接続します。

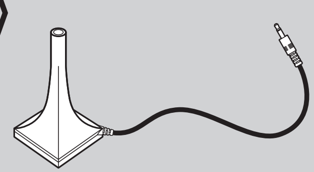
3 電源を入れる

（☞10 ページ）



4 スピーカーを設定する

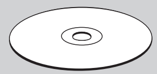
（☞10 ページ）



付属のセットアップマイク（ACM1H）を使用して、
自動的におこないます。

5 ディスクを再生する

（☞15 ページ）



ブルーレイディスクや DVD
をサラウンドで楽しめます。

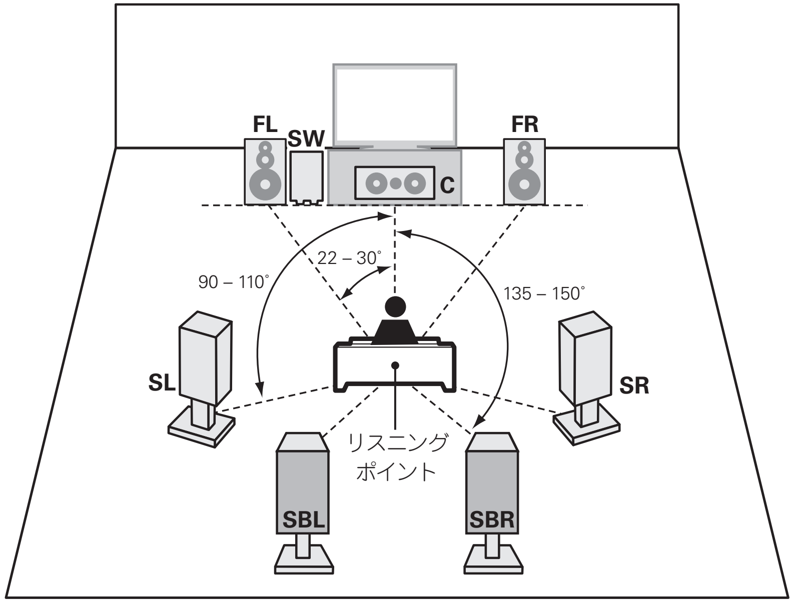
スピーカーを設定する（Audyssey® Auto Setup）

準備	ステップ 1（Step 1） **スピーカー検出 (Speaker Detection)**	ステップ 2（Step 2） **測定 (Measurement)**	ステップ 3（Step 3） **解析 (Calculating)**	ステップ 4（Step 4） **解析結果 (Check)**	ステップ 5（Step 5） **保存 (Store)**	完了

1 設置する

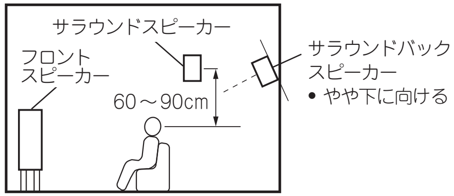
本機では、2.0/2.1 ～ 7.1 チャンネルのサラウンド再生ができます。このページでは、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル再生のスピーカー設置を例に説明しています。

> 本機のお買い上げ時の設定は、7.1 チャンネルです。
> 5.1 チャンネルで再生することもできます。5.1 チャンネルで再生する場合は、5.1 チャンネルのスピーカーのみ接続してください。
> 本機の Audyssey Auto Setup で、接続しているスピーカーの本数を検出し、ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。



FL　フロントスピーカー(L)
FR　フロントスピーカー(R)
C　センタースピーカー
SW　サブウーハー
SL　サラウンドスピーカー(L)
SR　サラウンドスピーカー(R)
SBL　サラウンドバックスピーカー(L)
SBR　サラウンドバックスピーカー(R)

- サラウンドスピーカーは、耳の高さより 60～90cm 高い位置に設置することをおすすめします。



【側面から見た図】

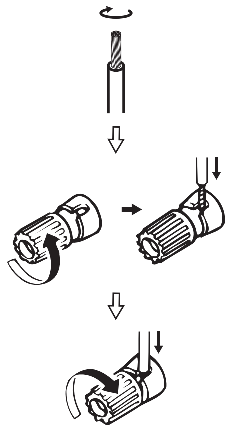
2 接続する

スピーカー

本機と接続するスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、＋(赤)、－(黒)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

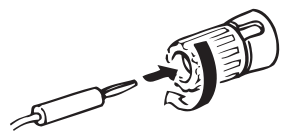
スピーカーケーブルを接続する

スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。



バナナプラグをご使用になる場合

スピーカー端子を右に回してしめてから、バナナプラグを差し込む。

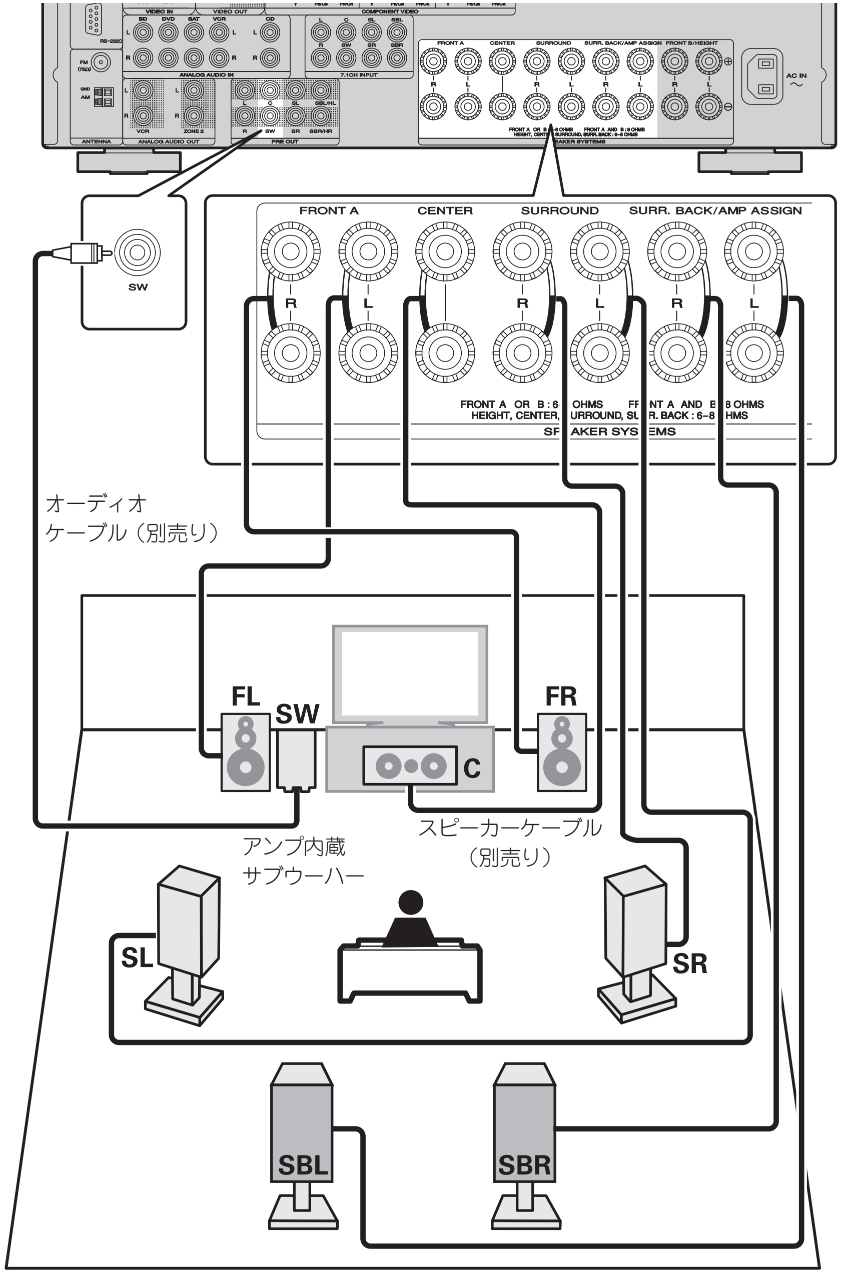


ご注意

- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作します(☞83 ページ「保護回路」)。
- 通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。
- 次のインピーダンスのスピーカーをご使用ください。

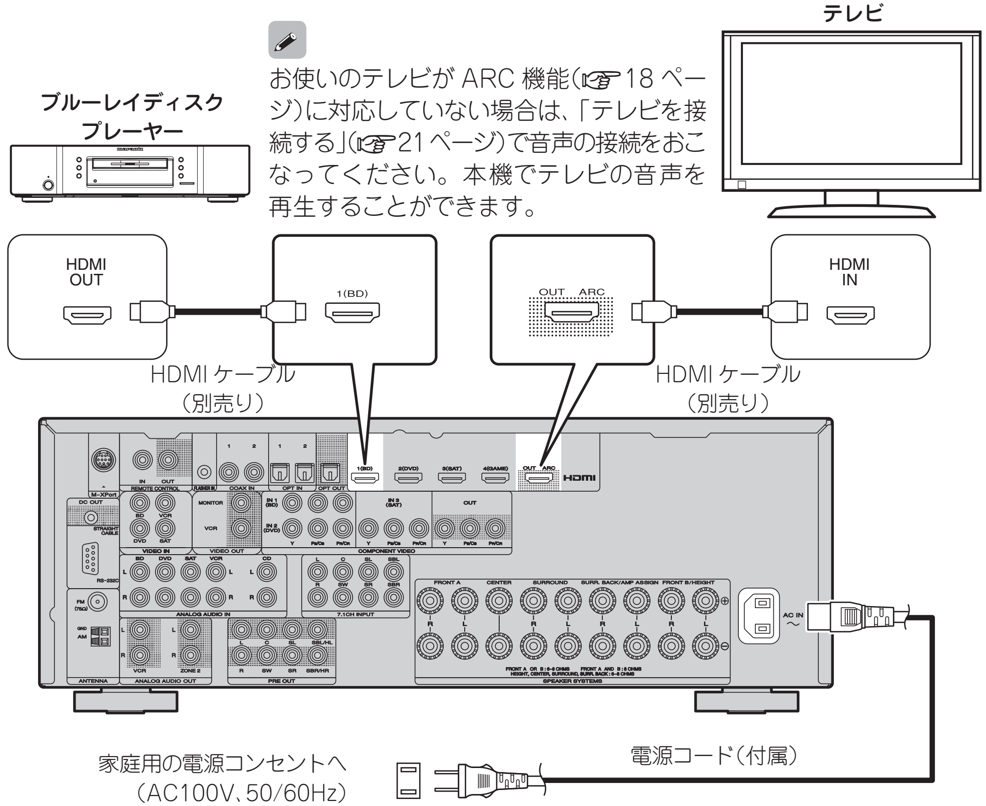
ご使用になるスピーカー端子	スピーカーインピーダンス
FRONT A	6 － 8 Ω
CENTER	
SURROUND	
SURR. BACK/SPEAKER C	
FRONT B/HEIGHT	
FRONT A ＋ FRONT B	8 Ω

> 「入門編」では、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
> サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設置 / 接続 / 設定方法については、35 ページをご覧ください。



ブルーレイディスクプレーヤーとテレビ

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）ケーブルは、HDMI ロゴのついたケーブル（HDMI 認証品）を使用してください。HDMI ロゴのないケーブル（HDMI 非認証品）を使用した場合、正しい再生ができないことがあります。
Deep Color または 1080p などの信号を伝送する場合は、高音質再生のために"イーサネット対応標準 HDMI ケーブル"または"イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル"を使用してください。



お使いのテレビが ARC 機能（☞18 ページ）に対応していない場合は、「テレビを接続する」（☞21 ページ）で音声の接続をおこなってください。本機でテレビの音声を再生することができます。

ご注意

- **すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。**
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

「入門編」では、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設置 / 接続 / 設定方法については、35 ページをご覧ください。

3 電源を入れる

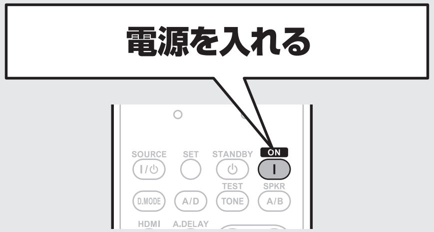
1 テレビとサブウーハーの電源を入れる。

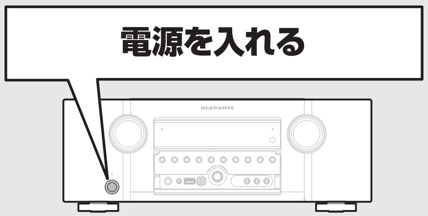


2 **本機から出力する映像がテレビに映るように、テレビの入力を切り替える。**

- 入力の切り替えかたは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 **ON を押して、本機の電源を入れる。**
電源表示が消灯して、電源が入ります。





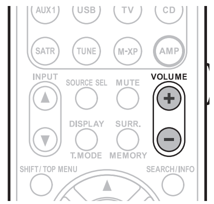
4 スピーカーを設定する（Audyssey® Auto Setup）

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。この機能を“Audyssey Auto Setup”と呼びます。
測定は、リスニングエリア全体の複数の位置にセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るために、6 ポイントで測定することをおすすめします。

- Audyssey Auto Setup をおこなうと、MultEQ®/Dynamic EQ®/Dynamic Volume® の機能（☞55、56 ページ）が有効になります。
- 手動でスピーカーを設定したい場合は、メニューの“Speaker Setup”（☞58 ページ）でおこなってください。

ご注意

- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、電化製品（テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯など）の電源を切ってください。測定の際、これらの騒音の影響を受ける場合があります。
- 測定中、携帯電話はリスニングルーム以外の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨げる原因になることがあります。
- セットアップマイクは、Audyssey Auto Setup が完了するまで、絶対に抜かないでください。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができません。
- 測定中に大きなテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。リスニングルーム内の騒音が大きいほどテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中に **VOLUME + –** を操作すると、測定を中止します。
- ヘッドホンを接続している場合、測定はできません。Audyssey Auto Setup をおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

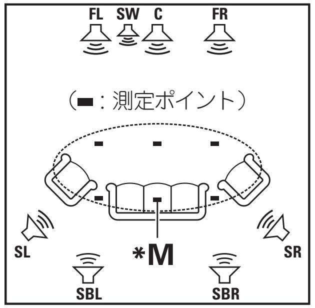


「入門編」では、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設置 / 接続 / 設定方法については、35 ページをご覧ください。

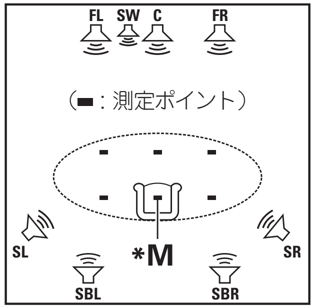
セットアップマイクの設置場所について

- 測定は、【例 ①】に示すようにリスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るため、図のように 6 ポイントで測定することをおすすめします。
- リスニング環境が【例 ②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。

【例 ①】



【例 ②】



FL	フロントスピーカー（L）	SL	サラウンドスピーカー（L）
FR	フロントスピーカー（R）	SR	サラウンドスピーカー（R）
C	センタースピーカー	SBL	サラウンドバックスピーカー（L）
SW	サブウーハー	SBR	サラウンドバックスピーカー（R）

メインリスニングポイント（* M）について

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置、または一人で視聴するときに座る位置です。Audyssey Auto Setup をはじめる前に、セットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。Audyssey MultEQ® は、この位置から測定した値を用いて、スピーカーの距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

1 付属のセットアップマイクを準備する

セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。

セットアップマイクを設置する場合は、受音部をリスニング時の耳の高さにあわせて調節してください。



ご注意

- セットアップマイクを手で持ちながら測定しないでください。
- セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

2 サブウーハーの設定をする

次の設定ができるサブウーハーをご使用の場合のみ、この設定をおこなってください。

❏ ダイレクトモード機能があるサブウーハーの場合

ダイレクトモード機能を“オン”に設定し、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

❏ ダイレクトモード機能がないサブウーハーの場合

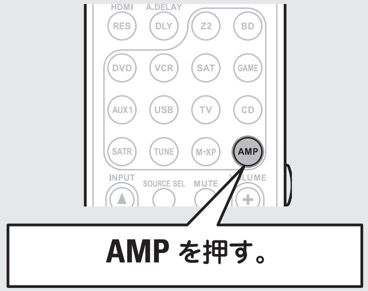
次のように設定してください。

- **音量の設定**：“12 時”の位置
- **クロスオーバー周波数の設定**：“最大 / 最高周波数”
- **ローパスフィルターの設定**：“オフ”
- **スタンバイモードの設定**：“オフ”

3 リモコンの設定をする

❏ 操作モードの設定

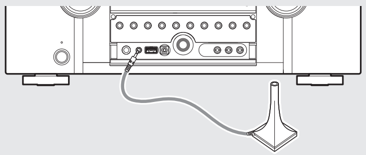
AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。



「入門編」では、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設置 / 接続 / 設定方法については、35 ページをご覧ください。

準備

4 セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。



セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。

```
3−1. Audyssey Auto Setup
                    MultEQ
Please place microphone
at ear height at
main listening position.
    F.Height    : Measure
    Front Sp.  :   A
    Amp Assign:  Normal
        Start
        Cancel
[ENT]:Select  [RTN]:Back
```

ここでは、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル再生の設定のしかたについて説明しています。サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設定のしかたは、“Amp Assign”を選び、「スピーカーを設定する」（☞39 ページ）の手順 3 と 4 の操作をおこなってください。

5 △▽ を押して“Start” を選び、ENTER を押す。

測定がはじまり、各スピーカーからテストトーンを出力します。

- 測定には数分間かかります。

“Cancel”を選択したとき

テレビ画面に“Cancel Auto Setup?”を表示します。“Yes”を選ぶと、“Audyssey Auto Setup”を終了します。

ステップ 1（Step 1）スピーカー検出（Speaker Detection）

- Step 1 では、メインリスニングポイントの測定をします。
- ここでは、スピーカー接続の有無や大きさ、チャンネルレベル、距離およびクロスオーバー周波数を自動的に計算します。また、リスニングエリア内の音響歪みを補正します。

6 検出されたスピーカーを表示します。

```
Step1:Speaker Detection
                  MultEQ
 Front Sp.        :Yes
 F.Height Sp.     :No
 Center Sp.       :Yes
 Surround Sp.     :Yes
 S.Back Sp.       :Yes 2ch
 Subwoofer        :Yes
         Next
         Retry
[ENT]:Next
```

ご注意

接続しているスピーカーが表示されない場合は、スピーカーが正しく接続されていないことが考えられます。スピーカーの接続を確認してください。

7 △▽ を押して“Next” を選び、ENTER を押す。

ご注意

テレビ画面に“Caution!” が表示された場合は、「エラーメッセージについて」（☞14 ページ）をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。問題点を処理した後、再び“Audyssey Auto Setup” をおこなってください。

再び Audyssey Auto Setup をおこなうとき

△▽ を押して“Retry”を選び、**ENTER** を押す。

測定を中止するとき

① △▽を押して“Cancel”を選び、**ENTER**を押す。
② ◁ ▷を押して“Yes”を選び、**ENTER**押す。

再度スピーカーを設定するとき

準備 の手順 4 以降の操作をおこなってください。

ステップ 2（Step 2）測定（Measurement）

- Step 2 では、メインリスニングポイント以外の複数のポイント（2～6 ポイント）を測定します。
- 複数のポイントを測定すると、リスニングエリア内の音響歪みの補正精度をより高くすることができます。

8 2 ポイント目にセットアップマイクを移動させ、△▽ 押して“Next” を選び、ENTER を押す。

2 ポイント目の測定をはじめます。 最大 6 箇所まで測定できます。

```
Step2:Measurement
                  MultEQ
Please place microphone
at ear height at
2nd listening position.

         Next
         Calculate
         Cancel
[ENT]:Next
```

次のポイント以降の測定を省略する場合は、“Calculate”を選んでください。
（Step 3 Calculating へ進みます。）

9 手順 8 をくり返して、3～6 箇所のポイントを測定する。

6 ポイント目の測定が完了すると、“All the measurements were finished.”を表示します。

```
Step2:Measurement
                  MultEQ
  All the measurements
  were finished.

         Calculate
         Retry
         Cancel
[ENT]:Calculate
```


リモコンの操作ボタン　△▽◁▷ カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）　ENTER 設定を確定する　RETURN ひとつ前のメニューに戻る

ステップ3（Step 3） 解析 （Calculating）

10 **Step 2 の画面で △▽ を押して“Calculate”を選び、ENTER を押す。**

測定結果を自動的に解析し、リスニングルームにおける各スピーカーの特性を決定します。

```
Step3:Calculating
                MultEQ
   Calculating
   Please wait...

   [■■--------]
```

- 解析には数分間かかります。解析時間は、接続されたスピーカーの数と測定ポイント数に依存します。
  接続するスピーカーの数と測定ポイント数が多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

ステップ 4（Step 4） 解析結果 （Check）

11 **△▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER を押す。**

```
Step4:Check
                MultEQ
Please check the results
of the measured item.

  Speaker Config.Check
  Distance Check
  Channel Level Check
  Crossover Freq.Check
        Next
[ENT]:Select
```

- サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。
- 他の項目を確認したいときは、**RETURN** を押してください。

12 **△▽ を押して“Next”を選び、ENTER を押す。**

ご注意

- 接続している状態と異なる結果や“Caution!”が表示された場合は、「エラーメッセージについて」（☞14ページ）をご覧ください。その後、再度 Audyssey Auto Setup をおこなってください。
- 再測定後も、接続している状態と異なる結果やエラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性があります。必ず本機の電源を切り、スピーカーの接続を確かめ、最初から測定をやり直してください。
- スピーカーの位置や向きを変えた場合は、最適なイコライザーの補正を得るために、再び Audyssey Auto Setup をおこなってください。

ステップ5（Step 5） 保存 （Store）

13 **△▽ を押して“Store”を選び、ENTER を押す。**

測定結果を保存します。

```
Step5:Store
                MultEQ
 Please select "Store"
 to store measurement
 values.

        Store
        Cancel

[ENT]:Store
```

↓

```
Step5:Store
                MultEQ
   Storing
   Please wait...

   [■---------]
```

- 保存には 10 秒程度かかります。
- 測定結果を保存しない場合は、△▽ で“Cancel”を選んだ後、◁ ▷ で“Yes”を選んでください。すべての Audyssey Auto Setup の測定結果を消去します。

ご注意

測定結果の保存中は、絶対に電源を切らないでください。

完了

14 **本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜く。**

15 **Dynamic Volume® の設定をする。**

```
Finish
                MultEQ
   Storing complete.
   Auto Setup is now
   finished.

Turn on Dynamic Volume?

       Yes◀:▶No

[◀▶]:Select   [ENT]:Exit
```

- Dynamic Volume 設定の詳細については、56ページをご覧ください。

❑ Dynamic Volume の設定をするとき

- ◁ を押して“Yes”を選び、**ENTER** を押す。
  自動的に“Evening”モードになります。

❑ Dynamic Volume の設定をしないとき

- ▷ を押して“No”を選び、**ENTER** を押す。

ご注意

Audyssey Auto Setup をおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。変更した場合は、再び Audyssey Auto Setup をおこなってください。

エラーメッセージについて

スピーカーの設置や測定環境などにより、Audyssey® Auto Setup を完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。その後、再び“Audyssey Auto Setup”をおこなってください。

ご注意

スピーカーの接続を確認するときは、必ず電源を切ってください。

エラーメッセージ（例）	エラーの内容	エラーの処理方法
Caution MultEQ ●Microphone:None or Speaker :None Retry Cancel [ENT]:Retry	•接続しているセットアップマイクが壊れているか、付属以外のセットアップマイクを接続している。 •接続しているすべてのスピーカーが検出されない。 •フロントスピーカー（L）が正しく検出されない。	•付属のセットアップマイクを、本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 •スピーカーの接続を確認してください。
Caution MultEQ ●Ambient noise is too high or Level is too low. Retry Cancel [ENT]:Retry	•部屋の騒音が大きいため、正しい測定ができない。 •スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しい測定ができない。	•騒音を発生する機器の電源を切るか、機器を遠ざけてください。 •周囲がより静かなときに再度おこなってください。 •スピーカーの設置や向きを確認してください。 •サブウーハーの音量を調節してください。
Caution MultEQ Front R :None Retry Cancel Skip [▲▼]:Up/Down [◀▶]:CH	•表示されたスピーカーが検出されない。	•表示されたスピーカーの接続を確認してください。
Caution MultEQ Front L :Phase Retry Cancel Skip [▲▼]:Up/Down [◀▶]:CH	•表示されたスピーカーの位相が逆である。	•表示されたスピーカーの極性を確認してください。 •スピーカーや部屋の環境によっては、正しく接続してもエラーメッセージが表示される場合があります。このような場合は、△▽ を押して“Skip”を選び、**ENTER** を押してください。

パラメーターを確認する（Parameter Check）

Audyssey Auto Setup をおこなった後に、測定結果やイコライザーの種類を確認できます。

1 **△▽ を押して“Parameter Check”を選び、ENTER を押す。**

2 **△▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER を押す。**

```
3-2.Parameter Check

Speaker Config.Check
Distance Chenck
Channel Level Check
Crossover Freq.Check
EQ Check

Restore

[ENT]:Select [RTN]:Back
```

Speaker Config. Check	スピーカーの構成を確認します。
Distance Check	スピーカーの距離を確認します。
Channel Level Check	スピーカーのチャンネルレベルを確認します。
Crossover Freq. Check	スピーカーのクロスオーバー周波数を確認します。
EQ Check	イコライザーの補正カーブを確認します。

- “EQ Check”を選んだ場合は、△▽ を押して確認したい補正カーブ（“Audyssey”または“Audyssey Flat”）を選んでください。
  ◁ ▷ を押すと、各スピーカーの表示を切り替えることができます。

3 **RETURN を押す。**
確認画面に戻ります。手順 2 をくり返しおこなってください。

Audyssey Auto Setup の設定値に戻すとき

“Restore”を“Yes”に設定すると、各設定を手動で変更した場合でも Audyssey Auto Setup の測定結果（MultEQ® が当初計算した値）に戻すことができます。

リモコンの操作ボタン　カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）　ENTER 設定を確定する　RETURN ひとつ前のメニューに戻る

5 ディスクを再生する

1 **BD** を続けて 2 回押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。

2 **本機と接続した機器を再生する。**
あらかじめプレーヤーの設定（言語設定や字幕設定など）をおこなってください。

3 **音量を調節する。**

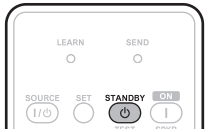
VOLUME + ……………………音量を上げる
VOLUME – …………………… 音量を下げる
MUTE …………………………………… 消音



4 **リスニングモードを設定する。**
再生するコンテンツ（映画や音楽など）やお好みに合わせて、リスニングモードを選んでください（☞31 ページ「リスニングモードを選ぶ（サラウンドモード）」）。

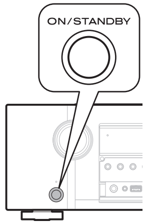
電源をスタンバイ状態にするとき

STANDBY を押す。



【 スタンバイ時の電源表示 】
- 通常スタンバイ時：赤色
- メニューの“HDMI Control”設定（☞61 ページ）が“ON”のとき：橙色

本体の **ON/STANDBY** を押しても、電源をスタンバイ状態にできます。



ご注意

電源がスタンバイ状態のときは、微量な電力を消費します。すべての電力を完全に遮断するときは、電源コードをコンセントから抜いてください。

Basic version

基本編

ここでは、本機の基本的な接続や操作方法について説明しています。

- **接続のしかた（基本接続）** ☞17 ページ
- **再生のしかた（基本操作）** ☞26 ページ
- **リスニングモードを選ぶ（サラウンドモード）** ☞31 ページ

❑それぞれのメディアや外部機器の接続と再生のしかたは、以下のページをご覧ください。

音声および映像	接続のしかた	再生のしかた
テレビ	☞19、21 ページ	–
ブルーレイディスクプレーヤー	☞19、21 ページ	☞27 ページ
DVD プレーヤー	☞19、21 ページ	☞27 ページ
セットトップボックス （衛星チューナー / ケーブルテレビチューナー）	☞19、20 ページ	–
ゲーム機	☞19 ページ	–
ビデオレコーダー	☞20 ページ	–
ビデオカメラ	☞23 ページ	–
音声	**接続のしかた**	**再生のしかた**
iPod®	☞22 ページ	☞27 ページ
USB メモリー	☞22 ページ	☞28 ページ
CD プレーヤー	☞23 ページ	☞27 ページ
ワイヤレスレシーバー（RX101）	☞23 ページ	–
ラジオ	☞24 ページ	☞29 ページ

スピーカーの接続については、8 ページをご覧ください。

接続のしかた（基本接続）

知っておいてほしいこと

- **この取扱説明書では、対応するすべての音声信号方式や映像信号方式の接続方法を説明しています。接続する機器に合わせていずれかの接続方法を選んでください。**
- **接続方法によっては、本機の設定が必要なものもあります。詳しくは、各接続項目の説明をご覧ください。**
- **ご使用になる機器に合わせて、別売りのケーブルをご用意ください。**

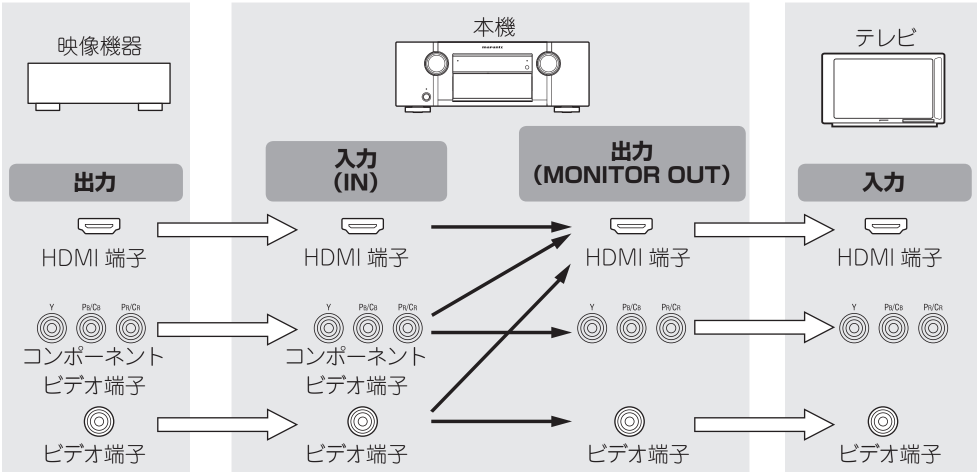
ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しく L と L、R と R を接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）

本機には 3 種類（HDMI、コンポーネント、ビデオ）の映像入力端子と 3 種類（HDMI、コンポーネント、ビデオ）の映像出力端子があります。接続する機器に合わせて使用してください。
この機能は、本機に入力されたさまざまな方式の映像信号を、本機からテレビに出力する映像信号方式に自動的に変換して出力するものです。

【 映像信号の流れ 】



- ビデオコンバージョン機能は、NTSC、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-N、PAL-M および PAL-60 のフォーマットに準拠しています。
- HDMI 対応テレビの解像度は、“HDMI Monitor Information”（☞64 ページ）で確認することができます。

ご注意

- HDMI 信号をアナログ信号に変換することはできません。
- ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しないことがあります。
- コンポーネントビデオ入力信号は、ビデオ信号には変換できません。また、ビデオ入力信号は、コンポーネントビデオ信号には変換できません。

映像入力信号による画面表示のしかた

メニューや状態の画面表示のしかたは、本機に入力される映像信号の種類によって異なります。

❑HDMI 端子またはコンポーネント映像端子から映像信号を入力しているとき

- **メニュー**：黒背景の画面に切り替わり、メニューを重ねて表示します *。
- **状態表示**：表示しません。

＊ 再生中の映像にメニューを重ねて表示したいときは、ビデオ端子にも同じ映像を入力してください。メニューを表示すると、映像端子から入力している映像に切り替わり、メニューを重ねて表示します。

ご注意

コンポーネントビデオ端子から出力された映像には、メニューおよび状態表示の画面を入力された映像に重ねて表示しません。

❑ビデオ端子から映像信号を入力しているとき

- **メニュー**：再生中の映像にメニューを重ねて表示します。
- **状態表示**：表示します。

ご注意

コンポーネントビデオ出力端子をご使用の場合は、画面表示をしません。画面表示をしたいときは、HDMI またはビデオ出力端子と TV を接続してください。

画面表示の例

- メニュー画面

```
MENU

1.Audio Adjust
2.Information
3.Auto Setup
4.Manual Setup
5.Input Setup



[ENT]:Select
```

- 状態表示画面

入力ソース切り替え時

```
          [Auto]
IN   :DVD
MODE:STEREO
```

音量調節時

```
Master Volume -80.0dB
```

状態表示：入力ソースの切り替えや音量調節時、一時的に画面に操作状態を表示します。

ご注意

本機とテレビをビデオ端子を使用して接続する場合、お使いのテレビによっては画面表示をしないことがあります。画面表示をしない場合は、「オン スクリーン ディスプレイ（OSD）出力モードの設定」（☞65 ページ）で“Video”モードに切り替えてください。

HDMI 端子付きの機器を接続する

本機は HDMI 対応機器を 4 台まで接続できます。

HDMI 機能

本機は次の HDMI 機能に対応しています。

- 3D
- Deep Color（☞81 ページ）
- Auto Lip Sync（☞61 ページ）
- x.v.Color、sYCC601 color、Adobe RGB color、Adobe YCC601color（☞81、82 ページ）
- HD デジタルオーディオフォーマット
- ARC（Audio Return Channel）
- Content Type
- CEC（HDMI コントロール）

著作権保護システムについて
HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声を再生するためには、プレーヤーとテレビ、プレーヤーと AV アンプなどの双方が HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection System）と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は、HDCP に対応しています。 • HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力しません。お手持ちのテレビやプレーヤーなどについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

HDMI ケーブルについて

- Deep Color 対応の機器を接続するときは、“ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。
- ARC 機能を使用するときは、HDMI1.4a 対応の“イーサネット対応標準 HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”で接続してください。

HDMI コントロール機能（☞42 ページ）

本機で外部機器を操作したり、外部機器から本機を操作することができます。

ご注意

- 接続する機器や設定によって、HDMI コントロール機能がはたらかない場合があります。
- HDMI コントロール機能に対応していないテレビやブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーは操作できません。

3D 機能について

本機は、HDMI1.4a 規格の 3D（3 次元）映像信号の入力 / 出力に対応しています。3D 映像の再生には本機の他に、HDMI1.4a 規格の 3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。また、3D 映像をご覧いただくには、別売りの 3D メガネが必要です。

ARC（Audio return channel）機能について

HDMI 1.4a の ARC 機能では、テレビからの音声信号を HDMI ケーブル経由で伝送することができます。

ご注意

- ARC 機能は、メニューの“HDMI Control”設定（☞61 ページ）が“ON”のときに設定できます。
- ARC 機能に対応していないテレビと接続する場合は、HDMI ケーブルの他に音声ケーブルが必要になります。このときの接続方法は、「テレビを接続する」（☞21 ページ）をご覧ください。

Content Type 機能について

HDMI 1.4a 規格で追加された機能です。この機能は、出力映像に適した設定を自動でおこないます。

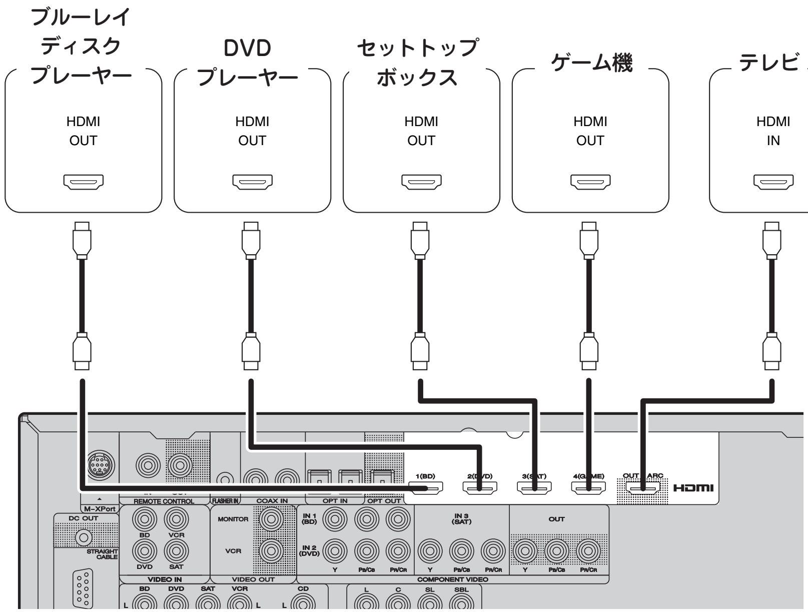
ご注意

Content Type 機能は、メニューの“Video Mode”設定（☞51 ページ）が“Auto”のときに動作します。

接続に使用するケーブル

音声＆映像ケーブル（別売り）
HDMI ケーブル

- デジタル映像信号とデジタル音声信号を HDMI ケーブル 1 本で伝送できるインターフェースです。



- 本機とプレーヤーを HDMI ケーブルで接続した場合は、本機とテレビも HDMI ケーブルで接続してください。
- Deep Color 対応の機器を接続するときは、“ハイスピード HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。
- プレーヤーの解像度は、テレビが対応している解像度に合わせてください。プレーヤーとテレビの解像度が合っていない場合、映像は出力されません。
- 本機とテレビを HDMI ケーブルで接続しても、テレビが HDMI 音声の再生に対応していない場合は、映像信号のみをテレビに出力します。

ご注意

HDMI 出力端子からの音声信号（サンプリング周波数、チャンネル数など）は、相手側の機器が入力できる HDMI 音声の仕様に制限されることがあります。

DVI-D 端子付きの機器に接続するとき

HDMI/DVI 変換ケーブル（別売り）をご使用になると、HDMI の映像信号を DVI 信号に変換して、DVI-D 端子付きの機器に接続することができます。

ご注意

- DVI-D 端子付きの機器と接続する場合、音声は出力されません。音声の接続をおこなってください。
- HDCP に対応していない DVI-D 機器には出力できません。
- 機器の組み合わせによって、映像が出力されない場合があります。

❑HDMI 接続に関する設定

必要に応じて設定してください。詳しくは、各参照ページをご覧ください。

Input Assign（☞50 ページ）

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定してください。

HDMI Setup（☞61 ページ）

HDMI の入出力信号に関する設定をします。

- Auto Lip Sync
- HDMI Audio Out
- HDMI Control
- Standby Source
- Power Off Control

ご注意

HDMI 入力端子から音声信号が入力された場合のみ、HDMI モニター出力端子から音声を出力します。

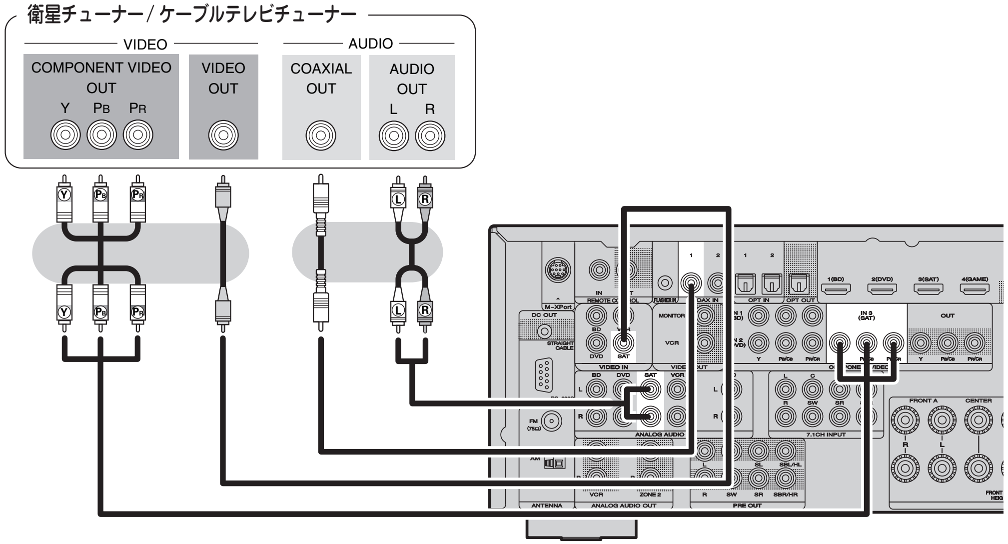
セットトップボックス（衛星チューナー / ケーブルテレビチューナー）を接続する

- 衛星チューナーやケーブルテレビチューナーの映像を楽しむことができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞18 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）
コンポーネントビデオケーブル	（緑） Y （青） PB （赤） PR

音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	（白） L （赤） R
同軸デジタルケーブル	（黒）



必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子またはコンポーネントビデオ入力端子を変更するときに設定します。
"Input Assign"（☞50 ページ）

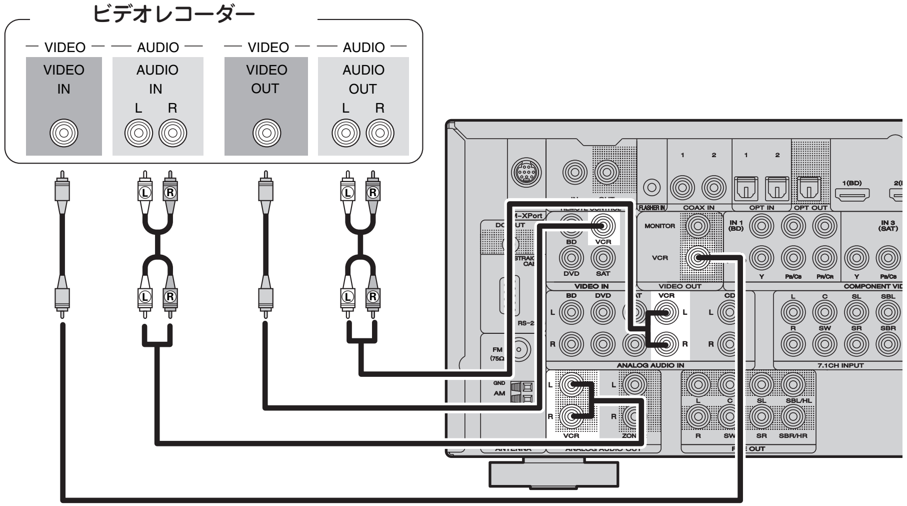
ビデオレコーダーを接続する

- ビデオカセットテープに映像を録画することができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）

音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	（白） L （赤） R



必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子またはコンポーネントビデオ入力端子を変更するときに設定します。
"Input Assign"（☞50 ページ）

ご注意

本機を通して録画するときは、本機と再生機器の接続と、本機とレコーダーの接続に、同じ種類の映像ケーブルを使用してください。

テレビを接続する

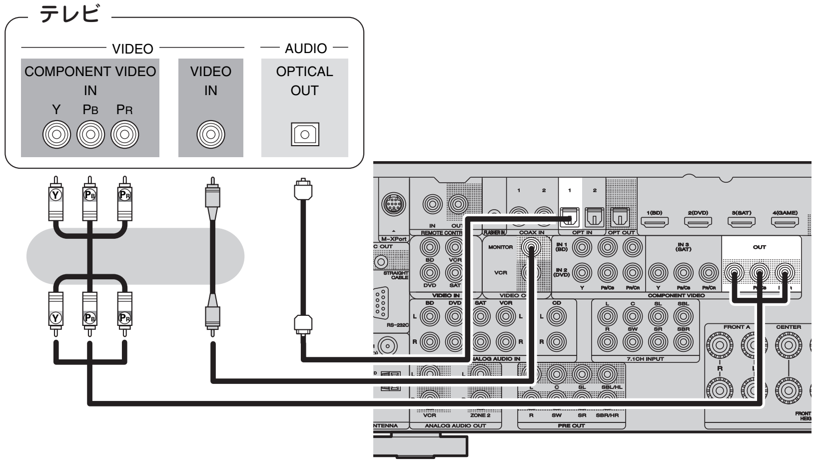
本機を通してテレビの音声を聞く場合は、デジタル出力端子（OPTICAL）に接続してください。

ご注意

本機に ARC（HDMI 1.4a 標準機能）対応のテレビを接続した場合、この接続は不要です。詳しくは、「ARC（Audio return channel）機能について」（☞19 ページ）またはテレビの取扱説明書をご覧ください。
接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
映像機器を接続する際には、「入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）」（☞17 ページ）をご覧ください。
HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞18 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）
コンポーネントビデオケーブル	（緑）（青）（赤）
音声ケーブル（別売り）	
光伝送ケーブル	



必要に応じて設定してください

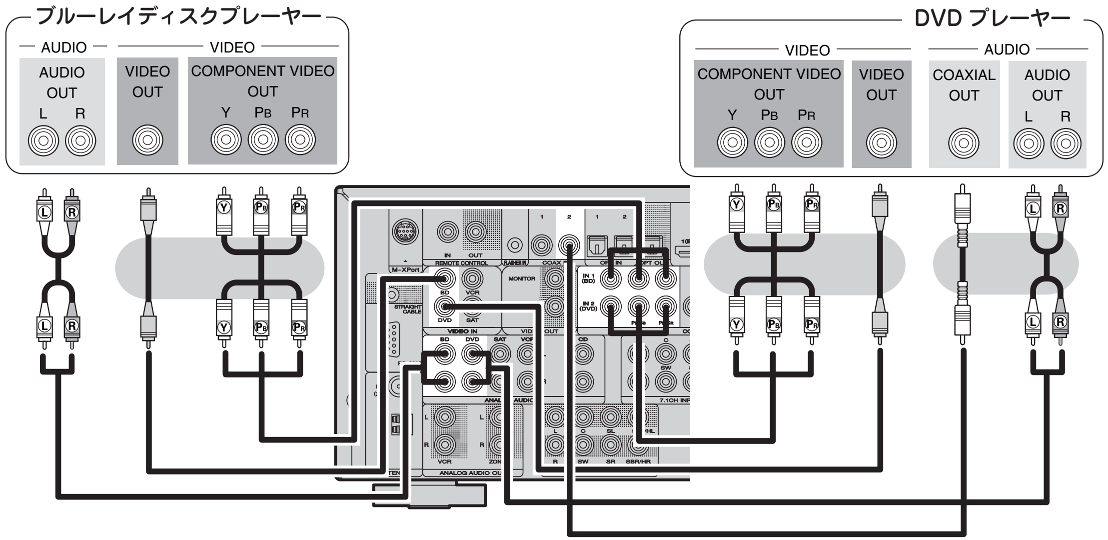
入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子またはコンポーネントビデオ入力端子を変更するときに設定します。
"Input Assign"（☞50 ページ）

ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーを接続する

- ブルーレイディスクや DVD の映像や音楽を楽しむことができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞18 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）
コンポーネントビデオケーブル	（緑）（青）（赤）
音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	（白）（赤）
同軸デジタルケーブル	（黒）



必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子またはコンポーネントビデオ入力端子を変更するときに設定します。
"Input Assign"（☞50 ページ）

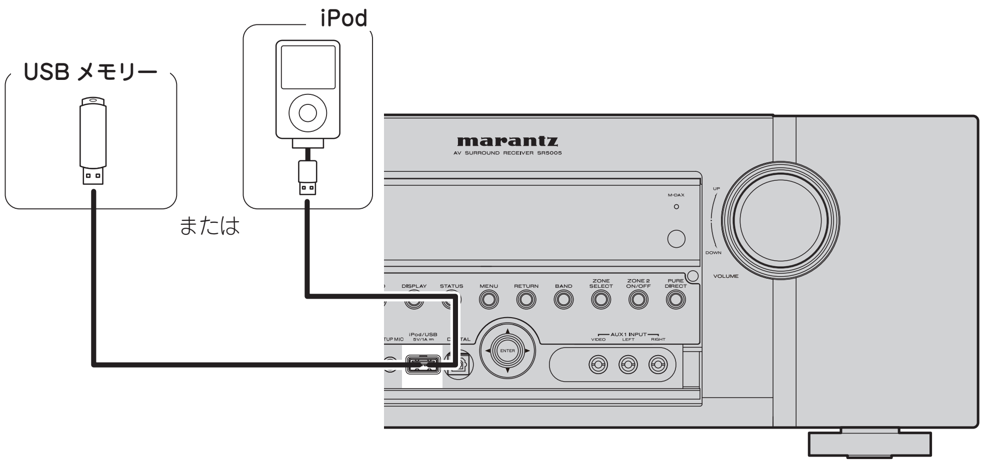
HD オーディオ（Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus および DTS Express）を再生する場合は、HDMI で接続してください（☞18 ページ「HDMI 端子付きの機器を接続する」）。

USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する

iPod や USB メモリー内の音楽を楽しむことができます。

接続に使用するケーブル

本機と iPod を接続するときは、iPod に付属の USB ケーブルをご使用ください。



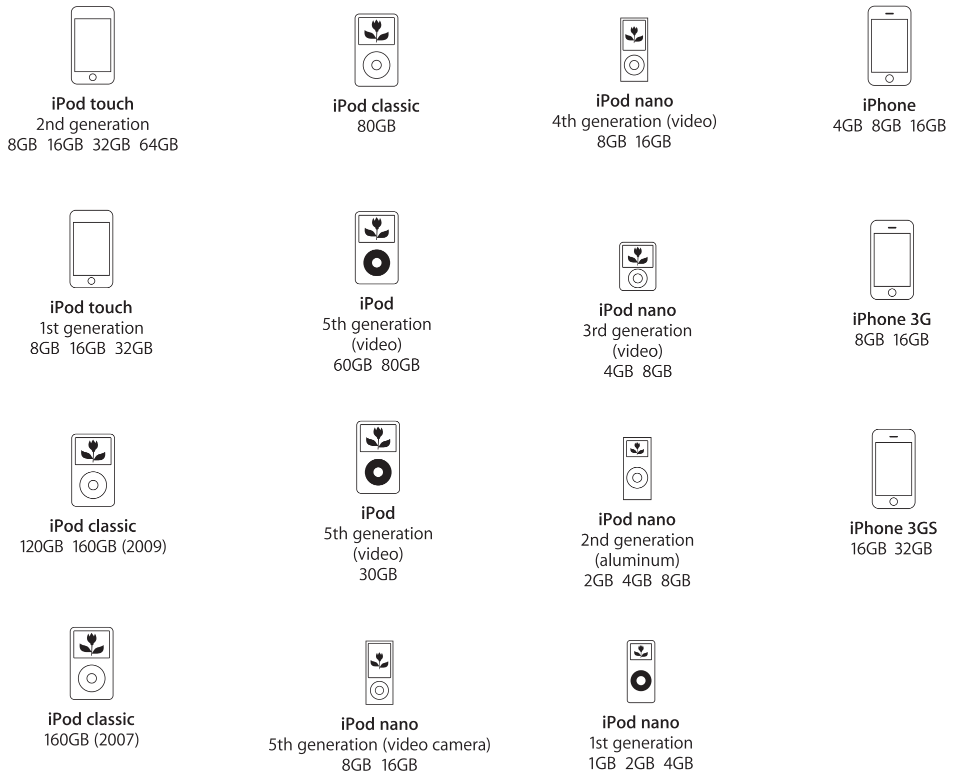
すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものをお使いになる場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。

ご注意

- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。
- USB メモリーを接続するときに、延長ケーブルを使用しないでください。他の機器に電波障害を引き起こす場合があります。

対応 iPod

Made for
- iPod touch（第 2 世代）
- iPod touch（第 1 世代）
- iPod classic
- iPod with video
- iPod nano（第 5 世代）
- iPod nano（第 4 世代）
- iPod nano（第 3 世代）
- iPod nano（第 2 世代）
- iPod nano（第 1 世代）
- iPhone
- iPhone 3G
- iPhone 3GS

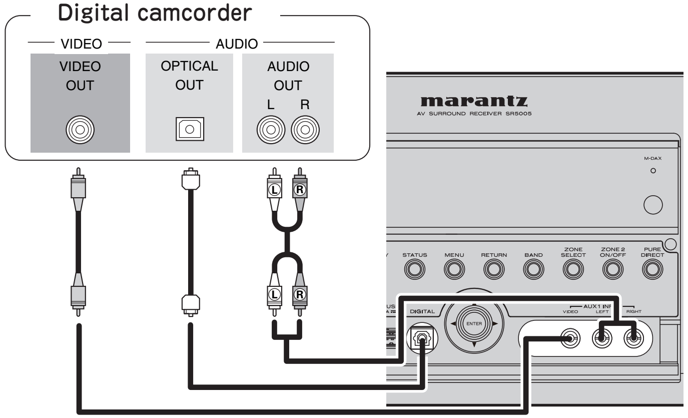


ビデオカメラを接続する

- ビデオカメラの映像や音声を楽しむことができます。
- 本機の AUX1 入力端子にゲーム機を接続してもゲームを楽しむことができます。このような場合は、入力ソースを“AUX1”に設定してください。

接続に使用するケーブル

Video cable (sold separately)	
ビデオケーブル	（黄）
Audio cable (sold separately)	
オーディオケーブル	（白）（赤）
光伝送ケーブル	



ご注意

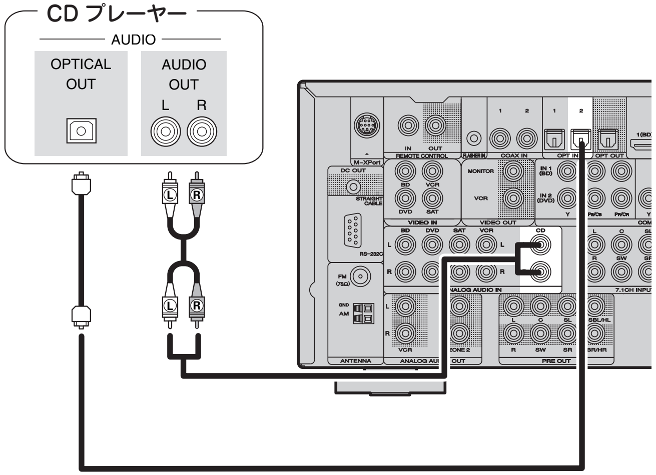
ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能がはたらかない場合があります。このような場合は、入力と同じ端子のモニター出力をご使用ください。

CD プレーヤーを接続する

- CD を楽しむことができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。

接続に使用するケーブル

音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	（白）（赤）
光伝送ケーブル	



必要に応じて設定してください

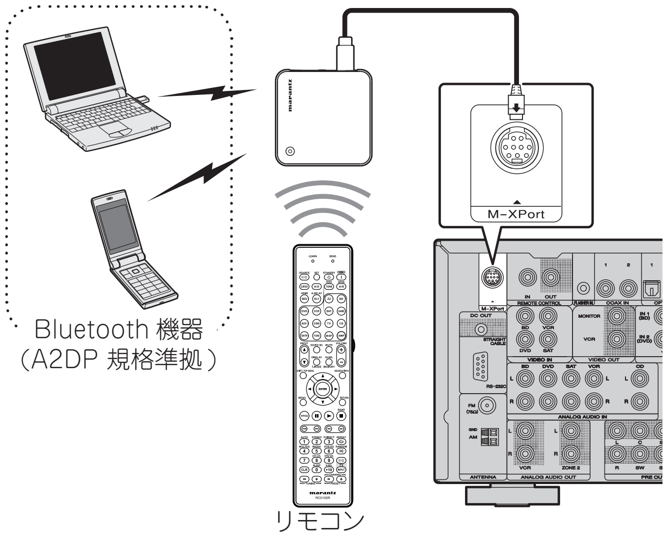
入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子を変更するときに設定します。
“Input Assign”（☞50 ページ）

ワイヤレスレシーバー（RX101）を接続する

本機にワイヤレスレシーバー RX101（別売り）を接続すると、Bluetooth 通信機能により、本機は他の機器の音声信号を受信して再生します。

- A2DP 規格に準拠した Bluetooth 機器をお使いください（☞81 ページ「A2DP 規格」）。
- ワイヤレスレシーバー RX101 は外部の赤外線受光器としても使用することができます。
- ワイヤレスレシーバー側の設定も必要です。詳しくは、ワイヤレスレシーバー RX101 の取扱説明書をご覧ください。

ワイヤレスレシーバー RX101

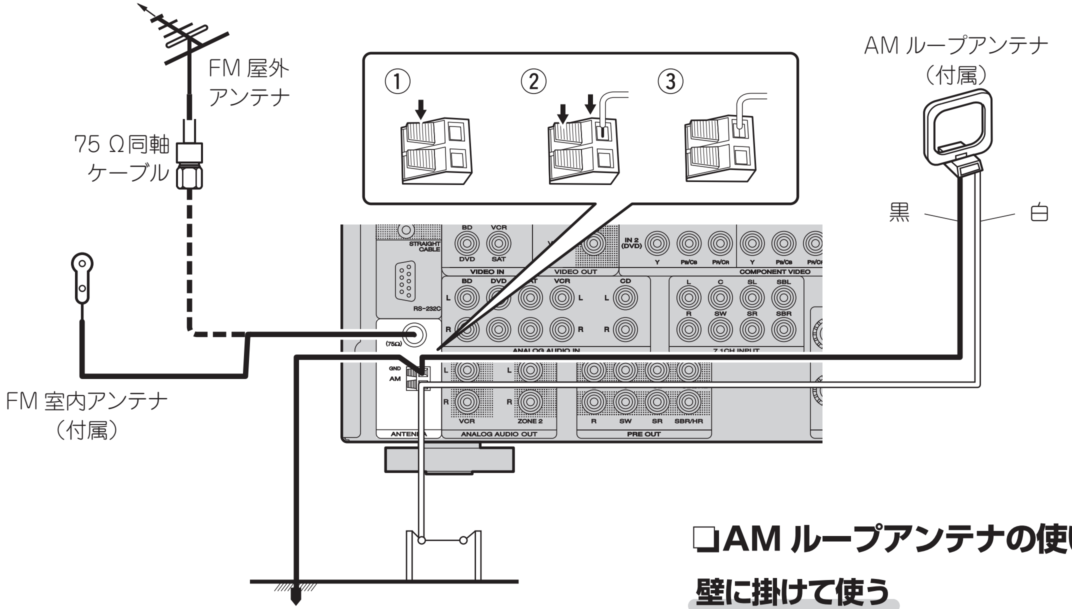


ご注意

ワイヤレスレシーバー RX101 を外部の赤外線受光器としてお使いになる場合、本機のリモコン信号受光機能を“DISABLE”に設定してください（☞65 ページ「リモートコントロールの設定」）。

アンテナを接続する

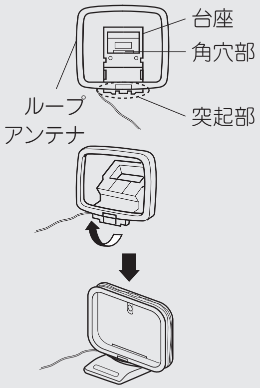
- 本機に付属の FM アンテナや AM ループアンテナを接続すると、ラジオ放送を楽しむことができます。
- アンテナを接続した後に放送を受信し（☞29 ページ「FM/AM 放送局を聴く」）、雑音の少ない位置にテープなどで固定してください。



❏AM ループアンテナの組み立てかた

1 台座部をループアンテナの後ろから、ループアンテナの下を通して、手前に曲げる。

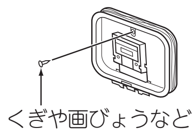
2 突起部を台座の角穴部に、差し込む。



❏AM ループアンテナの使いかた

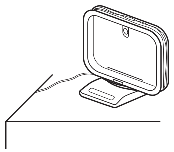
壁に掛けて使う

組み立てずにそのままお使いください。



置いて使う

図のように組み立ててお使いください。

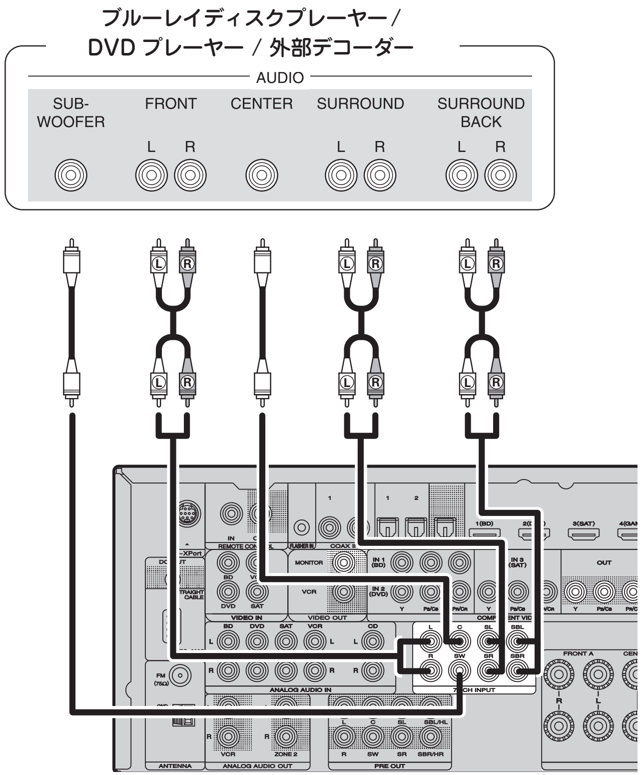


ご注意

- 2 つの FM アンテナを同時に接続しないでください。
- AM ループアンテナ線がリアパネルやねじに接触していないかご確認ください。
- AM や FM の受信感度はアンテナの設置場所や設置方向によって変わります。最もよく受信できるところに設置してください。
- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

マルチチャンネル出力端子がある機器

映像信号はブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーと同じ方法で接続することができます。（☞21 ページ「ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーを接続する」）



必要に応じて設定してください

外部入力端子（7.1CH INPUT）から入力されたアナログ信号を再生する場合は、メニューの“Input Mode”（☞52 ページ）を“7.1CH INPUT”に設定してください。“7.1CH INPUT”はリモコンの **A/D** を押しても選択できます。

- 外部入力端子（7.1CH INPUT）の SBL/SBR 端子に機器を接続するときは、“Amp Assign”（☞58ページ）を“Normal”に設定してください。

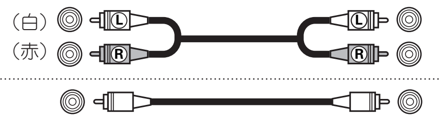
外部のパワーアンプと接続する

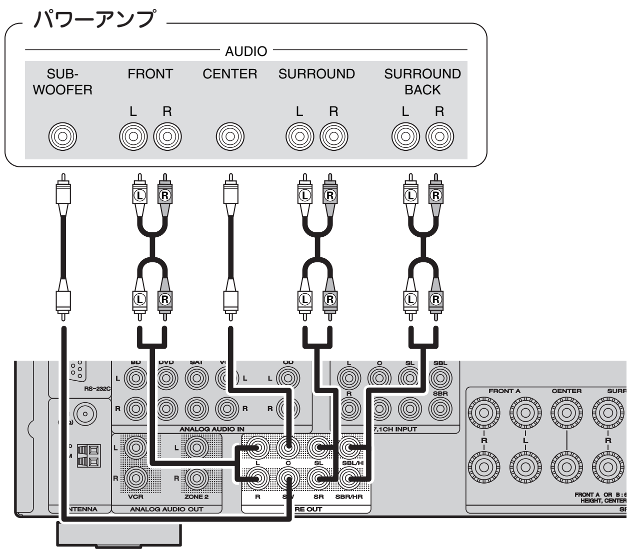
- 市販のパワーアンプを本機の PRE OUT 端子に接続すると、本機をプリアンプとして使用することができます。各チャンネルにパワーアンプを追加することで、さらにサウンドの臨場感を高めることができます。
- ご使用になる端子を選んで接続してください。

接続に使用するケーブル

音声ケーブル（別売り）

オーディオケーブル





- サラウンドバックスピーカーを 1 本のみご使用になる場合は、左チャンネル（L）に接続してください。
- サブウーハーの音量は、ご使用のサブウーハー側で調節してください。
- サブウーハーの音量が小さく感じられる場合は、サブウーハーに装備されている音量調節機能を使用して音量を調節してください。

ご注意

- プリアウト端子に市販のパワーアンプを接続してお使いになる場合は、本機のスピーカー端子にはスピーカーを接続しないでください。
- メニューの“Amp Assign”（☞58ページ）の設定により、PRE OUT 端子の SBL と SBR 端子から出力されるチャンネルが変わります。

- ❑ 入力ソースを選ぶ（☞26 ページ）
- ❑ 主音量を調節する（☞26 ページ）
- ❑ 一時的に音を消す（ミューティング）（☞26ページ）

- ❑ ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーを再生する（☞27 ページ）
- ❑ CD プレーヤーを再生する（☞27 ページ）
- ❑ iPod® を再生する（☞27 ページ）
- ❑ USB メモリーを再生する（☞28 ページ）
- ❑ ラジオ放送局を受信する（☞29 ページ）

リスニングモードを選ぶ（サラウンドモード）（☞31 ページ）

再生のしかた（応用操作）（☞42 ページ）

知っておいてほしいこと

再生する前に、あらかじめ各機器との接続や本機の設定をおこなってください。

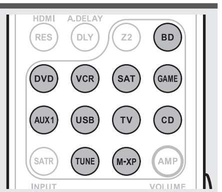
ご注意

再生するときは、接続した機器の取扱説明書もご覧ください。

入力ソースを選ぶ

再生する入力ソース選択ボタン（BD, DVD, VCR, SAT, GAME, AUX1, USB, TV, CD, TUNE, M-XP）を 2 回押す。

入力ソースをダイレクトに選べます。



次の操作方法でも入力ソースを選ぶことができます。

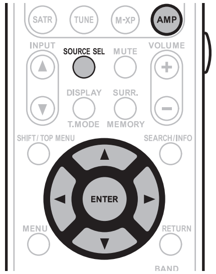
❑"Source Select" メニューを使用する

① **AMP** を押したあとに **SOURCE SELECT** を押す。
"Source Select" メニューを表示します。

```
Source Select

 BD          USB
 DVD         TV
 VCR         CD
 SAT         TUNER
 GAME        M-XPort
 AUX1
[▲▼◀▶]:Source
[ENT]:Select
```

現在選択中の入力ソースをハイライトで表示します。



② △▽◁ ▷ を押して入力ソースを選び、**ENTER** を押す。
入力ソースを確定し、"Source Select" メニューを終了します。

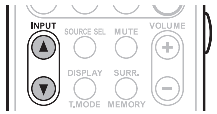
✎

- 本機の USB 端子に直接 iPod を接続してご使用になる場合は、入力ソースの"USB"を選んでください。
- 使用しない入力ソースをあらかじめ設定することができます。
"Source Delete"（☞62 ページ）で設定してください。
- 入力ソースを選ばずに"Source Select" メニューを終了させる場合は、もう一度 **SOURCE SELECT** を押してください。

❑リモコンで操作する

INPUT ▲ ▼ を押す。

- **INPUT ▲ ▼** を押すと、入力ソースが下記の順序で切り替わります。

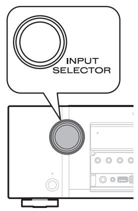


BD ↔ DVD ↔ VCR ↔ SAT ↔ GAME ↔ AUX1 ↔
M-XPort ↔ TUNER ↔ CD ↔ TV ↔ USB ↔

❑本体で操作する

INPUT SELECTOR を回す。

- **INPUT SELECTOR** を回すと、入力ソースが次の順序で切り替わります。



BD ↔ DVD ↔ VCR ↔ SAT ↔ GAME ↔ AUX1 ↔
M-XPort ↔ TUNER ↔ CD ↔ TV ↔ USB ↔

主音量を調節する

VOLUME + – を押して、音量を調節する。

- メニューの"Volume Display"（☞62 ページ）の設定により、音量の表示値が異なります。



❑ "Volume Display"の設定（☞62 ページ）が"Relative"のとき

【調節できる範囲】 – – – –80.5dB ~ 18.0dB

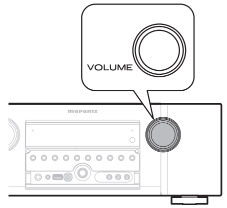
❑ "Volume Display"の設定（☞62 ページ）が"Absolute"のとき

【調節できる範囲】 0.0 ~ 99.0

- 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。

✎

本体の **VOLUME** を回しても、主音量を調節できます。



一時的に音を消す（ミューティング）

MUTE を押す。

メニューの"Mute Level"（☞62 ページ）で設定したレベルまで音量が減衰します。



✎

ミューティングを解除するときは、もう一度 **MUTE** を押してください。主音量を調節しても解除できます。

ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーを再生する



1 **再生の準備をする。**
① テレビやサブウーハー、プレーヤーの電源を入れる。
② テレビの入力を、本機の入力に設定する。
③ プレーヤーにディスクを入れる。

2 **ON を押して、本機の電源を入れる。**

3 **BD または DVD を 2 回押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。**

4 **ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーを再生する。**

- あらかじめプレーヤーの設定（言語設定や字幕設定など）をおこなってください。

CD プレーヤーを再生する



1 **再生の準備をする。**
① サブウーハーやプレーヤーの電源を入れる。
② プレーヤーにディスクを入れる。

2 **ON を押して、本機の電源を入れる。**

3 **CD を 2 回押して、入力ソースを“CD”に切り替える。**

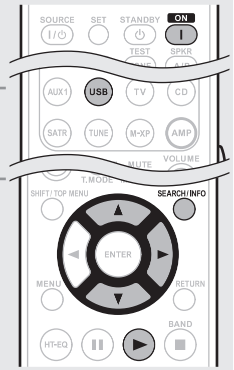
4 CD プレーヤーを再生する。

iPod® を再生する

iPod® の音楽を聴く

iPod® に付属の USB ケーブルを使用して、iPod を本機の USB 端子に接続すると、iPod の音楽を楽しむことができます。

1 **iPod® に付属の USB ケーブルを使用して、iPod を本機の USB 端子に接続する（☞22 ページ「USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する」）。**



2 **ON を押して、本機の電源を入れる。**

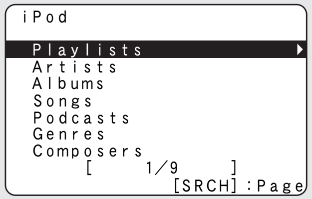
3 **USB を 2 回押して、入力ソースを“USB”に切り替える。**

4 **SEARCH を 2 秒以上長押しして、表示モードを選ぶ。**

- iPod のデータを表示するモードは 2 つあります。

リモートモード iPod の情報をテレビ画面に表示させて操作するモードです。

- 本機のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。
  対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。
- “リモートモード” のとき、iPod の画面表示は右図のようになります。





ご注意

画面が表示されない場合は、iPod が正しく接続されていない可能性があります。接続をやり直してください。

ダイレクトモード iPod に表示される画面を見ながら、直接 iPod 本体を操作するモードです。

- 本機のディスプレイに“Direct iPod”を表示します。
- 本機は、iPod の第 5 世代および iPod nano の第 1 世代には対応していません。

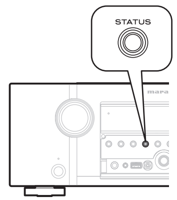
表示モード		リモートモード	ダイレクトモード
再生できるファイル	音声ファイル	✓	✓
	動画ファイル		＊
操作できるボタン	本機のリモコン	✓	✓
	iPod®		✓

＊ 音声のみ再生します。

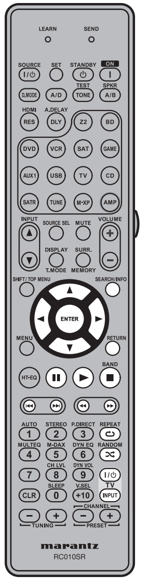
5 **△▽ を押して項目を選び、ENTER または ▷ を押して再生したいファイルを選ぶ。**

6 **ENTER、▷ または ▶ を押す。**
再生をはじめます。

- メニューの“USB”（☞63 ページ）で、iPod画面の表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定できます。△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- M-DAX モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生ができます（☞57 ページ）。お買い上げ時は、“OFF”に設定しています。
- リモートモードで再生中に **STATUS** ボタンを押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認できます。



❑iPod 再生時に使用できるボタン



操作ボタン	機能
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SEARCH（短押し）	ページ検索モード
SEARCH（長押し）	リモートモードとダイレクトモードの切り替え
RETURN	リターン
◀◀ ▶▶（長押し）	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生 / 一時停止
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
II	一時停止
■	停止
REPEAT	リピート再生
RANDOM	シャッフル再生
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：Marantz）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：Marantz）

✎

リピート再生およびシャッフル再生は、メニューの“Input Setup” – “Playback Mode”（☞52ページ）でも設定できます。

ご注意

- iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一、iPod のデータが消失または損傷しても、当社は一切責任を負いません。

USB メモリーを再生する

USB メモリー内の音楽ファイルを再生できます。

知っておいてほしいこと

❑USB メモリーについて

本機の USB 端子に USB メモリーを接続すると、USB メモリー内の音楽ファイルを再生できます。

- 本機では、マスストレージクラスに対応している USB メモリーのみ再生できます。
- 本機は、FAT16 または FAT32 フォーマットに対応しています。

【 本機で再生できるフォーマット 】

	USB メモリー ＊1
WMA（Windows Media Audio）	✓＊2
MP3（MPEG-1 Audio Layer-3）	✓
MPEG-4 AAC	✓＊3
WAV	✓

＊1 USB メモリーについて
- MP3 ID3 タグ（バージョン 2）に対応しています。
- WMA META タグに対応しています。

＊2 著作権保護の無いファイルのみ再生できます。
＊3 著作権保護の無いファイルのみ再生できます。
パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

【 本機で再生できるフォーマット 】

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA（Windows Media Audio）	32/44.1/48 kHz	48～192 kbps	.wma
MP3（MPEG-1 Audio Layer-3）	32/44.1/48 kHz	32～320 kbps	.mp3
MPEG-4 AAC	32/44.1/48 kHz	16～320 kbps	.m4a
WAV	32/44.1/48 kHz	16 bit	.wav

USB メモリー内のファイルを再生する



1 **USB メモリーを USB 端子に接続する（☞22ページ「USB端子に iPod または USB メモリーを接続する」）。**

2 **USB を 2 回押して、入力ソースを“USB”に切り替える。**

3 **△▽ を押して検索項目またはフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。**

4 **△▽ を押してファイルを選び、ENTER、▷ または ▶ を押す。**
再生をはじめます。

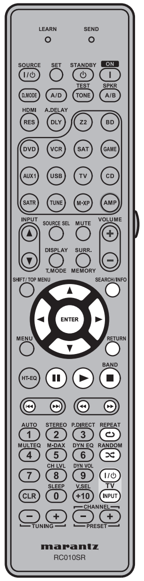
✎

- メニューの“USB”（☞63ページ）で、USB画面の表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定できます。△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- M-DAX モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生ができます（☞57ページ）。お買い上げ時は、“OFF”に設定しています。
- USB メモリーが複数のパーティションに分かれている場合は、先頭のパーティションのみ選べます。
- 本機で対応している MP3 ファイルの規格は、「MPEG-1 Audio Layer-3」です。

ご注意

- 本機に USB メモリーを接続して使用しているときに、万一 USB メモリーのデータが消失または損傷した場合、当社は一切責任を負いません。
- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものをお使いになる場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。

❑USB メモリー再生時に使用できるボタン



操作ボタン	機能
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SEARCH	ページの検索
RETURN	リターン
◀◀ ▶▶（長押し）	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生 / 一時停止
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
II	一時停止
■	停止
REPEAT	リピート再生
RANDOM	シャッフル再生
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：Marantz）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：Marantz）

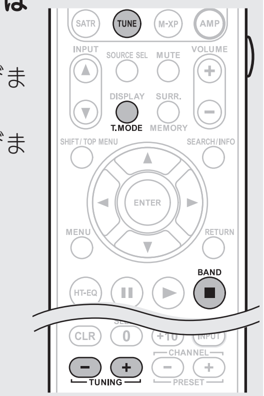
リピート再生およびシャッフル再生は、メニューの“Input Setup” – “Playback Mode”（☞52 ページ）でも設定できます。

ラジオ放送局を受信する

FM/AM 放送局を聴く

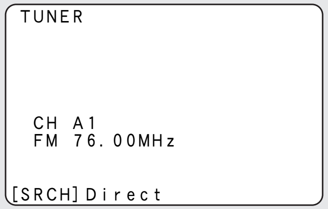
1 **TUNER を 2 回押して、入力ソースを“TUNER”に切り替える。**

2 **BAND を押して、“FM” または“AM”を選ぶ。**



FM FM 放送局を聴くときに選びます。

AM AM 放送局を聴くときに選びます。



3 **放送局を受信する。**

オートチューニング 自動で放送局を受信します。

① **T.MODE** を押して、ディスプレイの“AUTO”表示を点灯させる。

② **TUNING +** または **TUNING –** を押して、聴きたい放送局を選ぶ。

マニュアルチューニング 手動で放送局を受信します。

① **T.MODE** を押して、ディスプレイの“AUTO”表示を消灯させる。

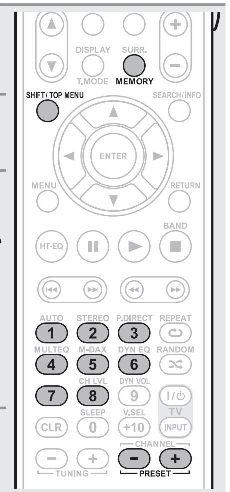
② **TUNING +** または **TUNING –** を押して、聴きたい放送局を選ぶ。

- オートチューニングで聴きたい放送局を受信できない場合は、マニュアルチューニングで放送局を受信してください。
- マニュアルチューニング中に **TUNING +** または **TUNING –** を押し続けると、連続的に受信周波数が変わります。
- メニューの“TUNER”（☞63 ページ）で、TUNER 画面の表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定できます。△▽◁ ▷を押すと、元の画面に戻ります。

❑手動でラジオ放送を選局しプリセットする（マニュアルプリセット）

手動でお好みの放送を選局し、プリセットします。
最大 56 局までプリセットできます。

- **メニューの“Auto Preset”（☞49 ページ）をおこなうと、自動で放送局をプリセットできます。**ただし、マニュアルプリセット後に“Auto Preset”をおこなった場合、マニュアルプリセットで設定した放送局は上書きされます。



1 **プリセットしたい放送局を受信する。**

2 **MEMORY を押す。**

3 **SHIFT/TOP MENU を押して、プリセットしたいブロック（A ～ G）とチャンネル（1 ブロックあたり 1 ～ 8）を選ぶ。その後、PRESET +、PRESET – または 1 ~ 8 でプリセット番号を選ぶ。**

4 **もう一度 MEMORY を押して、設定を確定する。**

- 続けて他の放送局をプリセットする場合は、手順 1 ～ 4 をおこなってください。

お買い上げ時の設定

ブロック（A ～ G）および チャンネル（1 ～ 8）	お買い上げ時の設定
A1 ～ A8	76.0/83.0/89.0/90.0/90.0/90.0/90.0/90.0MHz
B1 ～ B8	522/603/999/1404/1629kHz, 90.0/90.0/90.0MHz
C1 ～ C8	90.0MHz
D1 ～ D8	90.0MHz
E1 ～ E8	90.0MHz
F1 ～ F8	90.0MHz
G1 ～ G8	90.0MHz

プリセットした放送局に名前をつける（Preset Name）（☞49 ページ）

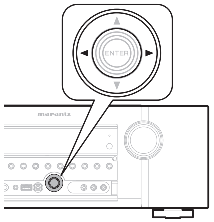
❑プリセットした放送局を聞く

1 **SHIFT/TOP MENU** を押して、プリセットしたブロック（A～G）を選ぶ。

2 **PRESET +**，**PRESET –** または **1 ~ 8** でプリセットしたチャンネルを選ぶ。



本体で操作する場合は、次のようにおこなってください。
◁ ▷ を押して、プリセットした放送局を選ぶ。



❑ダイレクトに放送局を受信する

ダイレクトに周波数を入力し、放送局を受信します。

1 **SEARCH/INFO** を押す。

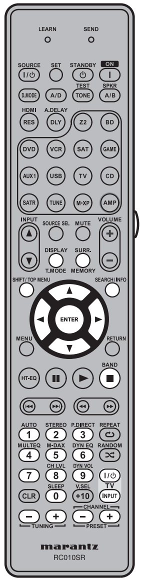
2 **0 ~ 9** を押して、周波数を入力する。

- ◁ を押すと、1 つ前に入力した周波数を取り消すことができます。

3 入力が完了したら、**ENTER** を押す。
放送局を受信します。



❑FM/AM 放送を受信時に使用できるボタン



操作ボタン	機能
PRESET +, –	プリセットチャンネルの選択
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SEARCH	ダイレクト選局
BAND	FM/AM 受信バンドの切り替え
T.MODE	サーチモードの切り替え
TUNING +, –	選局（アップ / ダウン）
0 ~ 9	プリセットチャンネルの選択（1～8）/ ダイレクト選局（0～9）
SHIFT	プリセットチャンネルブロックの選択
MEMORY	プリセットチャンネルの登録
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：Marantz）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：Marantz）

リスニングモードを選ぶ（サラウンドモード）

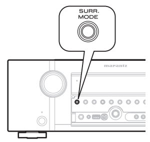
本機は、本機に入力される音声信号を、マルチチャンネルサラウンドやステレオで再生することができます。
再生するコンテンツ（映画や音楽など）やお好みに合わせて、リスニングモードを選んでください。

リスニングモードについて

入力音声信号	再生	リスニングモード	
2チャンネル ⇨ マルチチャンネル ⇨	サラウンド ⇨	マルチチャンネル再生（☞31ページ）	【2チャンネル信号を入力しているとき】 • サラウンドチャンネルの信号を生成してサラウンド再生をします。 【マルチチャンネル信号を入力しているとき】 • ソースに収録されているサラウンド信号のままサラウンド再生をします。（メニューの"Speaker Config."（☞58ページ）のスピーカーサイズの設定に合わせて再生します。） • ソースに収録されていないサラウンドバックチャンネルやフロントハイトチャンネルの信号を生成することもできます。
2チャンネル ⇨ マルチチャンネル ⇨	ステレオ ⇨	ステレオ再生（☞33ページ）	• マルチチャンネル信号を入力しているときは、2チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。 • サブウーハー信号も出力します。
2チャンネル ⇨ マルチチャンネル ⇨	ステレオ ⇨ サラウンド ⇨	ダイレクト再生（☞33ページ）	ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。 • サラウンドバック信号やフロントハイト信号は生成しません。 • このモードのとき、次の設定はできません。 • Tone（☞54ページ） • MultEQ®（☞55ページ） • Dynamic EQ®（☞55ページ） • Dynamic Volume®（☞56ページ） • M-DAX（☞57ページ）
2チャンネル ⇨ マルチチャンネル ⇨	バーチャルサラウンド ⇨	ドルビーバーチャルスピーカー／ドルビーヘッドホン再生（☞33ページ）	2チャンネルまたはマルチチャンネルの入力信号に対して仮想サラウンド処理をおこない再生します。

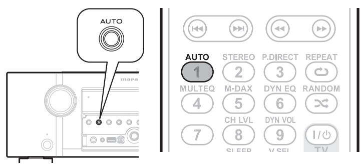
✎

• 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。詳しくは「入力信号の種類と対応するサラウンドモード」（☞79ページ）をご覧ください。
• メニューの"Surround Parameter"（☞53ページ）で音場効果を調整すると、よりお好みのサウンドでお楽しみいただけます。
• リスニングモードは、本体の **SURROUND MODE** ボタンを押しても選択できます。
SURROUND MODE を押すと、次の順序でモードが切り替わります。



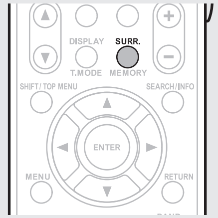
→ AUTO*(STEREO) → STEREO → DOLBY PLIIz → DOLBY PLII(x) Movie → DOLBY PLII(x) Music → DOLBY PLII(x) Game → DTS NEO:6 cinema → DTS NEO:6 music → MULTI CH STEREO → NEURAL → DOLBY VIRTUAL →

＊"AUTO"は、本体またはリモコンの **AUTO** を押しても選べます。



マルチチャンネル再生

❑2チャンネルのソースをサラウンド再生する



1 **機器を再生する**
（☞27～28ページ）。

2 **SURR. を押して、2チャンネル信号からマルチチャンネル音声を生成するためのサラウンドデコーダーを選ぶ。**

• **SURR.** を押すたびに、サラウンドモードが切り替わります。
選択できるデコーダーは、メニューの"Amp Assign"（☞58ページ）または"Speaker Config."（☞58ページ）の設定によって異なります。

DOLBY PLIIz ＊1 フロントハイトスピーカーを使用して、7.1チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。
• "PLIIz Height"を表示します。

DOLBY PLIIx ＊2 サラウンドバックスピーカーを使用して、7.1チャンネルまたは6.1チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。
• "PLIIx Movie"、"PLIIx Music" または "PLIIx Game"を表示します。

DOLBY PLII 5.1チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。フロントハイトスピーカーやサラウンドバックスピーカーを使用しないときに選びます。
• "PLII Movie"、"PLII Music"、"PLII Game"または"Pro Logic"を表示します。

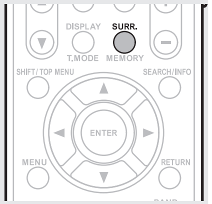
DTS NEO:6 サラウンドバックスピーカーを使用して、7.1チャンネル、6.1チャンネルまたは5.1チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。
• "DTS NEO:6 Cinema" または"DTS NEO:6 Music"を表示します。

MULTI CH STEREO すべてのスピーカーでステレオサウンドの再生をおこなうモードです。

NEURAL ＊3 サラウンドバックスピーカーから出力する音声を生成して、7.1チャンネル、6.1チャンネルまたは5.1チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。
• "NEURAL"を表示します。

＊1 メニューの"Amp Assign"設定(☞58ページ)が"Front Height"のとき、および"Speaker Config."⇨"Front Height"設定(☞59ページ)が"None"以外のときに選べます。
＊2 メニューの"Amp Assign"設定(☞58ページ)が"Normal"のとき、および"Speaker Config."⇨"S.Back"設定(☞59ページ)が"None"以外のときに選べます。
＊3 アナログ2チャンネルの音声、リニアPCMの2チャンネル(44.1KH z、48KH z)音声に対応しています。

❏マルチチャンネルのソースをサラウンド再生する(ドルビーデジタル、DTS、AAC など)



1 **機器を再生する**
(☞27～28ページ)。

2 **SURR. を押して、マルチチャンネル音声を再生するためのサラウンドデコーダーを選ぶ。**

- ディスプレイ表示を見ながらサラウンドモードを選んでください(☞ 右表"再生中のサラウンドモードの表示")。
- 選択できるデコーダーは、入力信号やメニューの"Amp Assign"(☞58ページ)、"Speaker Config."(☞58ページ)の設定によって異なります。

再生中のサラウンドモードの表示

【ディスプレイ表示について】

DOLBY D + + PLⅡx C
❶ ❷

❶ 使用するデコーダーをあらわします。
- DOLBY DIGITAL Plus デコーダーは、"DOLBY D +"と表示します。

❷ サラウンドバックスピーカーから出力する音声を生成するデコーダーをあらわします。
- "+ PLⅡz" はフロントハイトスピーカーからのフロントハイト音声をあらわします。

✎

各サラウンドモードのときに再生できる入力信号については、「サラウンドモードとパラメーター一覧表」(☞77ページ)をご覧ください。

入力信号	サラウンドモード処理	ディスプレイ表示
DOLBY DIGITAL (2チャンネル以外)/ DOLBY DIGITAL EX	DOLBY DIGITAL	DOLBY DIGITAL
	DOLBY DIGITAL EX	DOLBY DIGITAL EX
	DOLBY DIGITAL + PLⅡx Movie	□□D+ PLⅡx Movie
	DOLBY DIGITAL + PLⅡx Music	□□D+ PLⅡx Music
	DOLBY DIGITAL + PLⅡz	DOLBY D + PLⅡz
DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL +
	DOLBY DIGITAL Plus + EX	DOLBY D + + EX
	DOLBY DIGITAL Plus + PLⅡx Movie	□□D + + PLⅡx Mv
	DOLBY DIGITAL Plus + PLⅡx Music	□□D + + PLⅡx Ms
	DOLBY DIGITAL Plus + PLⅡz	DOLBY D + + PLⅡz
DOLBY TrueHD	DOLBY TrueHD	DOLBY TrueHD
	DOLBY TrueHD + EX	DOLBY HD +EX
	DOLBY TrueHD + PLⅡx Movie	□□HD +PLⅡx Mv
	DOLBY TrueHD + PLⅡx Music	□□HD +PLⅡx Ms
	DOLBY TrueHD + PLⅡz	DOLBY HD +PLⅡz
DTS (5.1チャンネル)/ DTS-ES Discrete 6.1/ DTS-ES Matrix 6.1 / DTS 96/24	DTS SURROUND	DTS SURROUND
	DTS + PLⅡx Movie	DTS + PLⅡx Mv
	DTS + PLⅡx Music	DTS + PLⅡx Ms
	DTS + PLⅡz	DTS + PLⅡz
	DTS + NEO:6	DTS + NEO:6
	DTS ES MTRX6.1	DTS ES MTRX6.1
	DTS ES DSCRT6.1＊1	DTS ES DSCRT6.1
	DTS 96/24＊2	DTS 96/24
DTS-HD	DTS-HD HI RES	DTS-HD HI RES
	DTS-HD MSTR	DTS-HD MSTR
	DTS-HD + NEO:6	DTS-HD + NEO:6
	DTS-HD + PLⅡx Movie	DTS-HD + PLⅡx Mv
	DTS-HD + PLⅡx Music	DTS-HD + PLⅡx Ms
	DTS-HD + PLⅡz	DTS-HD + PLⅡz
	DTS Express	DTS Express
MPEG-2 AAC	MPEG2 AAC	MPEG2 AAC
	AAC + Dolby EX	AAC + Dolby EX
	AAC + PLⅡx Movie	AAC + PLⅡx Mv
	AAC + PLⅡx Music	AAC + PLⅡx Ms
	AAC + PLⅡz Height	AAC + PLⅡz
PCM (マルチチャンネル)	MULTI CH IN	MULTI CH IN
	MULTI IN + Dolby EX	MULTI +Dolby EX
	MULTI IN + PLⅡx Movie	MULTI IN +PLⅡx Mv
	MULTI IN + PLⅡx Music	MULTI IN +PLⅡx Ms
	MULTI IN + PLⅡz	MULTI IN +PLⅡz
	MULTI CH IN 7.1	MULTI CH IN 7.1
上記すべての信号	Dolby VIRTUAL SPEAKER	DOLBY VS
上記すべての信号 (2チャンネル)	NEURAL	NEURAL

＊1 入力信号が"DTS-ES Discrete 6.1"のときに表示します。
＊2 入力信号が"DTS 96/24" のときに表示します。

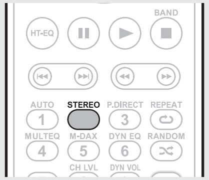
AAC ソースの再生について

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。
- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が"オフ" になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

ステレオ再生

音質調整ができるステレオ再生用のモードです。トーンを調節できます。

- フロントスピーカー（左 / 右）とサブウーハーから音声を出力します。
- マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。



1 **機器を再生する**
（☞27 ～ 28 ページ）。

2 **STEREO を押す。**
ステレオ再生をはじめます。

ダイレクト再生

ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。

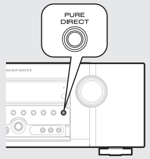
- サラウンドバック信号やフロントハイト信号は生成しません。
- このモードのとき、次の設定ができません。
  - Tone（☞54 ページ）
  - MultEQ®（☞55 ページ）
  - Dynamic EQ®（☞55 ページ）
  - Dynamic Volume®（☞56 ページ）
  - M-DAX（☞57 ページ）



1 **機器を再生する（☞27～28 ページ）。**

2 **P.DIRECT を押して、ダイレクトモードを選ぶ。**

- **PURE DIRECT** を押すたびにダイレクトモードが切り替わります。
- 本体の **PURE DIRECT** を押しても、リモコンと同じように操作できます。



Source Direct	音質調整回路を通さず、高音質で音楽再生をおこなうモードです。
Pure Direct *	最も原音に忠実な音楽再生をおこなうモードです。
Auto	入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的に対応するモードで音楽再生をおこないます。

＊音質に影響する次の回路の動作を停止します。
- 本体のディスプレイ表示回路（ディスプレイが消灯します。）
- アナログビデオ入出力回路

- ダイレクト再生モードを解除する場合は、もう一度 **P. DIRECT** を押してください。
- HDMI 信号を再生しているときは、ピュアダイレクト再生モードでも映像を出力します。

ご注意

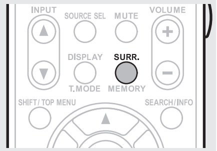
ピュアダイレクト再生モード中は、メニュー画面を表示しません。

ドルビーバーチャルスピーカー / ドルビーヘッドホン再生

ドルビーバーチャルスピーカモード

２本のステレオスピーカーでバーチャル化されたサラウンド音声を楽しむことができます。

- フロントスピーカー（左 / 右）から音声を出力します。
- マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

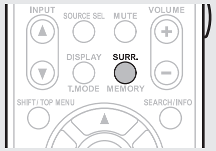


1 **機器を再生する（☞27～28 ページ）。**

2 **SURR. を押して“DOLBY VS”を選ぶ。**

ドルビーヘッドホンモード

ヘッドホンでマルチチャンネルサラウンド音声を楽しむことができます。



1 **ヘッドホンを接続する。**

2 **SURR. を押してドルビーヘッドホンモードを選ぶ。**

- **SURR.** を押すたびにドルビーヘッドホンモードが切り替わります。

DOLBY HEADPHONE	ヘッドホン再生におけるサラウンドモードです。サラウンド音場を通常のヘッドホンで再生します。
DOLBY HP BYPASS	ヘッドホン再生時にサラウンド再生せずに、通常のステレオ再生をします。
DOLBY HP PLⅡ Movie	映画ソースに最適なモードです。
DOLBY HP PLⅡ Music	音楽ソースに最適なモードです。

ご注意

- ヘッドホンをヘッドホン端子から外すと、サラウンドモードは以前の設定に戻ります。
- ドルビーヘッドホンモードは音質調整ができません。
- 2 チャンネルソースを再生しているときのみ、Dolby HP PL Ⅱ Movie または Dolby HP PL Ⅱ Music を選択できます。

Advanced version

応用編

ここでは、本機をより使いこなすことができる機能や操作について説明しています。

スピーカーを設置 / 接続 / 設定する（サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外）

ここでは、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法は、「入門編（かんたんセットアップガイド）」（☞7 ページ）をご覧ください。
本機の Audyssey® Auto Setup で、接続しているスピーカーの本数を検出し、ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。

スピーカー設定の流れ

設置

↓

接続（☞36 ページ）

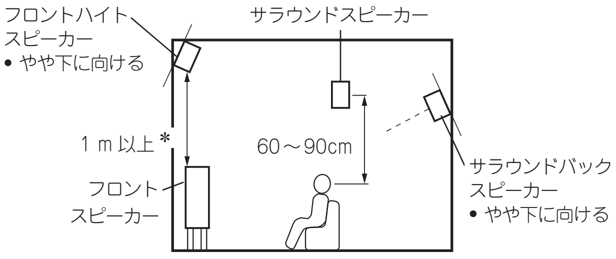
↓

スピーカーを設定する（☞39 ページ）

設置

本機は、サラウンド空間により一層の広がりや奥行きを表現するDolby Pro Logic IIz（☞81 ページ）に対応しています。
Dolby Pro Logic IIz をご使用になる場合は、フロントハイトスピーカーを設置してください。

サラウンドスピーカーは、耳の高さより 60 ～ 90cm 高い位置に設置することをおすすめします。



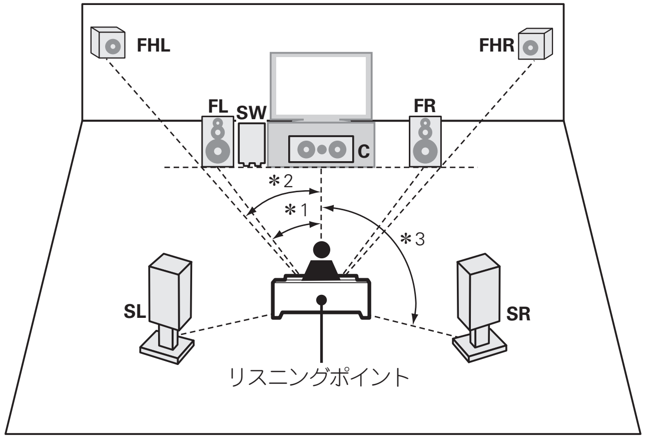
【 側面から見た図 】

* Dolby Pro Logic IIz 推奨

ご注意

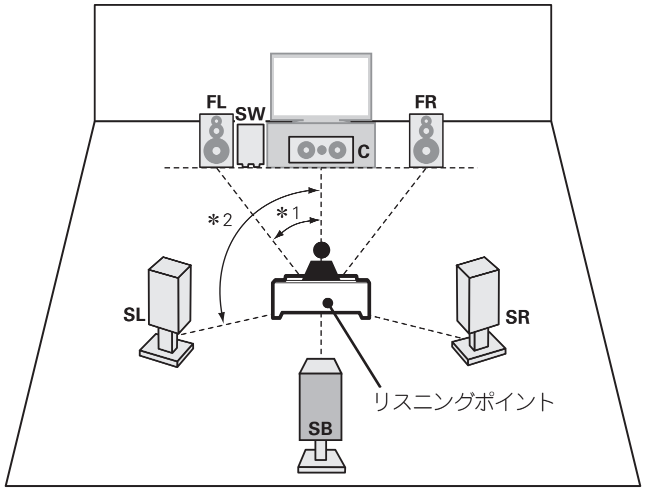
フロントハイトスピーカーとサラウンドバックスピーカーを、同時に使用することはできません。

7.1 チャンネル（フロントハイトスピーカー）を設置するとき



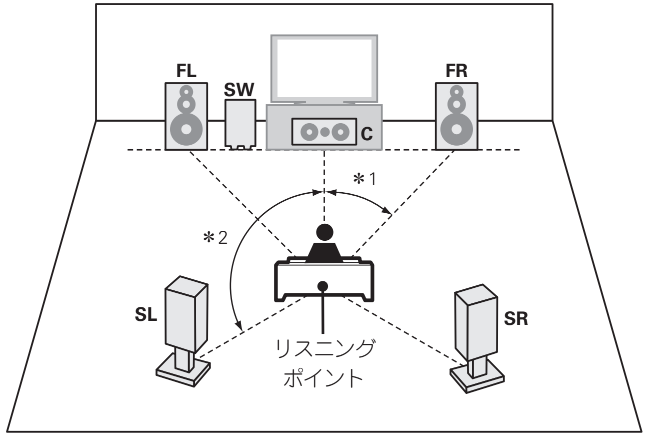
*1 22°～30°　*2 22°～45°　*3 90°～110°

6.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）を設置するとき



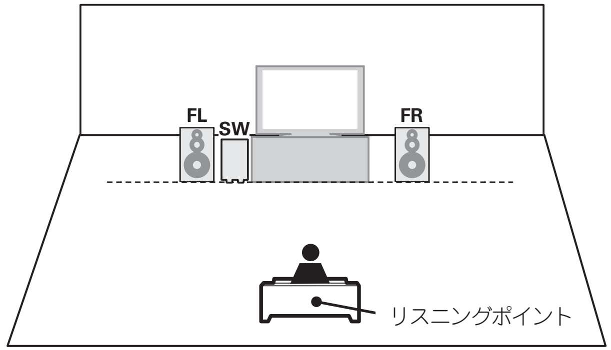
*1 22°～30°　*2 90°～110°

5.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき



*1 22°～30°　*2 120°

2.1 チャンネルを設置するとき

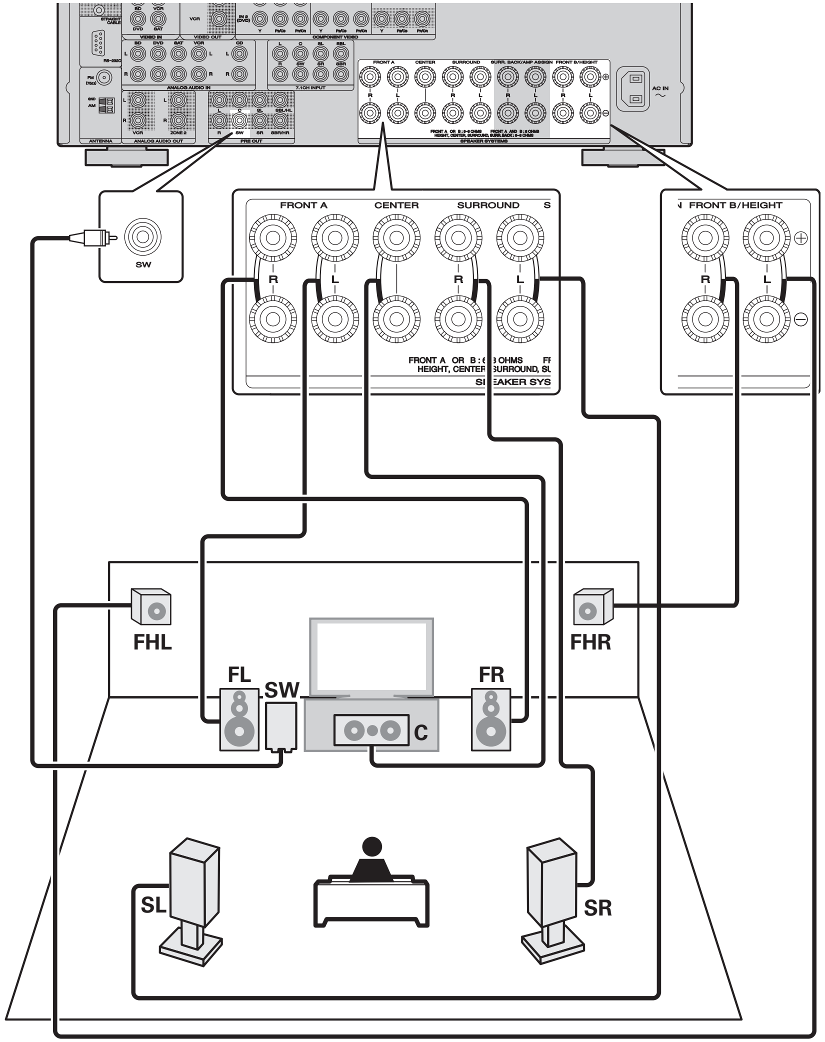


FL	フロントスピーカー（L）	**SB**	サラウンドバックスピーカー
FR	フロントスピーカー（R）	**FHL**	フロントハイトスピーカー（L）
C	センタースピーカー	**FHR**	フロントハイトスピーカー（R）
SW	サブウーハー		
SL	サラウンドスピーカー（L）		
SR	サラウンドスピーカー（R）		

- サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの接続方法は、8 ページをご覧ください。
- テレビの接続方法は、9 ページをご覧ください。

7.1 チャンネル（フロントハイトスピーカー）接続

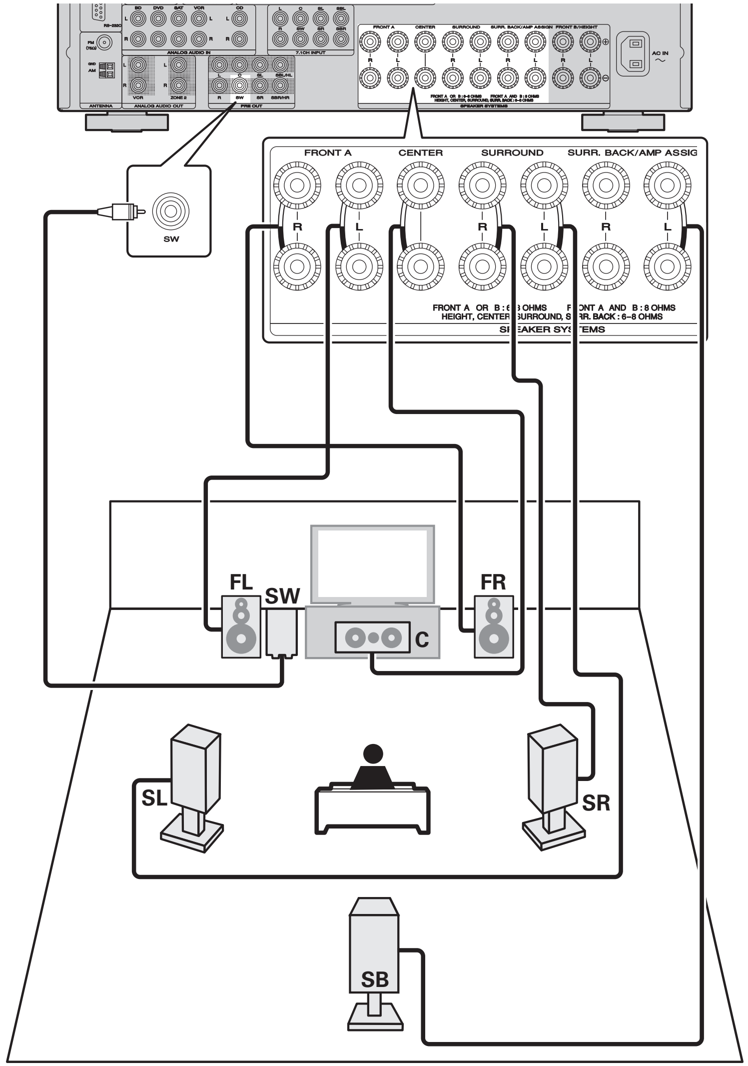
フロントハイトスピーカーを使用した 7.1 チャンネル再生をおこなう場合は、「スピーカーを設定する」（☞39 ページ）で"Amp Assign"を"Normal"に設定してください。



6.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）接続

サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ使用する場合（6.1 チャンネル接続時）は、SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子の"L"側に接続してください。このときのスピーカー設置については、「6.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）を設置するとき」（☞35 ページ）をご覧ください。

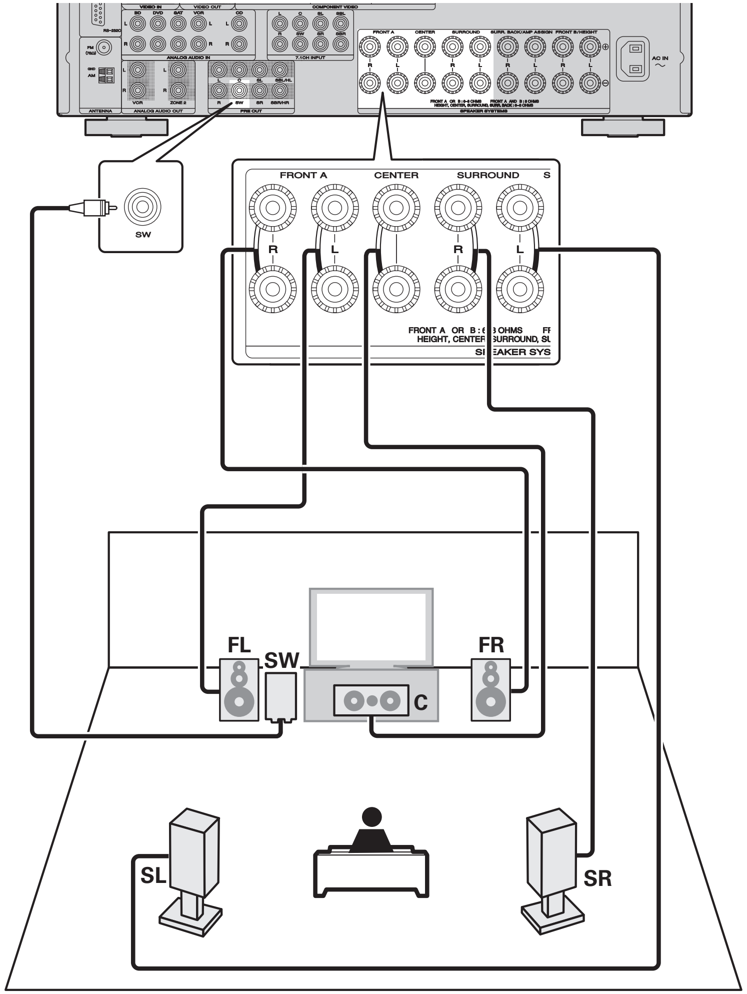
サラウンドバックスピーカーを使用した 6.1 チャンネル再生をおこなう場合は、「スピーカーを設定する」（☞39 ページ）で"Amp Assign"を"Normal"に設定してください。



スピーカーインピーダンスおよびスピーカーケーブルの接続のしかたについては、8 ページをご覧ください。

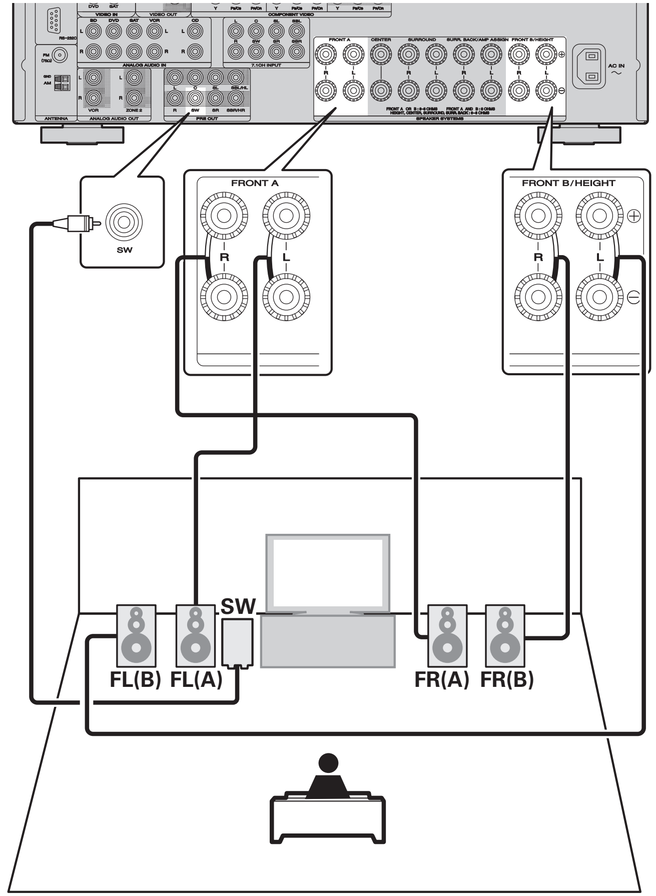
5.1 チャンネル接続

5.1 チャンネル再生をおこなう場合は、「スピーカーを設定する」（☞39 ページ）で“Amp Assign”を“Normal”に設定してください。



フロント A/B 接続

FRONT B/HEIGHT 端子に２組目のフロントスピーカーを接続して使用することができます。このような場合、“Front Speaker Setup”（☞60 ページ）を“B”に設定してください。



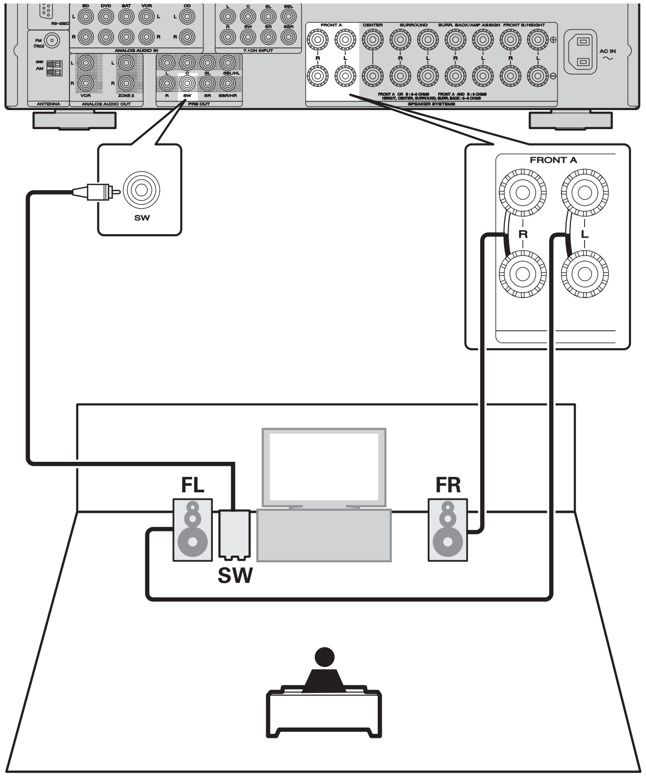
マルチチャンネルソースをサラウンド再生する場合は、センタースピーカー、サラウンドスピーカーおよびサブウーハーを接続してください。5.1 チャンネル再生ができます。
マルチチャンネル再生にはフロントスピーカー（A）を、2 チャンネル再生にはフロントスピーカー（B）を使用するなど、スピーカーの仕様や再生するソースによってフロントスピーカーを使い分けることができます（☞60 ページ “Front Speaker Setup”）。

ご注意

フロントスピーカーの A と B の両方を使って再生するときは、お使いのスピーカーのインピーダンスをご確認ください（☞8 ページ）。

スピーカーインピーダンスおよびスピーカーケーブルの接続のしかたについては、8 ページをご覧ください。

2.1 チャンネル /2 チャンネル接続



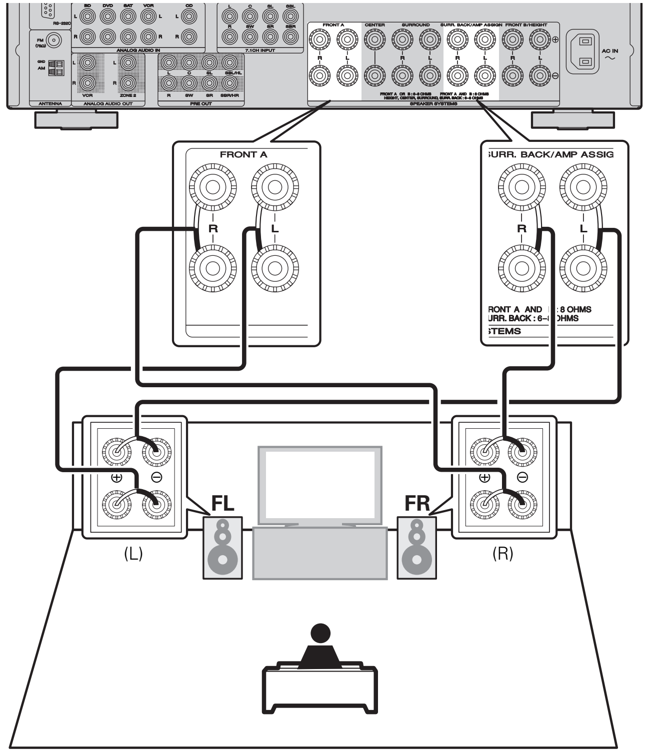
2 チャンネル接続

2 チャンネルの再生をおこなうときは、サブウーハーを外してください。

バイアンプ接続

バイアンプ接続は、バイアンプ対応スピーカーのツィーター用端子とウーハー用端子に、別々のアンプを接続する方法です。これによりウーハーの逆起電力(出力されずに戻ってくる電力)がツィーターに流れ込んでツィーターの音質に影響を及ぼすことがないため、より高音質な再生をお楽しみいただくことができます。

このような場合、「スピーカーを設定する」(☞39 ページ)の"Amp Assign"を"SPKR-C"に設定してください。



バイアンプ接続では、FRONT A 端子と SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子から同じ信号を出力します。

マルチチャンネルソースをサラウンド再生するときは、センタースピーカー、サラウンドスピーカーおよびサブウーハーを接続してください。5.1 チャンネル再生ができます。

ご注意

- バイアンプ接続に対応したスピーカーをご使用ください。
- バイアンプ接続ではスピーカーのウーファー端子とツィーター端子を接続している短絡板または短絡用ワイヤーを必ず外してください。

スピーカーインピーダンスおよびスピーカーケーブルの接続のしかたについては、8 ページをご覧ください。

スピーカーを設定する

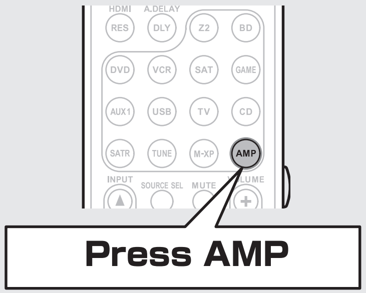
□ で囲まれている項目は、お買い上げ時の設定です。

ここでは、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設定方法は、入門編の「スピーカーを設定する（Audyssey® Auto Setup）」（☞10 ページ）をご覧ください。

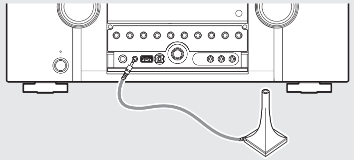
あらかじめスピーカーを設置し、本機とスピーカーを接続してください。

1 リモコンの設定

❑ 操作モードの設定
AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。



2 セットアップマイクを接続する。



セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。

```
3−1.Audyssey Auto Setup
                  MultEQ
Please place microphone
at ear height at
main listening position.
   F.Height   : Measure
   Front Sp.  :  A
   Amp Assign:  Normal
      Start
      Cancel
[ENT]:Select  [RTN]:Back
```

3 △▽ を押して、"Amp Assign" を選ぶ。

```
3−1.Audyssey Auto Setup
                  MultEQ
Please place microphone
at ear height at
main listening position.
   F.Height   : Measure
   Front Sp.  :  A
   Amp Assign:◀Normal  ▶
      Start
      Cancel
              [RTN]:Back
```

4 ◁ ▷ を押して、接続したスピーカーの設定を選ぶ。

Normal	7.1 チャンネル（フロント / センター / サラウンド / サラウンドバックまたはフロントハイト / サブウーハー）スピーカーを接続して使用するときに選びます。
ZONE2	SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子にゾーン 2 用スピーカーを接続して使用するときに選びます。
SPKR-C	SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子にフロントスピーカーのツィーター部を接続し、FRONT A 端子にフロントスピーカーのウーハー部を接続して、本機をバイアンプ接続で使用するときに選びます。

5 "F. Height"の設定

△▽ を押して、"F. Height"を選ぶ。

Measure	フロントハイトスピーカーを測定するときに選びます。
Skip	フロントハイトスピーカーを測定しないときに選びます。

6 "Front Sp"の設定

① △▽ を押して、"Front Sp"を選ぶ。
② ◁ ▷ を押して、使用するスピーカーを選ぶ。

A	フロントスピーカー A を使用するときに選びます。
B	フロントスピーカー B を使用するときに選びます。
A+B	フロントスピーカー A とフロントスピーカー B を同時に使用するときに選びます。

7 12 ページの"準備"手順 5 へ進む。

ご注意

Audyssey Auto Setup をおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。もし変更した場合には、再び Audyssey Auto Setup をおこなってください。

接続のしかた（応用接続）

リモートコントロール端子に接続する

本機にマランツ製オーディオ機器を接続して、本機のリモコンでホームシアターシステムを集中コントロールできます。

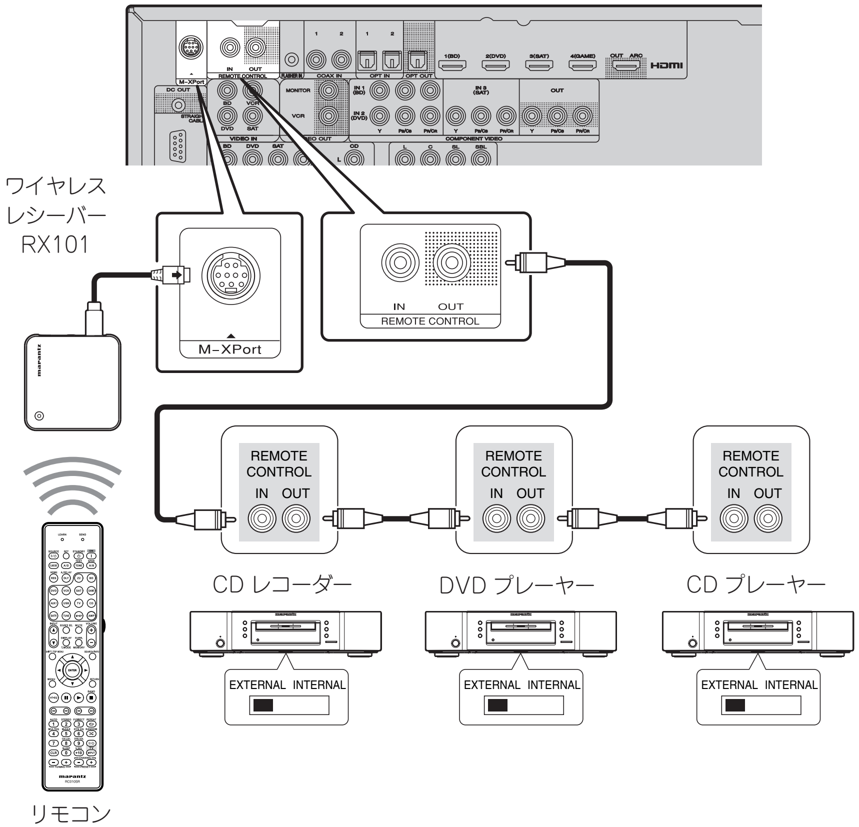
❑接続

接続するマランツ製オーディオ機器に付属しているリモートケーブルで、本機のリモートコントロール出力端子と接続する機器のリモートコントロール入力端子を接続します。

❑設定

接続している機器の背面にあるリモートコントロールスイッチを“EXTERNAL”または“EXT.”にします。

- 接続している機器はリモコン受光部の受信を停止します。
- 接続している機器を操作するときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

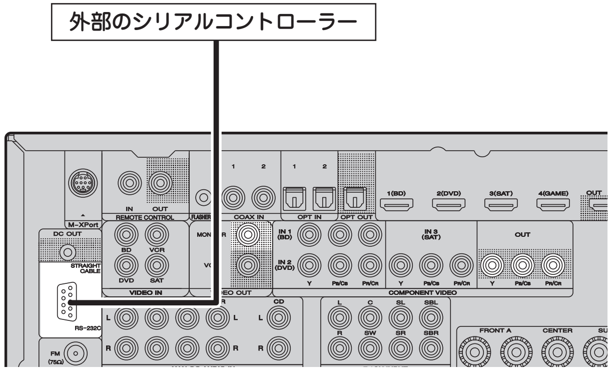


本機の M-XPort 端子にワイヤレスレシーバー RX101（Bluetooth 機器（別売り））を接続することで、外付け赤外線受光部として使用できます。RX101 を外部の赤外線受光器としてお使いになる場合、本機のリモコン信号受光機能を“DISABLE”に設定してください（☞65 ページ「リモートコントロールの設定」）。

外部のコントロール機器と接続する

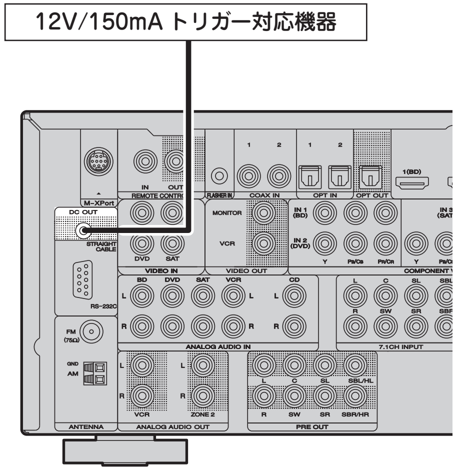
RS-232C 端子

本機の RS-232C 端子に外部コントロール機器を接続すると、外部コントロール機器で本機をコントロールすることができます。



トリガー出力端子

本機のトリガー出力端子に TRIGGER IN 端子がある機器を接続すると、本機の操作に連動させて、接続した機器の電源をオン / スタンバイすることができます。
TRIGGER OUT 端子から最大で 12V/150mA の電気信号を出力します。



必要に応じて設定してください

トリガー出力を連動させる条件を変更するときに設定します。
"DC Trigger"（☞63 ページ）

ご注意

接続する機器のトリガー許容入力レベルが、12V/150mA よりも大きいときや短絡状態のときは、TRIGGER OUT 端子を使用できません。
このような場合は、本機の電源を切り、接続を外してください。

便利な機能

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI 接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定をすると、次の操作ができます。

- ❑ **テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。**
- ❑ **テレビの操作で、音声を出力する機器の切り替えができます。**
  テレビの音声出力の設定操作にて「アンプから音声を出力する」の設定操作をおこなうと、アンプの電源をオンにすることができます。
- ❑ **テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。**
- ❑ **テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースの切り替えができます。**
- ❑ **プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。**

ご注意

- **メニューの"HDMI Control"を"ON"に設定しているときは、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。**
- HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。
- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。
- メニューの"Power Off Control"を"OFF"（☞61 ページ）に設定している場合は、接続している機器の電源がスタンバイになっても、本機の電源はスタンバイになりません。
- HDMI 機器の接続を追加するなど、接続に関する変更をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。このような場合は設定をやり直してください。
- メニューの"HDMI Control"を"ON"に設定している場合は、"Input Assign"（☞50 ページ）の設定で、"TV"に HDMI 端子を割り当てることはできません。

1 本機の HDMI コントロール機能を有効にする。
メニューの"HDMI Control"（☞61 ページ）を"ON"に設定してください。

2 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。

3 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。
- 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 1、2 をおこなってください。

4 テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。

5 本機の入力を HDMI 入力のソースに切り替えて、プレーヤーの映像が正しく映るか確認する。

6 テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。

✎

HDMI コントロール機能が正しく動作しない場合は、次の点をご確認ください。
- テレビやプレーヤーが HDMI コントロール機能に対応しているか。
- メニューの"HDMI Control"の設定（☞61 ページ）が"ON"になっているか。
- メニューの"Power Off Control"の設定（☞61 ページ）が"OFF"になっていないか。
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定は正しいか。

ご注意

次の操作をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。その場合には、手順 2、3 をおこなってください。
- メニューの"Input Assign"⇨"HDMI"設定（☞50 ページ）の変更
- HDMI で接続している機器の接続変更や機器の増加

スリープタイマー機能

設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。
視聴しながら、おやすみになるときに便利です。

SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。

ディスプレイの“**SLEEP**”表示が点灯します。



- **SLEEP** を押すたびに、スリープ時間が次の順序で切り替わります。

→ OFF → 10 min → 20 → 30 → 40 → 50 → 60 → 70 → 80 → 90 → 100 → 110 → 120 →（OFF に戻る）

スリープタイマーを解除するとき

SLEEP を押して、“OFF”を選ぶ。
ディスプレイの“**SLEEP**”表示が消灯します。

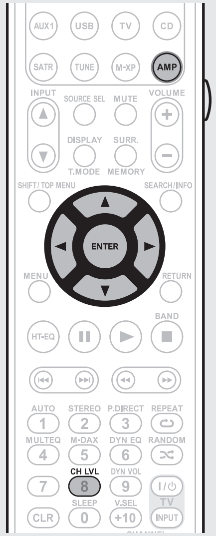
✎

本機の電源がスタンバイまたはオフになると、スリープタイマーの設定は解除されます。

チャンネルレベルを調節する

再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、各チャンネルレベルの調節ができます。

❑スピーカーごとにチャンネルレベルを調節する



1 **AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。**

2 **CH LVL を押す。**

```
     Channel Level

FL ◀  0.0dB▶SR    0.0dB
C     0.0dB SBR   0.0dB
FR    0.0dB SBL   0.0dB
SW    0.0dB SL    0.0dB

            Fader
            FRONT◀:▶REAR
[▲▼]:CH Sel.
```

3 **△▽ を押して、調節するスピーカーを選ぶ。**

- ボタンを押すたびに、チャンネルが切り替わります。

4 **◁ ▷ を押して、チャンネルレベルを調節する。**

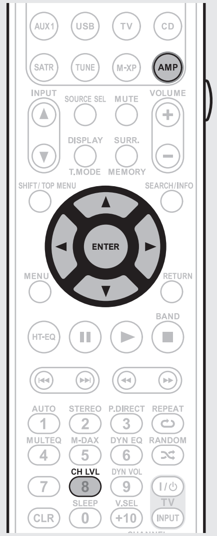
- サブウーハーのチャンネルレベルを調節する場合、“–12dB”のときに ◁ を押すと、“OFF”の設定になります。

✎

PHONES 端子にヘッドホンプラグを挿入しているときは、ヘッドホン用のチャンネルレベルを調節できます。

❑チャンネルレベルをまとめて調節する（フェーダー機能）

フロント側（フロントスピーカー / フロントハイトスピーカー / センタースピーカー）またはリア側（サラウンドスピーカー / サラウンドバックスピーカー）のスピーカーのチャンネルレベルをまとめて調節（減衰）します。



1 **AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。**

2 **CH LVL を押す。**

```
     Channel Level

FL    0.0dB SR    0.0dB
C     0.0dB SBR   0.0dB
FR    0.0dB SBL   0.0dB
SW    0.0dB SL    0.0dB

            Fader
            FRONT◀:▶REAR
[▲▼]:CH Sel.
```

3 **▽ を押して“Fader”を選び、◁ ▷ を押して調節するチャンネル（“FRONT”または“REAR”）を選ぶ。**

4 **◁ ▷ を押して、チャンネルレベルを調節する。**
（◁：フロント側、▷：リア側）

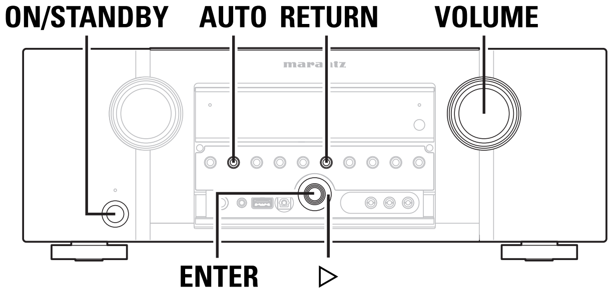
- 一番小さい値に調節されているチャンネルレベルが、–12dB になるまで調節できます。

✎

フェーダー機能は、サブウーハーチャンネルにははたらきません。

フロントキーロック機能

本機を誤って操作してしまうことを防ぐために、フロントパネルのボタン操作を無効にすることができます。



❑すべてのボタン操作を無効にする

本機の電源がスタンバイ状態のときに、AUTO と ENTER を押しながら、ON/STANDBY を押す。
ディスプレイに"Panel Lock:ON" を表示し、**ON/STANDBY** 以外のボタン操作が無効になります。

❑VOLUME 以外のすべてのボタン操作を無効にする

本機の電源がスタンバイ状態のときに、AUTO と ▷ を押しながら、ON/STANDBY を押す。
ディスプレイに"Panel Lock:ON" を表示し、**ON/STANDBY** および **VOLUME** 以外の操作が無効になります。

❑フロントキーロック機能を解除する

本機の電源がスタンバイ状態のときに、AUTO と RETURN を押しながら、ON/STANDBY を押す。
フロントキーロック機能を解除します。

フロントキーロック機能の設定が有効でも、リモコンによる操作は可能です。

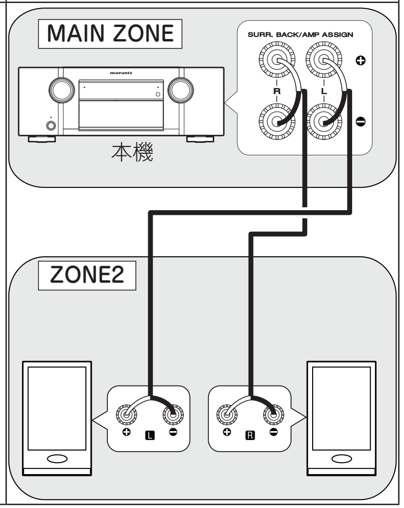
ゾーン 2(別の部屋)での再生

- 本機を操作してメインゾーン(本機のある部屋)以外の部屋(ゾーン 2)で、音声を楽しむことができます。
- メインゾーンとゾーン 2 で同時に同じソースを再生することはもちろん、別々のソースを再生することもできます。
- 次の 2 通りの方法があります。いずれかを選んでください。
  ① スピーカー出力によるゾーン再生
  ② 音声出力によるゾーン再生(PRE OUT)
  (外部アンプを使用します。)

① スピーカー出力によるゾーン再生

アンプアサイン機能により、本機の SURR. BACK/AMP ASSIGN スピーカー端子からゾーン 2 の音声を出力します。

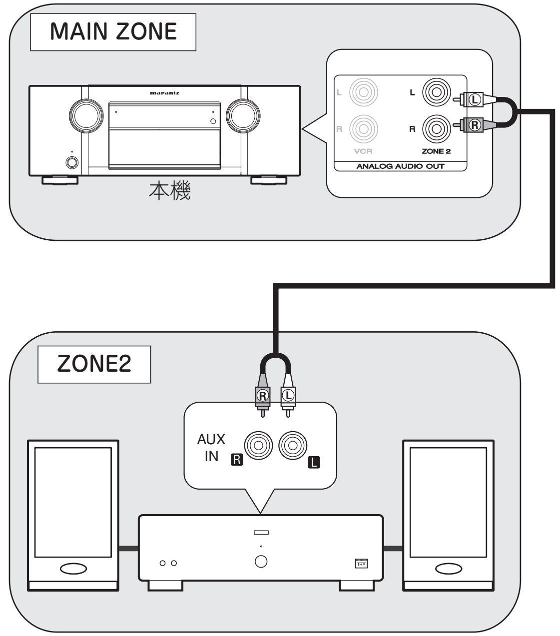
スピーカーの接続と設定

"Amp Assign" の設定 (☞58ページ) と出力する音声信号	スピーカーを接続する
ZONE2 出力信号： ステレオ(L/R)	

② 音声出力によるゾーン再生

本機のゾーン 2 の音声出力端子の音声をゾーン 2 のアンプに出力し、そのアンプで再生します。

音声接続 (ゾーン 2)



- 音声の接続については、雑音が発生しないように高品質のピンプラグケーブルのご使用をおすすめします。
- 接続した機器の取扱説明書をお読みください。

ご注意

HDMI およびデジタル入力端子(OPTICAL/COAXIAL) から入力されるデジタル信号はゾーン２では再生できません。
ゾーン２で再生をするときは、各ソース機器のアナログ出力も本機に接続してください。

再生のしかた

1 **Z2 を押して、ゾーン操作モードを“ZONE2”に切り替える。**
リモコンの操作モードがゾーン 2 に切り替わります。



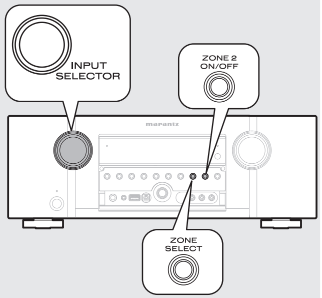
2 **ON を押して、ゾーン 2 の電源を入れる。**

Z2 表示が点灯します。

- リモコンの **STANDBY** を押すと、ゾーン 2 の電源がオフになります。
- 本 体 の **ZONE2 ON/OFF** を 押 し て も、ゾーン 2 の電源をオン / オフすることができます。

3 **INPUT ▲▼ を押す。**
選択した入力ソースの音声を、ゾーン 2 より出力します。

- 本体の **ZONE SELECT** を押した後に **INPUT SELECTOR** を回しても、入力ソースの選択ができます。



メインゾーンとゾーン 2 の両方の電源がオンのときにメインゾーンの電源だけをオフにすることができます。**AMP** を押してリモコンの操作モードを“AMP” に切り替えてから、**STANDBY** を押してください。
再びゾーン2の操作をおこなうときは、**Z2** を押してリモコンの操作モードを“ゾーン 2”に切り替えてください。

音量の調節

VOLUME + – を押して、音量を調節する。

【 調節できる範囲 】 – – – **–80dB ~ –40dB ~ 18dB**
（メニューの“Volume Display” の設定（☞62 ページ）が、“Relative”のとき）

【 調節できる範囲 】 **0 ~ 41 ~ 99**
（メニューの“Volume Display” の設定（☞62 ページ）が、“Absolute”のとき）

- お買い上げ時は、“Volume Limit”（☞62 ページ）を“–10dB (71)”に設定しています。

本体の **ZONE2 SELECT** を押した後に **MASTER VOLUME** を回しても、音量を調節することができます。

一時的に音を消す（ミューティング）

MUTE を押す。
メニューの“Mute Level”（☞62 ページ）で設定したレベルまで音量が減衰します。

- ミューティングを解除するときは、もう一度 **MUTE** を押してください。
- 音量を調節したり、ゾーンの電源をオフにしても解除できます。

詳細設定のしかた

メニュー 一覧

メニューの操作をおこなうときは、本機にテレビを接続し、テレビ画面にメニューを表示させてから操作してください。
メニューの操作のしかたは、右記の参照ページをご覧ください。

```
MENU

 1. Audio Adjust
 2. Information
 3. Auto Setup
 4. Manual Setup
 5. Input Setup


[ENT]:Select
```

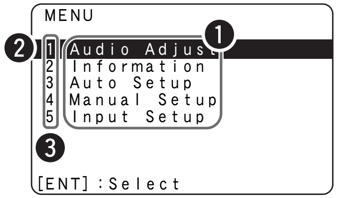
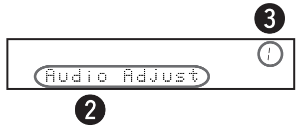
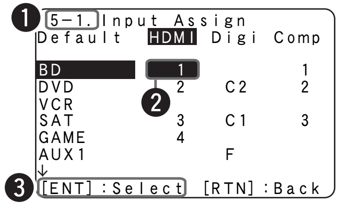
一度だけ設定すればよい項目
お買い上げ時などに設定してください。 一度設定していただくと、接続するスピーカーやスピーカーの設置を変更しない限り、設定の必要がありません。

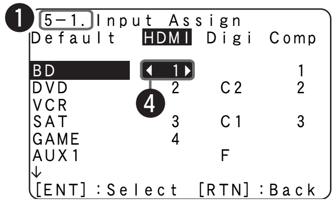
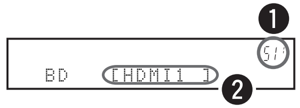
“Input Setup” メニューは、選択している入力ソースによって、表示内容が異なります。

設定項目	番号	詳細項目	内　容	参照ページ
1. Audio Adjust 1. Audio Adjust 1. Surround Parameter 2. Tone 3. Audyssey Settings 4. Manual EQ 5. M-DAX 6. Audio Delay [ENT]:Select [RTN]:Back	**1-1**	**Surround Parameter**	音場効果を調節します。	53
	1-2	**Tone**	トーンを調節します。	54
	1-3	**Audyssey Settings**	MultEQ®、Dynamic EQ® および Dynamic Volume® を設定します。	55
	1-4	**Manual EQ**	グラフィックイコライザーを使って各スピーカーの音色を調節します。	56
	1-5	**M-DAX**	圧縮音声を圧縮前の状態に復元し、低域の量感を補正して豊かに再生します。	57
	1-6	**Audio Delay**	映像と音声の再生タイミングのずれを補正します。	57
2. Information 2. Information 1. Status 2. Audio Input Signal 3. HDMI Information 4. Preset Channel [ENT]:Select [RTN]:Back	**2-1**	**Status**	現在の設定状態を表示します。	64
	2-2	**Audio Input Signal**	音声入力信号の情報を表示します。	64
	2-3	**HDMI Information**	HDMI の入出力信号やテレビの情報を表示します。	64
	2-4	**Preset Channel**	チューナーのプリセットチャンネル情報を表示します。	64
3. Auto Setup 3. Auto Setup 1. Audyssey Auto Setup 2. Parameter Check [ENT]:Select	**3-1**	**Audyssey Auto Setup**	ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。	10
	3-2	**Parameter Check**	Audyssey Auto Setup の測定結果を確認します。 この項目は、Audyssey Auto Setup をおこなった後に表示します。	14
4. Manual Setup 4. Manual Setup 1. Speaker Setup 2. HDMI Setup 3. Audio Setup 4. ZONE2 Setup 5. Option Setup [ENT]:Select [RTN]:Back	**4-1**	**Speaker Setup**	スピーカーの大きさや距離、チャンネルレベルなどを設定します。	58
	4-2	**HDMI Setup**	HDMI の映像 / 音声出力に関する設定をします。	61
	4-3	**Audio Setup**	音声の再生に関する設定をします。	61
	4-4	**ZONE2 Setup**	ゾーン2で再生する音声の設定をします。	62
	4-5	**Option Setup**	その他の設定をします。	62
5. Input Setup （例：TUNER） 5. Input Setup　BD 1. Input Assign 2. Video 3. Input Mode 4. Rename 5. Source Level [ENT]:Select [RTN]:Back	-	**Auto Preset**	自動で FM 放送局をプリセットします。	49
		Preset Skip	選局するとき、スキップしたい放送局をあらかじめ設定します。	49
		Preset Name	プリセットした放送局の表示名を変更します。	49
		Input Assign	入力端子の割り当てを変更します。	50
		Video	映像の設定をします。	51
		Input Mode	入力モードとデコードモードを設定します。	52
		Rename	選択した入力ソースの表示名を変更します。	52
		Source Level	音声入力の再生レベルを補正します。	52
		Playback Mode	iPod や USB メモリーの再生に関する設定をします。	52

テレビ画面とディスプレイの表示について

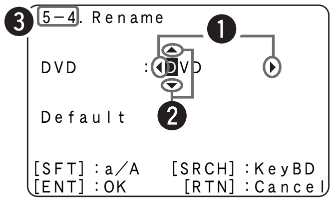
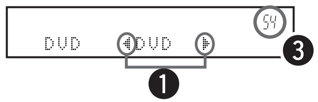
テレビ画面とディスプレイの表示について、代表的な例を説明します。

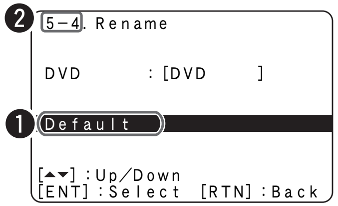
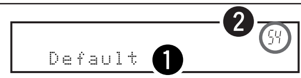
<table>
<tr><th></th><th>テレビ画面</th><th>ディスプレイ</th><th>説　明</th></tr>
<tr>
<td>トップメニューの表示</td>
<td>
</td>
<td>
</td>
<td>❶ メニュー項目を表示します。
❷ テレビ画面：選択中の行を示します。
ディスプレイ：選択中の項目を表示します。
•テレビ画面で、設定した項目に移動させるときは、△▽ を押します。
❸ 選択中の設定メニューの番号を表示します。</td>
</tr>
<tr>
<td>設定を変更するときの表示</td>
<td>

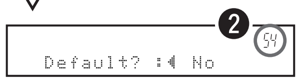
ENTER を押す。

</td>
<td>

ENTER を押す。

</td>
<td>❶ 選択中の設定メニューの番号を表示します。
❷ テレビ画面:選択中の行を示します。
ディスプレイ：選択中の項目を表示します。
•テレビ画面で、設定したい項目に移動させるときは、△▽◁ ▷を押します。
❸ ENTERを押して、設定したい項目を選びます。

❹ 設定を変更できる項目には、項目名の両端に ◀ ▶ を表示します。◁ ▷を押して、設定を変更します。</td>
</tr>
<tr>
<td>文字を入力するときの表示</td>
<td>
</td>
<td>
</td>
<td>❶ ◁ ▷を押すと、カーソルが左右に移動します。
❷ 入力したい位置で△▽を押すと、文字の入力ができます。
❸ 選択中の設定メニューの番号を表示します。

キーボード画面での文字入力や、リモコンの数字ボタンでの文字入力方法は、48 ページをご覧ください。</td>
</tr>
<tr>
<td>お買い上げ時の設定に戻すときの表示</td>
<td>
</td>
<td>

ENTER を押す。

</td>
<td>❶ ▽を押して“Default”を選び、ENTERを押して設定します。
❷ 選択中の設定メニューの番号を表示します。</td>
</tr>
</table>

文字入力について

本機は、次の画面表示名をお好みに合わせて変更することができます。

- "Preset Name"（☞49 ページ）
- "Rename"（☞52 ページ）

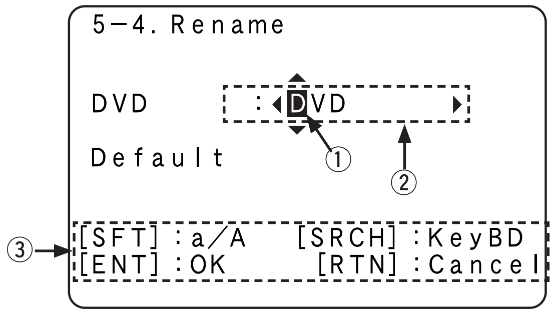
文字の入力には、次の 2 通りの方法があります。

文字入力方式の種類

入力方式	操作の概要
カーソルボタンで入力する（ノーマル画面）	• リモコンまたは本体で操作します。 • △▽◁ ▷ と **ENTER** で文字を入力します。
キーボード画面で入力する	• リモコンで操作します。 • テレビ画面に表示される文字を選んで、文字を入力します。

ノーマル画面入力方式

❑ノーマル入力画面の表示

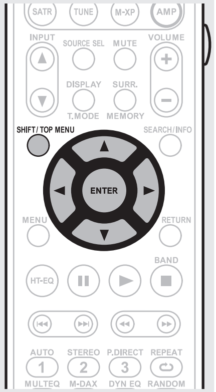


① カーソル
② 文字入力部
③ 操作ボタンガイド

- **[SFT] SHIFT** 大文字 / 小文字の切り替え
- **[SRCH] SEARCH** キーボード画面入力方式への切り替え
- **[ENT] ENTER** 文字入力の確定
- **[RTN] RETURN** 文字入力の取り消し

1 **文字の入力をおこなう画面を表示する（☞46 ページ「メニュー 一覧」）。**

2 **◁ ▷ を押して、変更したい文字にカーソルを合わせる。**



3 **△▽ を押して文字を変更し、ENTER を押す。**

- 入力できる文字の種類は、次のとおりです。

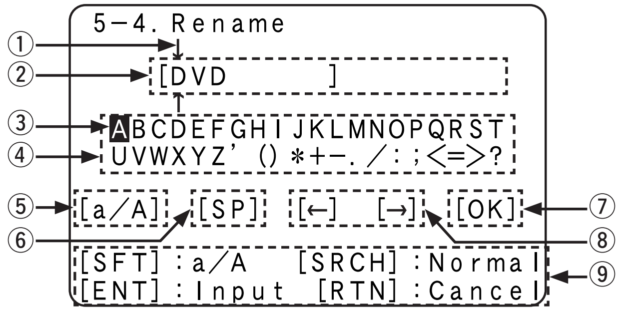
【英大文字】
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
【英小文字】
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
【記号】'（）＊＋－．/：；＜＝＞？[ ]
【数字】0123456789（空白）

- 文字を入力中に **SHIFT/TOP MENU** を押すと、大文字と小文字を切り替えることができます。

4 **手順 2、3 をくり返して名前を変更し、ENTER を押して入力した文字を確定する。**

キーボード画面入力方式

❑キーボード入力画面の表示



① カーソル
② 文字入力部
③ カーソル
④ キーボード部
⑤ 大文字/小文字の切り替えキー
⑥ スペース入力キー
⑦ 文字入力の確定キー
⑧ カーソル移動キー
⑨ 操作ボタンガイド

- **[SFT] SHIFT** 大文字 / 小文字の切り替え
- **[SRCH] SEARCH** ノーマル画面入力方式への切り替え
- **[ENT] ENTER** 選択文字の入力
- **[RTN] RETURN** 文字入力の取り消し

1 **文字の入力をおこなう画面を表示する（☞46 ページ「メニュー 一覧」）。**

2 **ノーマル入力画面表示中に、SEARCH/INFO を押す。**

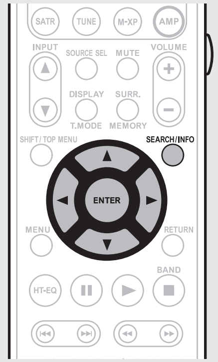
キーボード入力画面に切り替わります。

3 **変更したい文字を選ぶ。**

① **△▽◁ ▷ を押して [←] または [→] を選ぶ。**
② **ENTER を押して、変更したい文字にカーソルを合わせる。**

ENTER を押すたびに、カーソルが 1 文字ずつ移動します。

4 **△▽◁ ▷ を押して、入力したい文字を選び、ENTER を押す。**



- 入力できる文字の種類は、次のとおりです。

【英大文字 / 記号】
ABCDEFGHIJKLMNOPQRST
UVWXYZ '（）＊＋－．/：；＜＝＞？
【英小文字 / 数字】
abcdefghijklmnopqrst
uvwxyz[ ]0123456789

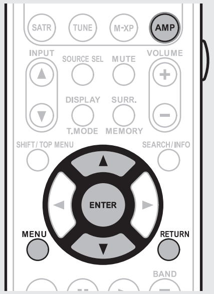
5 **手順 3、4 をくり返して、名前を変更する。**

6 **△▽◁ ▷ を押して"[OK]"を選び、ENTER を押す。**

入力の設定（Input Setup）

現在選択している入力ソースに関する設定をします。
- 設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

メニューの操作のしかた



1 **AMP** を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

2 **MENU** を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

3 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

4 **ENTER** を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、**RETURN** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **MENU** を押してください。メニュー画面が消えます。

“Input Setup”でできること

Auto Preset（☞49 ページ）

```
5-1.Auto Preset

  Auto Tuning
Preset Station Memory
Storing Preset Memory

      Start

[ENT]:Start  [RTN]:Back
```

Preset Skip（☞49 ページ）

```
5-2.Preset Skip
 Block          :◀A     ▶
 A Block Presets: ON
 A1 FM 76.00MHz : ON
 A2 FM 83.00MHz : ON
 A3 FM 89.00MHz : ON
 A4 FM 90.00MHz : ON
 A5 FM 90.00MHz : ON
 A6 FM 90.00MHz : ON
 A7 FM 90.00MHz : ON
↓A8 FM 90.00MHz : ON
```

Preset Name（☞49 ページ）

```
5-3.Preset Name
 Block:◀ A ▶
 A1FM 76.00MHz:
 A2FM 83.00MHz:
 A3FM 89.00MHz:
 A4FM 90.00MHz:
 A5FM 90.00MHz:
 A6FM 90.00MHz:
 A7FM 90.00MHz:
↓A8FM 90.00MHz:
[ENT]:Select [RTN]:Back
```

Input Assign（☞50 ページ）

```
5-1.Input Assign
Default  HDMI Digi Comp

BD        1         1
DVD       2    C2   2
VCR
SAT       3    C1   3
GAME      4
AUX1           F
↓
[ENT]:Select [RTN]:Back
```

Video（☞51 ページ）

```
5-2.Video

Video Select:◀Source   ▶
Video Mode  : Auto
i/p Scaler  : OFF



            [RTN]:Back
```

Input Mode（☞52 ページ）

```
5-3.Input Mode

 Input Mode   :◀Auto    ▶
Decode Mode   : Auto



            [RTN]:Back
```

Rename（☞52 ページ）

```
5-4.Rename

BD       :◀BD        ▶

Default

[▲▼]:Up/Down [◀▶]:Rename
             [RTN]:Back
```

Source Level（☞52 ページ）

```
5-5.Source Level

 Source Level(A):◀  0dB▶
Source Level(D):    0dB


            [RTN]:Back
```

Playback Mode（☞52ページ）

```
5-6.Playback Mode

Repeat Mode   :◀OFF     ▶
Shuffle Mode  : OFF


            [RTN]:Back
```

知っておいてほしいこと

❏本書内の入力ソースの表示について

本書では、各項目で設定できる入力ソース名を次のようにあらわしています。

BD | DVD | VCR | SAT | GAME | AUX1 | USB | TV | CD | TUNER | M-XPort

ご注意

メニューの“Source Delete”（☞62 ページ）で、“Delete”に設定した入力ソースは選べません。

Auto Preset

自動で FM 放送を選局し、プリセットします。

設定項目	設定内容
Start FM 放送の選局をはじめます。 TUNER	✎ “Auto Preset”でお好みの FM 放送を選局できない場合は、「手動でラジオ放送を選局しプリセットする（マニュアルプリセット）」（☞29 ページ）でお好みの放送を選局してください。

Preset Skip

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

選局するとき、スキップしたい放送局をあらかじめ設定します。

設定項目	設定内容
A～G プリセットしたブロックの中から、スキップしたいブロック（A～G）またはチャンネル（1～8）を選びます。 TUNER	**1～8**：選択したブロックの中で、スキップしたいチャンネルを設定します。 • **<u>ON</u>**：選択したチャンネルを表示します。 • **Skip**：選択したチャンネルを表示しません。 ✎ 選択したブロックを“Skip”に設定すると、ブロック（A～G）ごとにスキップすることができます。

Preset Name

プリセットした放送局の表示名を変更します。

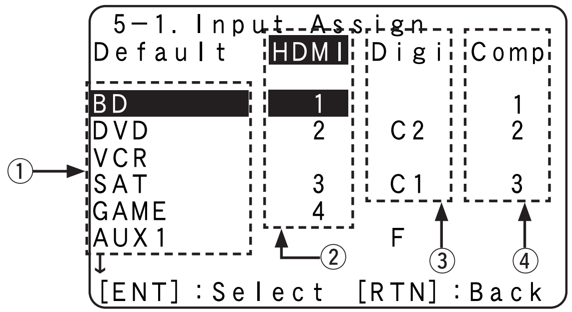
設定項目	設定内容
A1～G8 選択したチャンネルの表示名を変更します。 TUNER	• 8 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、48 ページをご覧ください。
Default 変更されたプリセット名を、お買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。

リモコンの操作ボタン　△▽◁▷ カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）　ENTER 設定を確定する　RETURN ひとつ前のメニューに戻る

入門編
基本編
応用編
情報編

Input Assign

“Input Assign”メニュー画面の表示例



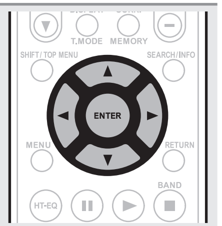
① 入力ソース
② HDMI入力
③ デジタル音声入力
“O”は光デジタル入力、
“C”は同軸デジタル入力を
あらわします。
④ コンポーネントビデオ入力

“Input Assign”メニューの操作のしかた

1 △▽◁ ▷ を押して、設定したい項目へカーソルを移動させ、**ENTER** を押す。

2 ◁ ▷ を押して、入力端子を割り当てる。

3 **ENTER** を押して、設定を確定する。



ご注意

Game ソースの“HDMI”、“Digital”および“Component”の割り当てをすべて“None”に設定すると、入力ソースの切り替えで Game ソースが選べなくなります。

設定項目	設定内容
HDMI 入力ソースに割り当てられている HDMI 入力端子を変更するときに設定します。 BD / DVD / VCR / SAT / GAME / AUX1 / TV	**HDMI 1**/**HDMI 2**/**HDMI 3**/**HDMI 4**：選択した入力ソースに、いずれかの HDMI 入力端子を割り当てます。 **None**：選択した入力ソースに HDMI 入力端子を割り当てません。 • 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入力ソース	BD	DVD	VCR	SAT	GAME	AUX1	TV
お買い上げ時の設定	HDMI 1	HDMI 2	None	HDMI 3	HDMI 4	None	None

設定項目	設定内容
HDMI （つづき）	• HDMI 入力端子の割り当てができない入力ソースには、“-”を表示します。 • “HDMI” で割り当てた映像信号と、メニューの“Input Assign” ⇨ “Digital” で割り当てた音声信号を組み合わせて再生する場合は、“Input Mode”（☞52 ページ）を“Digital”に設定してください。 • アナログ端子およびデジタル端子から入力された音声信号は、テレビに出力しません。 • メニューの“HDMI Control”（☞61 ページ）を“ON”に設定している場合は、“TV”に“HDMI”を割り当てることはできません。
Digital 入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子を変更するときに設定します。 BD / DVD / VCR / SAT / GAME / TV / CD	**C1, C2**（同軸デジタル入力端子）/**O1, O2**（光デジタル入力端子）：選択した入力ソースに、いずれかのデジタル入力端子を割り当てます。 **None**：選択した入力ソースにデジタル入力端子を割り当てません。 • 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入力ソース	BD	DVD	VCR	SAT	GAME
お買い上げ時の設定	None	COAXIAL 2	None	COAXIAL 1	None

入力ソース	TV	CD
お買い上げ時の設定	OPTICAL 1	OPTICAL 2

フロントパネルの OPTICAL デジタル入力端子は AUX1 固定で他の入力ソースに割り当てることはできません。

設定項目	設定内容
Component 入力ソースに割り当てられているコンポーネントビデオ入力端子を変更するときに設定します。 BD / DVD / VCR / SAT / GAME / AUX1 / TV	**Comp1**/**Comp2**/**Comp3**（コンポーネントビデオ入力端子）：選択した入力ソースにコンポーネントビデオ入力端子を割り当てます。 **None**：選択した入力ソースにコンポーネントビデオ入力端子を割り当てません。 • 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入力ソース	BD	DVD	VCR	SAT	GAME	AUX1	TV
お買い上げ時の設定	Component 1	Component 2	None	Component 3	None	None	None

コンポーネントビデオ入力端子の割り当てができない入力ソースには、“-”を表示します。

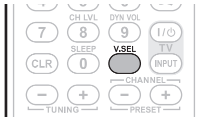
設定項目	設定内容
Default “Input Assign”で設定した内容を、お買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “Default”を選んで **ENTER** を押すと“、Default Setting?”というメッセージが表示されますので、“Yes”または“No”を選び、**ENTER** を押してください。

Video

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

映像に関する設定をします。

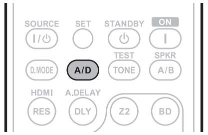
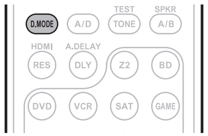
＊"TV"および"GAME"は、各入力ソースに"HDMI"(☞50ページ)または"Component"(☞50ページ)を割り当てているときに設定できます。

設定項目	設定内容
Video Select 今聞いている音声に、好きな映像を組み合わせて再生します。	<u>**Source**</u>：入力ソースの映像と音声を再生します。 **BD**, **DVD**, **VCR, SAT, GAME, AUX1, TV**：見たい映像の入力ソースを選びます。今聞いている音声に、選択した入力ソースの映像を組み合わせて再生します。入力ソースごとに設定できます。 ✎ • "TV"および"GAME"は、メニューの"Input Assign"(☞50ページ)で"Component"を割り当てているときのみ選べます。 • リモコンのボタンでも操作できます。 再生したい映像が表示されるまで **V.SEL** を押す。 • 解除する場合は、**V.SEL** で"Source"を選んでください。  ご注意 • HDMI 入力信号は選べません。 • メニューの"Source Delete"(☞62ページ)で、"Delete"に設定した入力ソースは選べません。
Video Mode 映像処理の設定をします。 BD DVD VCR SAT GAME* AUX1 TV*	<u>**Auto**</u>：HDMI のコンテンツ情報に基づく映像処理を自動でおこないます。 **Movie**：コンテンツに関係なく映像処理をおこないます。 **Game**：ゲームコンテンツに合わせて映像処理をおこないます。 ✎ • "Video Mode"の設定が"Auto"の場合は、入力されたコンテンツに応じてモードが切り替わります。 • 同じ部屋でメインゾーン(音声と映像)とゾーン2(音声のみ)の両方を使用して同じソースを再生すると、メインゾーンの音声とゾーン2の音声の出力のタイミングがずれて聞こえることがありますが、故障ではありません。このような場合は、"Game"モードに設定すると、タイミングのずれを少なく抑えることができます。
i/p Scaler 入力ソースの解像度を、設定した解像度に変換します。 BD DVD VCR SAT GAME* AUX1 TV*	<u>**Analog**</u>：アナログ映像入力信号に対して、i/p スケーラー機能を使用します。 **Analog & HDMI**：アナログ映像入力信号と HDMI 入力信号の両方に対して、i/p スケーラー機能を使用します。 **HDMI**：HDMI 映像入力信号に対して i/p スケーラー機能を使用します。 **OFF**：i/p スケーラー機能を使用しません。 ✎ • "Analog & HDMI"および"HDMI"は、HDMI 入力端子を割り当てている入力ソースに対して設定できます。 • 各入力端子が割り当てられている入力ソースによって、設定項目が異なります。 • i/p スケーラー機能は、入力された信号が x.v.Color、3D、sYCC601 color、Adobe RGB color、Adobe YCC601 color およびコンピュータ解像度のときは効果がありません。
Resolution 出力する解像度を設定します。 Resolution (Analog)：アナログ映像の解像度 Resolution (HDMI)：HDMI 映像の解像度 BD DVD VCR SAT GAME* AUX1 TV*	<u>**Auto**</u>：HDMI 出力端子に接続しているテレビのパネル画素数を自動的に検出し、適切な解像度で出力します。 **480p**/**576p**/**1080i**/**720p**/**1080p**：出力したい解像度を選びます。 ✎ • "i/p Scaler"の設定が"OFF"以外のときに設定できます。 • "i/p Scaler"の設定が"Analog & HDMI"のときは、アナログ映像入力信号と HDMI 映像入力信号の解像度をそれぞれ設定できます。 • リモコンの **RES** で設定できます。 **RES** を押すたびに、以下の設定に変わります。 → Auto → 480p/576p → 1080i → 720p → 1080p → 
Progressive Mode 映像素材に最適なプログレッシブモードを選択します。 BD DVD VCR SAT GAME* AUX1 TV*	<u>**Auto**</u>：映像の素材を自動的に検出し、適切なモードを設定します。 **Video1**：ビデオ素材の再生に適しています。 **Video2**：ビデオ素材や 30 フレームのフィルム素材の再生に適しています。 ✎ "i/p Scaler"の設定が"OFF"以外のときに設定できます。
Aspect HDMI 端子へ出力する、映像信号のアスペクト比(縦横比)を設定します。 BD DVD VCR SAT GAME* AUX1 TV*	<u>**Full**</u>：16：9 のアスペクト比で出力します。 **Normal**：4：3 のアスペクト比で出力します。 ✎ i/p Scaler"の設定が"OFF"以外のときに設定できます。

Input Mode

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

各入力ソースの音声入力モードとデコードモードを設定します。
選択できる入力モードは、入力ソースによって異なります。

設定項目	設定内容
Input Mode 各入力ソースの音声入力モードを設定します。	**Auto**：本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。 **HDMI**：HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。 **Digital**：デジタル入力端子からの入力信号のみを再生します。 **Analog**：アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。 **7.1CH IN**：7.1CH INPUT 端子から入力された信号のみを再生します。 • “HDMI”は、メニューの“Input Assign”（50ページ）で“HDMI”を割り当てた入力ソースのときに選択できます。 • “Digital”は、メニューの“Input Assign”（50ページ）で“Digital”を割り当てた入力ソースのときに選択できます。 • 入力ソースが“TV”および“Game”のときは、“Analog”に設定できません。 • デジタル信号を正しく入力すると、ディスプレイの DIG. 表示が点灯します。DIG. 表示が点灯しない場合は、デジタル入力端子の割り当て（“Input Assign”（50 ページ））や接続を確認してください。 • メニューの“HDMI Control”の設定が“ON”で、HDMI MONITOR 端子に ARC 対応テレビを接続している場合、入力ソース“TV”の入力モードは ARC 固定になります。 • リモコンの **A/D** を押しても設定できます。 **A/D** を押すたびに次のように切り替わります。 → Auto → HDMI → Digital → Analog → 7.1CH INPUT 
Decode Mode 各入力ソースのデコードモードを設定します。 BD DVD VCR SAT GAME AUX1 TV CD	**Auto**：デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。 **PCM**：PCM 信号が入力されたときだけデコードして再生します。 **DTS**：DTS 信号が入力されたときだけデコードして再生します。 • メニューの“Input Assign”（50ページ）で“HDMI”または“Digital”に割り当てた入力ソースのときに選択できます。 • 通常は、“Auto”に設定してください。“PCM”や“DTS”は、それぞれの入力信号を再生するときに設定してください。 • リモコンの **D.MODE** を押しても設定できます。 **D.MODE** を押すたびに次のように切り替わります。 → Auto → PCM → DTS 

Rename

選択した入力ソースの表示名を変更します。

設定項目	設定内容
Rename 選択した入力ソースの表示名を変更します。	• 8 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、48 ページをご覧ください。
Default 変更した入力ソース名を、お買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。

Source Level

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

選択した入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。
ソースによって再生レベルに差があるときなどに設定してください。

設定内容
-12dB～+12dB（0dB）

Playback Mode

入力ソースが“USB”のときに設定できます。

設定項目	設定内容
Repeat リピート再生モードを設定します。 USB	❏ **iPod 再生時** **All**：すべての曲をリピート再生します。 **One**：再生中の曲をリピート再生します。 **OFF**：リピート再生モードをキャンセルします。 ❏ **USB メモリー再生時** **All**：すべての曲をリピート再生します。 **One**：再生中の曲をリピート再生します。 **Folder**：再生中のフォルダの中の曲をリピート再生します。
Shuffle シャッフル再生モードを設定します。 USB	❏ **iPod 再生時** **Songs**：曲をシャッフル再生します。 **Albums**：アルバムをシャッフル再生します。 **OFF**：シャッフル再生モードをキャンセルします。 ❏ **USB メモリー再生時** **ON**：シャッフル再生モードを有効にします。 **OFF**：シャッフル再生モードをキャンセルします。

音声を調整する（Audio Adjust）

サラウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。
調節できる項目（パラメーター）は、再生している信号や選択しているサラウンドモードによって異なります。
調節できる各項目については、「サラウンドモードとパラメーター一覧表」（☞77ページ）をご覧ください。

メニューの操作のしかた



1 **AMP** を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

2 **MENU** を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

3 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

4 **ENTER** を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、**RETURN** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **MENU** を押してください。メニュー表示が消えます。

“Audio Adjust”でできること

Surround Parameter

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音場効果を調節します。入力信号によっては、本設定ができない場合があります。
調節できる各項目については、「サラウンドモードとパラメーター一覧表」（☞77 ページ）をご覧ください。

設定項目	設定内容
HT-EQ 映画のせりふの高域成分をやわらげ、聴きやすくします。映画のサウンドトラックは高音域が強調され耳ざわりな場合があります。この機能を使用すると、補正をおこなって適切な音調バランスにします。	**ON**：“HT-EQ”を使用します。 **<u>OFF</u>**：“HT-EQ”を使用しません。 リモコンの **HT-EQ** を押しても設定できます。 
D.Comp ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を圧縮します。	**Low**/**Mid**/**High**：ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。 **<u>OFF</u>**：ダイナミックレンジを圧縮しません。
DRC ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を圧縮します。	**<u>Auto</u>**：再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン / オフします。ドルビー TrueHD ソースのときに設定できます。 **Low**/**Mid**/**High**：ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。 **OFF**：ダイナミックレンジを圧縮しません。
LFE 低域信号（LFE）レベルを調節します。	**-10dB〜<u>0dB</u>** 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。 • ドルビーデジタルソース：“0dB” • DTS の映画ソース：“0dB” • DTS の音楽ソース：“–10dB”
Center Image センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。	**0.0〜1.0（<u>0.3</u>）**

設定項目	設定内容
Panorama フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。	**ON**：設定します。 **<u>OFF</u>**：設定しません。
Dimension 音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。	**0～6（<u>3</u>）**
Center Width センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。	**0～7（<u>3</u>）**
Height Gain フロントハイトチャンネルの音量をコントロールします。	**Low**：フロントハイトチャンネルの音量を小さくします。 **<u>Mid</u>**：フロントハイトチャンネルを標準音量で出力します。 **High**：フロントハイトチャンネルの音量を大きくします。 ご注意 "Height Gain"は、次の設定のときに表示します。 • メニューの"Amp Assign"設定（☞58 ページ）が"Normal"のとき • メニューの"Speaker Config."⇨"Front Height"の設定（☞59ページ）が"None"以外のとき • サラウンドモードが"PLⅡz" または PLⅡz のデコーダーを使用しているとき
Default "Surround Parameter"で設定された内容を、お買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 **<u>No</u>**：お買い上げ時の設定に戻しません。

Tone

<u>お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。</u>

トーンを調節します。

設定項目	設定内容
Tone Control トーンコントロール機能のオン / オフを設定します。	**ON**：低音や高音のトーンを調節できます。 **<u>OFF</u>**：トーンを調節せずに再生します。 メニューの"Dynamic EQ"設定（☞55 ページ）が"OFF"のときに設定できます。 ご注意 サラウンドモードが"DIRECT" モードのとき、トーンの調節はできません。
Bass 低音を調節します。	**-6dB～+6dB（<u>0dB</u>）** メニューの"Tone Control"の設定が"ON"のときに設定できます。
Treble 高音を調節します。	**-6dB～+6dB（<u>0dB</u>）** メニューの"Tone Control"の設定が"ON"のときに設定できます。

Audyssey Settings

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

MultEQ®、Dynamic EQ® および Dynamic Volume® の設定をします。
これらの設定は、Audyssey® Auto Setup をおこなった後に設定できます。
Audyssey 技術に関する詳細な情報については、81 ページをご覧ください。

ご注意

Audyssey Auto Setup をおこなっていない場合、または Audyssey Auto Setup をおこなった後にスピーカーの設定を変えると、Dynamic EQ/Dynamic Volume を選択できず、"Run Audyssey"を表示します。
このような場合は、再度 Audyssey Auto Setup をおこなうか、"Restore"（☞14 ページ）をおこなって Audyssey Auto Setup 実行後の設定に戻してください。

設定項目	設定内容
MultEQ MultEQ は、Audyssey Auto Setup の測定結果に基づき、リスニング環境における時間特性と周波数特性の両方を補正します。 ３種類の補正カーブから選択します。"Audyssey"に設定することをおすすめします。 MultEQ の設定は、Dynamic EQ や Dynamic Volume を動作させるために必要です。	**Audyssey**：すべてのスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Byp.L/R**：フロントスピーカー以外のスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Flat**：すべてのスピーカーの周波数特性が均一になるように補正します。 **Manual**：メニューの"Manual EQ"（☞56 ページ）で調節された周波数特性を適用します。 **OFF**："MultEQ"を使用しません。 • Audyssey Auto Setup をおこなうと、"Audyssey"、"Audyssey Byp. L/R"および"Audyssey Flat"が選択できます。 • Audyssey Auto Setup 後は自動的に"Audyssey"になります。 • "Audyssey"、"Audyssey Byp. L/R"または"Audyssey Flat"が選ばれたときは、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ 表示が点灯します。 • Audyssey Auto Setup をおこなった後、測定したスピーカーの本数を増やさずに、スピーカーの構成、距離、チャンネルレベルおよびクロスオーバー周波数などの設定を変更した場合は、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ 表示が点灯します。 • リモコンの **MULTEQ** を押しても、MultEQ の設定ができます。  **ご注意** • メニューの"EQ Customize"（☞61 ページ）で、"Not Used"に設定したイコライザーは選択できません。 • ヘッドホン使用時、"MultEQ"の設定は自動的に"OFF"になります。

設定項目	設定内容
Dynamic EQ® 人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。 Dynamic EQ は MultEQ と連動して動作します。	**ON**："Dynamic EQ"を使用します。 **OFF**："Dynamic EQ"を使用しません。 • "ON"に設定すると、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ DYN EQ 表示が点灯します。 • リモコンの **DYN EQ** を押しても設定できます。 **DYN EQ** を押すたびに次のように切り替わります。 Dynamic EQ：ON ←→ Dynamic EQ：OFF 
Reference Level Offset Audyssey Dynamic EQ は、一般的なフィルム（映画など）のミキシングレベルをリファレンスとしています。音量レベルが 0dB から下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に維持します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。 Dynamic EQ は、フィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定（5dB/10dB/15dB）が可能です。右記が推奨の設定レベルになります。	**0dB**（フィルムリファレンス）：お買い上げ時の設定です。映画などのコンテンツに最適です。 **5dB**：クラッシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。 **10dB**：ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。 **15dB**：ポップやロックなどの非常に高い音量レベルでリスニングしたり、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。 メニューの"Dynamic EQ"設定（☞55 ページ）が"ON"のときに設定できます。

設定項目	設定内容
Dynamic Volume® テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をお好みの音量設定値に自動的に調整します。	**Heavy**：音量レベルを最大に設定します。すべての音を一定の大きさにします。 **Medium**：音量レベルを中間に設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。 **Light**：音量レベルを最小に設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。 **<u>OFF</u>**：“Dynamic Volume”を使用しません。 • “Dynamic Volume”を“ON”に設定すると、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ DYN VOL 表示が点灯します。 • Audyssey Auto Setup（☞10ページ）で“Dynamic Volume”を“Yes”に設定した場合は、自動的に“Heavy”になります。 • リモコンの **DYN VOL** を押しても設定できます。**DYN VOL** を押すたびに、次のように切り替わります。  → Dynamic Volume : OFF → Dynamic Volume : Heavy Dynamic Volume : Light ← Dynamic Volume : Medium ←

Manual EQ

<u>お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。</u>

グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。
“Manual EQ”は、“MultEQ®”の設定（☞55 ページ）が“Manual”のときに設定できます。

設定項目	設定内容
Adjust CH 各スピーカーの音色を調節します。	① スピーカーの音色の調節方法を選択する。 **All CH**：すべてのスピーカーの音色を一緒に調節します。 **<u>L/R CH</u>**：左右のスピーカーの音色を一緒に調節します。 **Each CH**：スピーカーごとに音色を調節します。 ② スピーカーを選択する。 ③ 調節する周波数帯を選択する。 **63Hz／125Hz／250Hz／500Hz／1kHz／2kHz／4kHz／8kHz／16kHz** • “L/R CH”や“Each CH”を選んだときは、調節するスピーカーを選んでください。 ④ レベルを調節する。 **–20.0dB～+6.0dB（0.0dB）**
Base Curve Copy “MultEQ”の“Audyssey Flat”の補正カーブをコピーします。	**Yes**：コピーします。 **<u>No</u>**：コピーしません。 “Base Curve Copy”は、Audyssey® Auto Setup をおこなった後に表示します。
Default “Manual EQ”で設定した内容を、お買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 **<u>No</u>**：お買い上げ時の設定に戻しません。

M-DAX（Marantz Dynamic Audio eXpander）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

MP3、WMA（Windows Media Audio）や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。M-DAX は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。

設定内容

<u>OFF</u>：M-DAX を使用しません。
Low：高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。
Mid：圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します。
High：高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。

- アナログ信号や PCM 信号（fs = 44.1/48kHz）が入力されたときに設定できます。
- サラウンドモードが“DIRECT”および“PURE DIRECT”モードのときは設定できません。
- “OFF”以外に設定すると、フロントパネルの M-DAX 表示が点灯します。
- リモコンの **M-DAX** を押しても設定できます。

OFF → LOW → MID → HIGH → OFF



Audio Delay

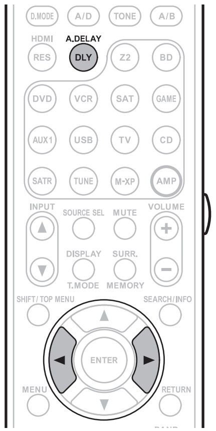
お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

映像を見ながら、音声の出力を遅らせる時間を調節します。

設定内容

<u>0ms</u>～200ms

- メニューの“Auto Lip Sync”の設定が“ON”のとき、および Auto Lip Sync 対応のテレビを接続しているときは、0 ～ 200ms の範囲で設定できます。
- “Audio Delay”の設定は、入力ソースごとに記憶させることができます。
- メニューの“Video Mode”（☞51 ページ）が“Game”モードのときは、ゲームモード用のオーディオディレイ値を設定できます。
- リモコンの **DLY** を押したあとに ◁ ▷ を押しても、オーディオディレイ値を設定できます。



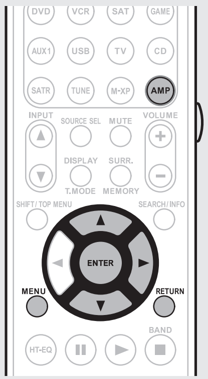
入門編
基本編
応用編
情報編

詳細な設定をする（Manual Setup）

Audyssey Auto Setup の設定内容を変更する場合や、音声、映像、表示などの設定を変更するときに設定します。

- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。
- Audyssey Auto Setup をおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、MultEQ、Dynamic EQ® および Dynamic Volume の選択ができなくなります（☞55、56 ページ）。

メニューの操作のしかた



1 **AMP** を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

2 **MENU** を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

3 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

4 **ENTER** を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、**RETURN** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **MENU** を押してください。メニュー表示が消えます。

"Manual Setup"でできること

Speaker Setup（☞58ページ）

```
4-1.Speaker Setup

1.Amp Assign
2.Speaker Config.
3.Bass Setting
4.Distance
5.Channel Level
6.Crossover Freq.
7.Front Sp Setup

[ENT]:Select [RTN]:Back
```

HDMI Setup（☞61 ページ）

```
4-2.HDMI Setup

Auto Lipsync   : ON
HDMI Audio Out : Amp
HDMI Control   : OFF

              [RTN]:Back
```

Audio Setup（☞61 ページ）

```
4-3.Audio Setup

1.EQ Customize
2.Bilingual Mode

[ENT]:Select [RTN]:Back
```

ZONE Setup（☞62ページ）

```
4-4.ZONE2 Setup

Bass         :    0dB
Treble       :    0dB
HPF          :   OFF
Level Lch    :    0dB
Level Rch    :    0dB
Channel      : Stereo

↓
              [RTN]:Back
```

Option Setup（☞62ページ）

```
4-5.Option Setup

1.Volume Control
2.Source Delete
3.On-Screen Display
4.Zone Rename
5.DC Trigger
6.Display
7.Setup Lock
[ENT]:Select [RTN]:Back
```

Speaker Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

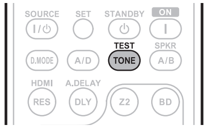
スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey® Auto Setup で測定した内容を変更するときにおこなってください。

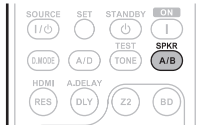
- Audyssey Auto Setup をおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、MultEQ®、Dynamic EQ® および Dynamic Volume® の選択ができなくなります（☞55、56 ページ）。
- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。

設定項目	設定内容
Amp Assign 本機に接続したスピーカーの設定をします。	**<u>Normal</u>**：7.1 チャンネル（フロント / センター / サラウンド / サラウンドバックまたはフロントハイト / サブウーハー）スピーカーを接続して使用するときに設定します。 **ZONE 2**：SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子にゾーン 2 用スピーカーを接続して使用するときに設定します。 **SPKR C**：SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子にフロントスピーカーのツィーター部を接続し、FRONT A 端子にフロントスピーカーのウーハー部を接続して、本機をバイアンプ接続で使用するときに設定します。
Speaker Config. スピーカーの有り・無しや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。 **ご注意** "Large" と "Small" の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、メニューの "Crossover Freq."（☞60 ページ）で設定した周波数を基準とした低域再生能力で判断してください。	**Front**：フロントスピーカーの大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **<u>Small</u>**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • "Subwoofer" の設定が "No" の場合、"Front" の設定は自動的に "Large" になります。 • "Front" の設定が "Small" の場合"、Center"、"Surround"、"Surround Back" および "Front Height" を "Large" に設定することはできません。
	Center：センタースピーカーの有無や大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **<u>Small</u>**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：センタースピーカーを使用しません。 "Front" の設定が "Small" の場合、"Large" は表示しません。
	Subwoofer：サブウーハーの有無を設定します。 • **<u>Yes</u>**：サブウーハーを使用します。 • **No**：サブウーハーを使用しません。 "Front" の設定が "Small" の場合、"Subwoofer" の設定は自動的に "Yes" になります。

設定項目	設定内容
Speaker Config. （つづき）	**Surround**：サラウンドスピーカーの有無や大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：サラウンドスピーカーを使用しません。 • “Surround”の設定が“Large”のとき、“Surround Back”および“Front Height”を“Large”に設定できます。 • “Surround”の設定が“None”のとき、“Surround Back”および“Front Height”の設定は自動的に“None”になります。
	S.Back：サラウンドバックスピーカーの有無や大きさ、本数を設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：サラウンドバックスピーカーを使用しません。 • **2sp**：サラウンドバックスピーカーを 2 本使用します。 • **1sp**：サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用します。この設定を選んだときは、サラウンドバックスピーカーを左（L）チャンネルに接続してください。 ご注意 メニューの“Amp Assign”設定（☞58 ページ）が“Normal”以外のとき、“S.Back”の設定はできません。
	Front Height：フロントハイトスピーカーの有無や大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：フロントハイトスピーカーを使用しません。 ご注意 メニューの“Amp Assign”設定（☞58 ページ）が“Normal”以外のとき、“Front Height”の設定はできません。

設定項目	設定内容
Bass Setting サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。	**Subwoofer Mode**：サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。 • **LFE**：サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさを“Small”に設定しているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • **LFE+Main**：サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • “Subwoofer Mode”は、“Speaker Config.”⇨“Subwoofer”（☞58 ページ）の設定が“Yes”のときに設定できます。 • 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選んでください。 • 常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+Main”に設定してください。 ご注意 メニューの“Speaker Config.”の“Front”、“Center”の設定が“Large”で、なおかつ“Subwoofer Mode”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサラウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。
	LPF for LFE：LFE 信号の再生帯域を設定します。 • **80Hz**/**90Hz**/**100Hz**/**110Hz**/**120Hz**/**150Hz**/**200Hz**/**250Hz**
Distance リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。 あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。	**Unit**：距離の単位を設定します。 • **Meters** / **Feet**
	Step：距離の最小可変幅を設定します。 • **0.1m** / **0.01m** • **1ft** / **0.1ft**
	FL/**FR**/**C**/**SW**/**SL**/**SR**/**SBL**＊/**SBR**＊/**FHL**/**FHR**：距離を設定するスピーカーを選びます。 ＊ メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞59 ページ）が“1sp”のときは、“S.Back”を表示します。 • **0.00m～18.00m** / **0.0ft～60.0ft**：距離を設定します。 • メニューの“Amp Assign”（☞58 ページ）および“Speaker Config.”（☞58 ページ）の設定により、選択できるスピーカーが異なります。 • お買い上げ時の設定： FL/FR/C/SW/FHL/FHR：3.6m（12.0ft） SL/SR/SBL/SBR：3.0m（10.0ft） • 各スピーカーに設定した距離の差は、6.0m（20ft）以下になるように設定してください。 ご注意 メニューの“Speaker Config.”（☞58 ページ）で、“None”に設定したスピーカーは表示しません。

設定項目	設定内容
Distance （つづき）	**Default**：“Distance”で設定した内容を、お買い上げ時の設定に戻します。 • **Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “Default”を選んで **ENTER** を押すと、“Default Setting?”というメッセージが表示されますので、“Yes”または“No”を選び、**ENTER** を押してください。
Channel Level 各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。	**Test Tone Start**：テストトーンを出力します。 • **FL**/**C**/**FR**/**SR**/**SBR**＊/**SBL**＊/**SL**/**FHL**/**FHR**/**SW**：テストトーンを出力するスピーカーを選びます。 ＊ メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞59 ページ）が“1sp”のときは、“S.Back”を表示します。 • **-12.0dB～+12.0dB (<u>0.0dB</u>)**：音量を調節します。 • サブウーハーの音量が“-12dB”のときに ◁ を押すと、“Subwoofer”の設定は“OFF”になります。 • “Channel Level”を調節すると、調節した値をすべてのサラウンドモードに対して設定します。サラウンドモードごとにチャンネルレベルを調節したい場合は、43 ページをご覧ください。 • リモコンの **TEST TONE** を押すと、直接この設定項目に入ることができます。  **ご注意** • メニューの“Speaker Config.”設定（☞58 ページ）で、“None”に設定したスピーカーは表示しません。 • 本体の PHONES 端子にヘッドホンが挿入されている場合は、“Channel Level”を表示しません。
	Default：“Channel Level”で設定した内容を、お買い上げ時の設定に戻します。 • **Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。

設定項目	設定内容
Crossover Freq. 各チャンネルからサブウーハーに出力する低音域信号の上限の周波数を設定します。クロスオーバー周波数は、スピーカーの低音域の再生能力に合わせて設定してください。	**Crossover**：すべてのスピーカーに対して、クロスオーバー周波数を設定します。 • **40Hz**/**60Hz**/**<u>80Hz</u>**/**90Hz**/**100Hz**/**110Hz**/**120Hz**/**150Hz**/**200Hz**/**250Hz** **Advanced**：スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。 • **Front**/**Center**/**Surround**/**S.Back**/**Front Height**：クロスオーバー周波数を設定するスピーカーを選びます。 • **40Hz**/**60Hz**/**<u>80Hz</u>**/**90Hz**/**100Hz**/**110Hz**/**120Hz**/**150Hz**/**200Hz**/**250Hz**：クロスオーバー周波数を設定します。 • “Crossover Freq.”は、メニューの“Subwoofer Mode”設定（☞59 ページ）が“LFE+Main”のとき、または“Small”に設定しているスピーカーがあるときに設定できます。 • クロスオーバー周波数は、通常“80Hz”に設定してください。ただし、小型スピーカーをご使用になる場合は、より高い周波数に設定することをおすすめします。 • “Small”に設定しているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。 • メニューの“Subwoofer Mode”（☞59 ページ）の設定により、“Advanced”で設定できるスピーカーが異なります。 　• “LFE”の場合は“、“Speaker Config.”で“Small”に設定しているスピーカーの設定ができます。“Large”に設定しているスピーカーのときは、“Full Band”が表示され、設定できません。 　• “LFE+Main”の場合は、スピーカーの大きさに関係なく設定ができます。
Front Speaker Setup 使用するフロントスピーカーを設定します。	• **<u>A</u>**：フロントスピーカー A を使用します。 • **B**：フロントスピーカー B を使用します。 • **A+B**：フロントスピーカー A とフロントスピーカー B を同時に使用します。 リモコンの **SPKR A/B** を押しても設定できます。 

HDMI Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

HDMI の映像出力や音声出力に関する設定をします。

設定項目	設定内容
Auto Lip Sync 出力する音声と映像の時間のずれを自動的に補正します。	**ON**：補正します。 **OFF**：補正しません。
HDMI Audio Out HDMI の音声の出力先を設定します。	**Amp**：本機に接続したスピーカーで再生します。 **TV**：本機に接続したテレビで再生します。 HDMI コントロール機能がはたらいているときは、本機に接続したテレビの音声設定を優先します（☞42 ページ「HDMI コントロール機能」）。
HDMI Control HDMI 接続した HDMI コントロール対応機器と連動して操作できます。	**ON**：HDMI コントロール機能を使用します。 **OFF**：HDMI コントロール機能を使用しません。 • HDMI コントロール機能に対応していない機器と接続した場合は、"HDMI Control"を"OFF"に設定してください。 • 接続した機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。 • HDMIコントロール機能については、☞42 ページ「HDMIコントロール機能」をご覧ください。 ご注意 • **"HDMI Control"を"ON"に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。**長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜くことをおすすめします。 • HDMI コントロール機能は、電源をオンにするか、スタンバイ状態のときに動作します。 • HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。 • "HDMI Control" の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
Standby Source 電源がスタンバイのときに、HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。	**Last**：電源を入れたとき、前回使用していた入力ソースでスタンバイします。 **HDMI1/HDMI2/HDMI3/HDMI4**：電源を入れたとき、それぞれの入力端子を割り当てた入力ソースでスタンバイします。 "Standby Source" は"HDMI Control" の設定が"ON" のときに設定できます。

設定項目	設定内容
Power Off Control 本機と外部機器の電源オフを連動します。	**All**：入力ソースに関わらず、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。 **Video**：入力ソースが BD/DVD/VCR/SAT/GAME/AUX1/TV のときに、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。 **OFF**：本機はテレビの電源に連動しません。 "Power Off Control" は、"HDMI Control" の設定が"ON" のときに設定できます。

Audio Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音声の再生に関する設定をします。

設定項目	設定内容
EQ Customize リモコンの **MULTEQ** を押したときに、使用しないイコライザーを表示しないように設定します。 	**Audyssey Byp. L/R**："Audyssey Byp L/R" イコライザーを使用しないときに設定します。 • **Used**：使用します。 • **Not Used**：使用しません。 "Audyssey® Auto Setup" をおこなった後に、"Audyssey Byp. L/R" の設定ができます。
	Audyssey Flat："Audyssey Flat" イコライザーを使用しないときに設定します。 • **Used**：使用します。 • **Not Used**：使用しません。 "Audyssey Auto Setup" をおこなった後に、"Audyssey Flat" の設定ができます。
	Manual："Manual"イコライザーを使用しないときに設定します。 • **Used**：使用します。 • **Not Used**：使用しません。
Bilingual Mode AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。	**Main**：主音声のみ出力します。 **Sub**：副音声のみ出力します。 **Main+Sub**：主音声と副音声をミックスして出力します。 **Main/Sub**：主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。 このモードは、二重音声のソースを再生中に設定できます。

ZONE Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

ゾーン 2 で再生する音声の設定をします。

設定項目	設定内容
Bass 低音のトーンを調節します。	**-10dB～+10dB (<u>0dB</u>)**
Treble 高音のトーンを調節します。	**-10dB～+10dB (<u>0dB</u>)**
HPF 低音が歪んで聞こえるときに、低域成分をカットして出力します。	**ON**：低域成分をカットして出力します。 **<u>OFF</u>**：低域成分をカットしません。
Level Lch 左チャンネルの出力レベルを調節します。	**-12dB～+12dB (<u>0dB</u>)** “Level Lch”は、“Channel”の設定（62 ページ）が“Stereo”のときに設定できます。
Level Rch 右チャンネルの出力レベルを調節します。	**-12dB～+12dB (<u>0dB</u>)** “Level Rch”は、“Channel”の設定（62 ページ）が“Stereo”のときに設定できます。
Channel マルチゾーンから出力する信号を設定します。	**<u>Stereo</u>**：ステレオ信号を出力します。 **Mono**：モノラル信号を出力します。
Volume Level 音量出力レベルを設定します。	**<u>Variable</u>**：本機やリモコンで音量の調節ができます。 **-40dB (41)**：音量は常に -40dB になります。外部のアンプで音量を調節する場合に設定します。 **0dB (81)**：音量は常に 0dB になります。外部のアンプで音量を調節する場合に設定します。 “Amp Assign”の設定（58 ページ）が“ZONE2”のとき、“Volume Level”は“Variable”になります。
Volume Limit 音量の上限を設定します。	**OFF**：設定しません。 **-20dB (61)/<u>-10dB (71)</u>/0dB (81)** • ゾーン2の“Volume Level”設定（62 ページ）が“Variable”のときに設定できます。 • メニューの“Volume Display”設定（62 ページ）が“Absolute”のときは、0～99 の範囲で表示します。
Power On Level ゾーン 2 またはゾーン 3 の電源を入れたときの音量を設定します。	**<u>Last</u>**：記憶している音量になります。 **- - - (0)**：常に電源を入れたときは消音状態になります。 **-80dB～18dB (1～99)**：設定した音量になります。 • ゾーン2の“Volume Level”設定（62 ページ）が“Variable”のときに設定できます。 • メニューの“Volume Display”設定（62 ページ）が“Absolute”のときは、0～99 の範囲で表示します。
Mute Level ミューティング時の音量の減衰量を設定します。	**<u>Full</u>**：消音状態になります。 **-40dB**：現在の音量から 40dB 下げて再生します。 **-20dB**：現在の音量から 20dB 下げて再生します。

Option Setup

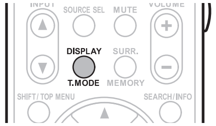
お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

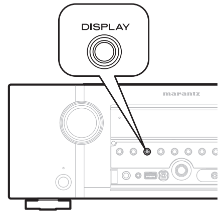
その他の設定をします。

設定項目	設定内容
Volume Control 音量に関する設定をします。	**Volume Display**：音量の表示方法を設定します。 • **<u>Relative</u>**：- - -dB（最小）、-80.5dB～18dB の範囲で表示します。 • **Absolute**：0（最小）～ 99 の範囲で表示します。 “Volume Display”を設定すると、“Volume Limit”や“Power On Level”の表示方法も切り替わります。
	Volume Limit：音量の上限を設定します。 • **<u>OFF</u>**：音量の上限を設定しません。 • **-20dB (61)/-10dB (71)/0dB (81)**
	Power On Level：電源をオンにしたときの音量を設定します。 • **<u>Last</u>**：前回使用したときの音量になります。 • **- - - (0)**：常に消音状態になります。 • **-80dB～18dB (1～99)**：設定した音量になります。
	Mute Level：ミューティング時の音量の減衰量を設定します。 • **<u>Full</u>**：消音状態になります。 • **-40dB**：現在の音量から 40dB 下げて再生します。 • **-20dB**：現在の音量から 20dB 下げて再生します。
Source Delete 使用しない入力ソースを表示しないように設定します。	**BD / DVD / VCR / SAT / GAME / AUX1 / USB / TV / CD / TUNER / M-XPort**：使用しない入力ソースを選びます。 • **<u>ON</u>**：使用します。 • **Delete**：使用しません。 ご注意 “Delete”に設定した入力ソースは、**SOURCE SELECT** を操作しても選択できません。
On-Screen Display テレビ画面の表示に関する設定をします。	**Screensaver**：スクリーンセーバーの表示を設定します。 • **<u>ON</u>**：メニュー表示中や iPod または TUNER 画面を表示中に、何も操作をしない状態が 3 分以上続くとスクリーンセーバー画面に切り替わります。△▽◁ ▷ を押すと、スクリーンセーバーを解除し、スクリーンセーバー表示前の画面を表示します。 • **OFF**：使用しません。
	Text：サラウンドモードや入力モード切り替えなどの操作時に、各状態を表示します。 • **<u>ON</u>**：表示します。 • **OFF**：表示しません。

設定項目	設定内容
On-Screen Display （つづき）	**Master Volume**：主音量調節時に主音量レベルを表示します。 • **Bottom**：画面下に表示します。 • **Top**：画面上に表示します。 • **OFF**：表示しません。 主音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、“Top”に設定してください。
	USB：入力ソースが“USB”のときに、USB 画面の表示時間を設定します。 • **Always**：常に表示します。 • **30sec**：30 秒間表示します。 • **10sec**：10 秒間表示します。 • **OFF**：表示しません。
	TUNER：入力ソースが“TUNER”のときに、チューナー画面の表示時間を設定します。 • **Always**：常に表示します。 • **30sec**：30 秒間表示します。 • **10sec**：10 秒間表示します。 • **OFF**：表示しません。
Zone Rename 画面に表示されるゾーンの表示名を、お好みの名前に変更します。	• 10 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、48 ページをご覧ください。
	Default：“Zone Rename” で設定した内容を、お買い上げ時の設定に戻します。 • **Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。
DC Trigger 入力ソースやサラウンドモードなどに対して、トリガーアウトを動作させる条件を選びます。 トリガーアウトについては、See「外部のコントロール機器と接続する」(☞41 ページ)	**Trigger Out** ❑ **ゾーン(MAIN ZONE/ZONE2)に対して設定するとき** “ON” に設定されたゾーンの電源に連動して、トリガーアウトが動作します。 ❑ **入力ソースに対して設定するとき** “ON” に設定された入力ソースが選ばれたときに、トリガーアウトが動作します。 「ゾーンに対して設定するとき」で“ON” に設定されたゾーンに対して有効です。 ❑ **サラウンドモードに対して設定するとき** “ON” に設定されたサラウンドモードが選ばれたときに、トリガーアウトが動作します。 • ON：出力の条件にします。 • - - -：条件にしません。
	Default：“Trigger Out” で設定された内容を、お買い上げ時の設定に戻します。 • **Yes**：設定を初期値に戻します。 • **No**：設定をお買い上げ時の設定に戻しません。

設定項目	設定内容
Display 本体のディスプレイの点灯または消灯を設定します。	**ON**：ディスプレイを常に点灯します。 **Display Auto OFF**：状態表示以外はディスプレイを消灯します。 **Display OFF**：ディスプレイを常に消灯します。 リモコンまたは本体の **DISPLAY** を押しても操作できます。 **DISPLAY** を押すたびに、次のように切り替わります。 → ON → Display Auto Off → Display OFF →
Setup Lock 設定した内容を変更できないようにロックします。	**ON**：設定した内容をロックします。 **OFF**：設定した内容をロックしません。 設定を解除するときは、“Setup Lock”を“OFF”に設定してください。 **ご注意** “Setup Lock” を“ON” に設定すると、次の設定が変更できなくなります。また、次の設定に関連するボタンを操作すると、ディスプレイに“SETUP LOCKED!”を表示します。 ・メニュー操作　・Dynamic EQ® ・M-DAX　・Dynamic Volume® ・MultEQ®　・Channel Level





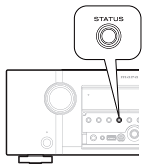
情報(Information)

本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。

項目	設定内容
Status 現在の設定状態を表示します。 ご注意 表示する内容は、入力ソースによって異なります。	❏ **MAIN ZONE** メインゾーンの設定状態を表示します。 **Select Source**(入力ソース選択) **Name**(ネーム) **Surround Mode**(サラウンドモード) **Input Mode**(入力モード) **Decode Mode**(デコードモード) **Video Select**(ビデオセレクト機能) **Video Mode**(ビデオモード) **Content Type**(コンテンツタイプ)
	❏ **ZONE2** ゾーン 2 の設定状態を表示します。 **Power**(電源) **Select Source**(入力ソース選択) **Volume Level**(音量レベル) ゾーン2の設定状態の表示は、メニューの"Amp Assign"(☞58ページ)の設定で"ZONE2"が選択されているときに表示します。
Audio Input Signal 音声入力信号の情報を表示します。	**Surround Mode**：設定しているサラウンドモード **Signal**：入力信号の種類 **fs**：入力信号のサンプリング周波数 **Format**：入力信号のチャンネル数(フロント / サラウンド /LFE の有無) **Offset**：ダイアログノーマライゼーションの補正値 **Flag**：サラウンドバックチャンネルを含む信号を入力しているときに表示します。入力信号が Dolby Digital EX、DTS-ES Matrix のときは"MATRIX"、DTS-ES Discrete 信号などのときは"DISCRETE"を表示します。

ダイアログノーマライゼーション機能について

Dolby Digital ソースの再生中、自動的に動作します。
この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。
補正値は、本体の **STATUS** でも確認できます。




```
Offset  - 4dB
```

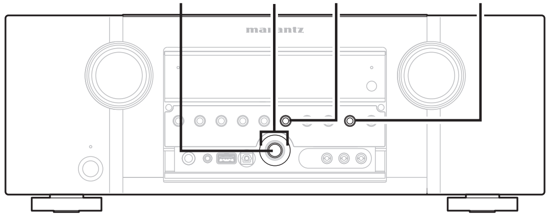
数字は補正値です。変更できません。

項目	設定内容
HDMI Information HDMI 入出力信号や HDMI モニターの情報を表示します。	**HDMI Signal Information**(HDMI 信号情報) • **Resolution**(解像度) **Color Space**(色空間方式) **Pixel Depth**(ビット数)
	HDMI Monitor Information(HDMI モニター情報) • **Interface**(インターフェース) **Suport Resolution**(対応解像度)
Preset Channel プリセットチャンネルの情報を表示します。 TUNER	**A/B/C/D/E/F/G** **A1～A8/B1～B8/C1～C8/D1～D8/E1～E8/F1～F8/G1～G8**

その他の設定

リモートコントロールの設定

- 本機の REMOTE CONTROL IN 端子にリモコン受光ユニット（別売り）を接続するときは、必ず以下の操作で本機のリモコン信号の受光機能を無効にしてください。
- お買い上げ時のリモコン信号の受光機能は有効に設定しています。



リモコン信号の受光機能を無効にする

1 **リモコン信号の受光機能を有効にしているときに、ZONE2 ON/OFF と RETURN を同時に約 3 秒間押す。**
"IR:<　ENABLE　>"を表示します。

2 **◁ ▷ を押して"DISABLE"を選ぶ。**

3 **ENTER を押す。**
本機のリモコン信号の受光機能が無効になります。

リモコン信号の受光機能を有効にする

1 **リモコン信号の受光機能を無効にしているときに、ZONE2 ON/OFF と RETURN を同時に約 3 秒間押す。**
"IR:<　DISABLE　>"を表示します。

2 **◁ ▷ を押して"ENABLE"を選ぶ。**

3 **ENTER を押す。**
本機のリモコン信号の受光機能が有効になります。

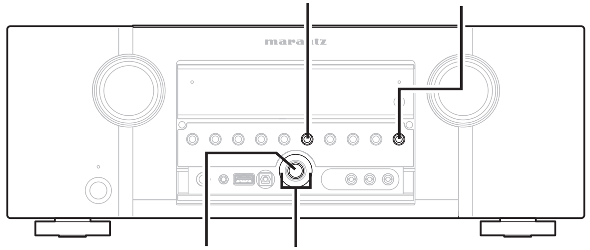
ご注意

- リモコン受光ユニット（別売り）を接続していないときは、この設定はおこなわないでください。本機をリモコンで操作できなくなります。
- リモコン信号の受光機能を無効にしているときに本機の電源コードを抜くと、リモコン信号の受光機能が有効に設定されます。

オン スクリーン ディスプレイ（OSD）出力モードの設定

OSD メニューの出力モードを本機とテレビの接続方法に合わせて設定する必要があります。

- お買い上げ時の設定は"Comp"です。



1 **RETURN と PURE DIRECT を同時に約 3 秒間長押しする。**
映像信号方式の設定をディスプレイに表示します。
（"OSD Out: ◄ Comp ►"または"OSD Out: ◄ Video ►"を表示します。）

2 **◁ ▷ を押して接続方法に合わせて設定を選ぶ。**

Comp	本機のコンポーネントビデオモニター出力端子とテレビを接続するときに選びます。
Video	本機のビデオ出力端子とテレビを接続するときに選びます。

3 **ENTER を押して設定を確定します。**

✎

本機の HDMI 出力端子に接続したテレビで OSD メニューを見る場合は、どちらに設定されていても問題ありません。

リモコンで機器を操作する

付属のリモコンにプリセットコードを登録すると、各社の機器の操作ができるようになります。

AV 機器を操作する

1 **入力ソース選択ボタンを押して、入力ソースを選ぶ(☞26 ページ)。**

リモコンの操作モードを次の表のように切り替えます。

ご注意

本機に付属のリモコンは、入力ソース選択ボタンを 1 回押すとリモコンの操作モードが切り替わります。

また、入力ソース選択ボタンを 2 回続けて押すとリモコンの操作モードと本機の入力ソースが切り替わります。



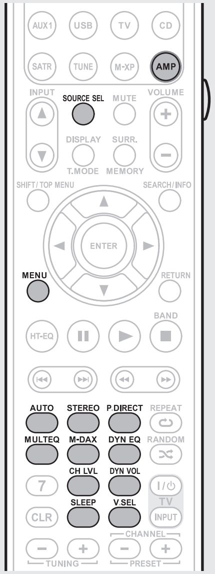
入力ソース選択ボタン	本機の入力ソース	リモコンで操作できる機器（操作モード）
BD ＊	BD	**BD** ボタンに登録している機器
DVD ＊	DVD	**DVD** ボタンに登録している機器
VCR	VCR	**VCR** ボタンに登録している機器
SAT ＊	SAT	**SAT** ボタンに登録している機器
GAME	GAME	**GAME** ボタンに登録している機器
AUX1	AUX1	**AUX1** ボタンに登録している機器
USB	USB	**USB** ボタンに登録している機器
TV ＊	TV	**TV** ボタンに登録している機器
CD ＊	CD	**CD** ボタンに登録している機器
TUNE	TUNER	本機(チューナー操作)
M-XP	M-XPort	**M-XP** ボタンに登録している機器

＊ このボタンにプリセットコードを登録すると、本機のリモコンでお手持ちの機器の操作がおこなえます。

ご注意

リモコンがアンプ操作モード以外のときに下記の動作をおこなう場合は、**AMP** を押してリモコンをアンプ操作モードに切り替えてから操作してください。

- **MENU**を押して、本機のメニュー操作をおこなうとき
- **CH LVL** を押して、本機のチャンネルレベルを設定するとき
- **MULTEQ**、**DYNEQ** または **DYN VOL** を押して、Mult EQ、Dynamic EQ、Dynamic Volume の機能を切り替えたいとき
- **V.SEL** を押して、Video Select 機能を使用するとき
- **SLEEP** を押して、スリープタイマー機能を使用するとき
- **SOURCE SEL** を押して、Source Select 画面を呼び出すとき
- **M-DAX** を押して、M-DAX 機能を切り替えたいとき
- **AUTO**、**STEREO** または **P.DIRECT** を押して、リスニングモードをダイレクトに選択したいとき



2 **本機または入力ソースを切り替えた機器の操作をおこなう。**

- 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
また、iPod、チューナー、USB メモリーの操作については、下記のページをご覧ください。
  - iPod(☞27 ページ)
  - チューナー(☞29 ページ)
  - USB メモリー(☞28 ページ)

プリセットコードを登録する

付属のリモコンにプリセットコードを登録すると、お手持ちの DVD プレーヤーやテレビなど各社の機器の操作ができるようになります。

プリセットコードの登録方法は 2 通りあります。

- 4 桁コードを入力して登録する
- コード表をスキャンして登録する

機器の操作に使用できる主なボタン

① **SOURCE ON/OFF**：各機器の電源オン / オフを切り替えます。
② △▽◁ ▷、**ENTER**、**RETURN**：各機器のメニュー操作をします。
③ **MENU**、**SETUP**、**TOP MENU**：各機器のメニューを表示します。
④ ▶、■、❚❚、◀◀、▶▶、❙◀◀、▶▶❙
⑤ 数字ボタン（**0**〜**9**、**+10**）
⑥ **PRESET +**、**PRESET –**
⑦ **TV POWER**、**TV INPUT**：テレビの操作をおこないます。
このボタンは、どのモードのときでも有効です。

各機器のリモコン操作の詳細については、27、28、29、68 ページをご覧ください。

お買い上げ時に設定されているプリセットコード

お買い上げ時の設定では、各入力ソース切り替えボタンに次の機器を登録しています。ご使用になる機器に合わせて変更できます。

入力ソース選択ボタン	カテゴリー	プリセットコード
TV	テレビ	1000
DVD	DVD プレーヤー	2000
CD	CD プレーヤー	3000
SAT	衛星チューナー（セットトップボックス）	4000
BD	ブルーレイディスクプレーヤー	5000

ご注意

- **BD**、**DVD**、**TV**、**SAT** および **CD** 以外はプリセットコードを登録できません。
- お買い上げ時の設定は、すべてマランツ製品のリモコンコードが登録されています。

4 桁コードを入力して登録する

1 **プリセットコードを登録したい入力ソース選択ボタンと SET を SEND 表示が 2 回点滅するまで同時に長押しする。**
バックライトが点滅し続けます。

2 **プリセットコード表（☞ 巻末）を参照して、登録する機器のメーカーの番号（4 桁）を 0 ~ 9 を押して入力する。**
設定が完了すると、SEND 表示が 2 回点滅します。



ご注意
SEND 表示が 2 回点滅しないときは、手順 1 からやり直し、同じコードを再度入力してください。

コード表をスキャンして登録する

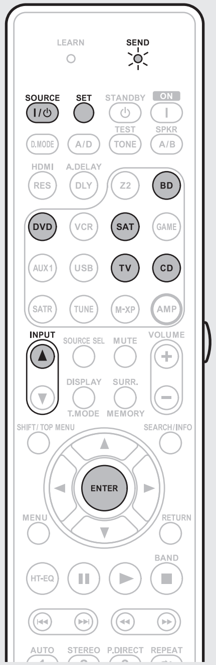
1 **プリセットコードを登録したい機器の電源をオンにする。**

2 **プリセットコードを登録したい入力ソース選択ボタンと SET を SEND 表示が 2 回点滅するまで同時に長押しする。**
バックライトが点滅し続けます。

3 **リモコンを登録したい機器のリモコン受光部に向け、INPUT ▲ と SOURCE ON/OFF ボタンを交互にゆっくりと押す。**

4 **プリセットコードを登録したい機器の電源がオフになったら、ボタンを押すのをやめる。**

5 **ENTER を押す。**
設定が完了します。



❏設定したプリセットコードを確認する

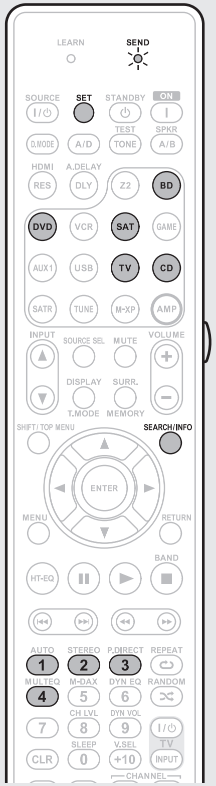
1 **プリセットコードを登録した入力ソース選択ボタンと SET を SEND 表示が 2 回点滅するまで同時に長押しする。**
バックライトが点滅し続けます。

2 **SEARCH/INFO を押す。**
SEND 表示が 2 回点滅します。

3 **最初の 1 桁目のコード番号を確認するために 1 を押す。**
SEND 表示が点滅する回数が番号になります（例：3 回点滅したら「3」、5 回点滅したら「5」）。

- コード番号が「0」のときは SEND 表示は点滅しません。
- コード番号は書きとめながら確認してください。

4 **次に 2 桁目のコード番号を確認するために 2 を押す。同じ要領で、3 桁目と 4 桁目のコード番号を確認するために 3、4 を押す。**



❏設定したコードをリセットする

1 **プリセットコードを登録した入力ソース選択ボタンと SET を SEND 表示が 2 回点滅するまで同時に長押しする。**
バックライトが点滅し続けます。

2 **下記の 4 桁のコード番号を押す。**
SEND 表示が 2 回点滅し、リセットを完了します。

TV : 1000
DVD : 2000
CD : 3000
SAT : 4000
BD : 5000

- リセットが完了すると、選択した入力ソースのリモコンコードはお買い上げ時の設定に戻ります。



プリセットコードを登録した機器を操作する

付属のリモコンは、本機以外のコンポーネント製品も操作できます。

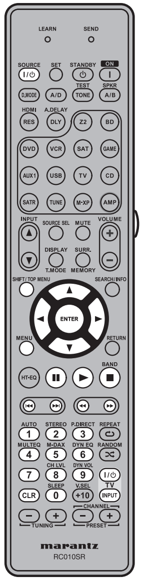


1 入力ソースを切り替える（☞26ページ）。

2 機器を操作する。

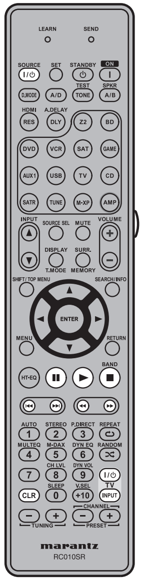
• 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

❑ブルーレイディスクプレーヤー/ HD DVD プレーヤー/DVD プレーヤー/ DVD レコーダー



操作ボタン	機能
SOURCE ON/OFF	電源オン / スタンバイ
MENU	（ポップアップ）メニュー
TOP MENU	トップメニュー
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
II	一時停止
■	停止
0 ~ 9	タイトルまたはチャプターの選択 / チャンネルの選択
CLR	入力の取り消し
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：Marantz）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：Marantz）

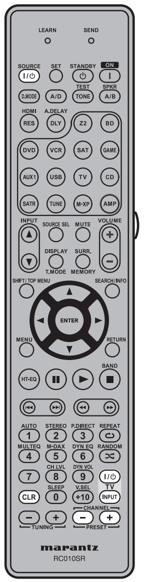
❑CD プレーヤー/CD レコーダー



操作ボタン	機能
SOURCE ON/OFF	電源オン / オフ ＊
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
II	一時停止
■	停止
CLR	入力の取り消し
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：Marantz）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：Marantz）

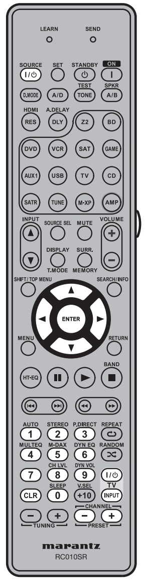
＊ 機器によっては、電源オン / スタンバイの動作になる場合があります。

❑テレビ



操作ボタン	機能
SOURCE ON/OFF	電源オン / スタンバイ
CHANNEL +, –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）
CLR	入力の取り消し
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：Marantz）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：Marantz）

❑衛星チューナー（セットトップボックス）（SAT）



操作ボタン	機能
SOURCE ON/OFF	電源オン / スタンバイ
CHANNEL +, –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
0 ~ 9	チャンネルの選択
CLR	入力の取り消し
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：Marantz）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：Marantz）

学習モードで操作する

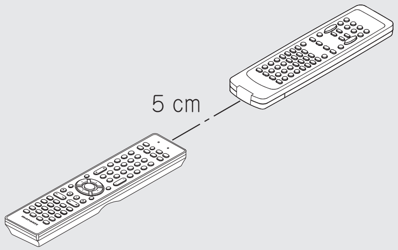
本機のリモコンには、他機のリモコンのリモートコードを学習・記憶させることができます。
お手持ちの AV 機器がマランツ以外の製品の場合やプリセットコードの登録をおこなっても操作できない場合は、他機のリモートコードを本機のリモコンに記憶させてご使用ください。
このリモコンは約 160 のリモートコードを学習させることができます。

ご注意

電池の残量が少ない状態では学習手順を正しく操作できないことがあります。

学習モードのしかた

1 **約 5cm 離して、他のリモコンの赤外線送信部が付属リモコンの信号送信窓に向くようにリモコンをまっすぐに向かい合わせて置く。**



2 **LEARN 表示が点滅するまで SET と SOURCE SEL を同時に長押しする。**



3 **入力ソース選択ボタン（BD, DVD, SAT, GAME, AUX1, TV, CD）を押して入力ソースを選ぶ。**

4 **学習させる本機のリモコンボタンを押す。**
LEARN 表示が点灯します。

ご注意

- **SOURCE** と **D.MODE** には、リモートコードを学習させることはできません。
- チューナーモードとアンプモードのときは、リモートコードを学習させることはできません。

5 **学習させたい他機のリモコンボタンを SEND 表示が 2 回点滅するまで押し続ける。**

- SEND 表示がもう一度点滅した場合は、本機のリモコンでは学習できないリモコンコードであるか、転送信号がノイズで妨げられています。
- SEND 表示が 1 回しか点滅しない場合は、再度ボタンを押してください。
- リモコンのメモリーがいっぱいになった場合は、SEND 表示と LEARN 表示が 1 回点滅します。さらにリモコンコードを学習させたい場合は、すでに学習済みの他のボタンを削除してください。

ご注意

SEND 表示が点灯して LEARN 表示が点滅した場合は、記憶されていません。

6 **手順 4 と 5 を繰り返して、同じ入力ソースの他のボタンを学習させる。**

7 **手順 3 から 6 を繰り返して、他の入力ソースの他のボタンを学習させる。**

8 **リモコンのプログラムが終わったら SET を押す。**
LEARN 表示が消灯し、学習モードを完了します。

学習モードで約 1 分間どのボタンも押さないと、自動的に学習モードを終了します。

❑学習させたリモートコードを削除する

リモートコードは、「ボタンごと」、「ソースごと」、「すべてのソース」の 3 つの方法で削除することができます。

ボタンごとのリモートコードを削除する

1 **LEARN 表示が点滅するまで SET と SOURCE SEL を同時に長押しする。**



2 **削除したい入力選択ボタン（BD, DVD, SAT, GAME, AUX1, TV, CD）を押す。**

3 **D.MODE を押したままの状態で、削除したい学習済みのボタンを 2 回押す。**
SEND 表示が 2 回点滅後、学習モードに戻ります。

4 **SET を押して通常モードに戻す。**

ソースごとのリモートコードを削除する

1 LEARN 表示が点滅するまで **SET** と **SOURCE SEL** を同時に長押しする。

2 **D.MODE** を押したままの状態で、削除したい学習済みの入力ソース選択ボタン（**BD**, **DVD**, **SAT**, **GAME**, **AUX1**, **TV**, **CD**）を 2 回押す。
LEARN 表示が点灯します。

3 削除を続ける場合は **ENTER** を押す。
SEND 表示が 2 回点滅後、学習モードに戻ります。

• 削除を止める場合は、**ENTER** を押さないでください。
他のボタンを押してください。



4 **SET** を押して通常モードに戻す。

すべてのソースのリモートコードを削除する

1 LEARN 表示が点滅するまで **SET** と **SOURCE SEL** を同時に長押しする。

2 **D.MODE** を押したままの状態で、**ON** と **STANDBY** を同時に押す。
LEARN 表示が点灯します。

3 削除を続ける場合は **ENTER** を押す。
SEND 表示が 2 回点滅後、学習モードに戻ります。

• 削除を止める場合は、**ENTER** を押さないでください。
他のボタンを押してください。



4 **SET** を押して通常モードに戻す。

ご注意

リモートコードを削除すると、初期設定に戻ります。

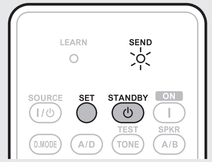
バックライトを設定する

リモコン側面のライトボタンを押すと、リモコンのボタンが 2 秒間光ります。ボタンが光っているときにライトボタンを押すと、さらにボタンが 2 秒間光ります。

• お買い上げ時の設定はバックライトは点灯します。

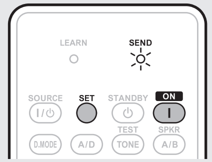
バックライトを点灯しないようにする

SEND 表示が 2 回点滅するまで、**SET** と **STANDBY** を同時に長押しする。



バックライトを点灯する

SEND 表示が 2 回点滅するまで、**SET** と **ON** を同時に長押しする。



Information

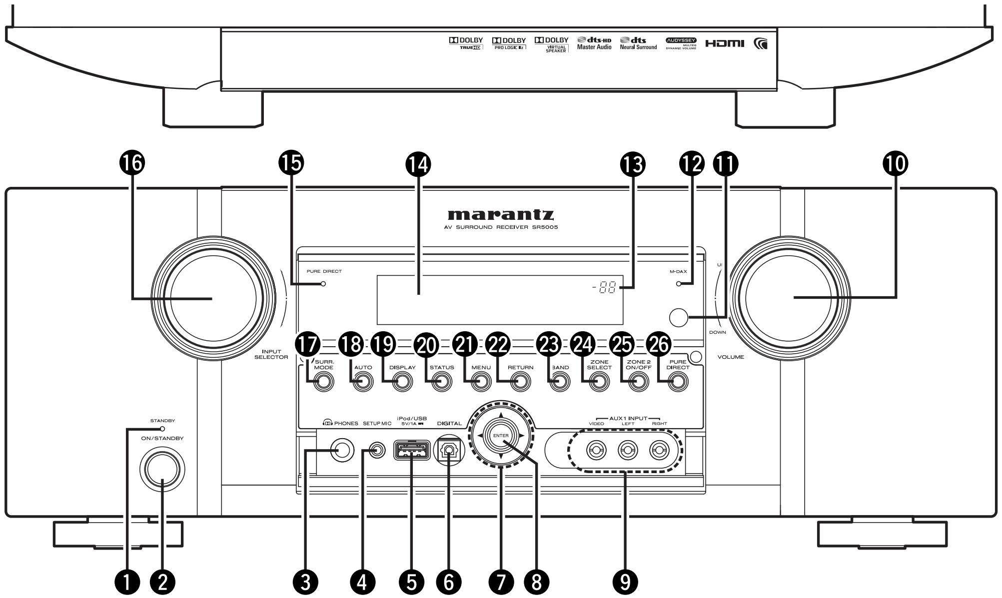
情報編

ここでは本機に関するさまざまな情報を記載しています。
必要に応じてご覧ください。

各部の名前

フロントパネル

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。



❶ 電源表示(STANDBY)……………………(15)

❷ 電源ボタン(ON/STANDBY)……………(10, 15)
本機の電源をオン / スタンバイに切り替えます。

❸ ヘッドホン端子(PHONES)
ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーおよびプリアウト端子から音が出なくなります。

ご注意

ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

❹ セットアップマイク端子
(SETUP MIC)……………………………(12, 39)

❺ iPod/USB端子……………………………(22)

❻ デジタル音声入力端子(DIGITAL)…………(23)

❼ カーソルボタン(△▽◁ ▷)……………(47 – 49)

❽ エンターボタン(ENTER)……………(47 – 49)

❾ AUX1入力端子(AUX1 INPUT)……………(23)

❿ 主音量調節つまみ(VOLUME)………………(26)

⓫ リモコン受光部……………………………(75)

⓬ M-DAX表示………………………………(57)

⓭ 主音量表示

⓮ ディスプレイ………………………………(72)

⓯ ピュアダイレクト表示 ……………………(33)

⓰ 入力ソース切り替えつまみ
(INPUT SELECTOR)…………………………(26)

⓱ サラウンドモードボタン
(SURROUND MODE) ………………………(31)

⓲ オートボタン(AUTO) ………………………(31)

⓳ ディスプレイボタン(DISPLAY)……………(63)

⓴ ステータスボタン
(STATUS)……………………………………(27, 64)

㉑ メニューボタン(MENU)……………………(46)

㉒ リターンボタン(RETURN)…………(47 – 49)

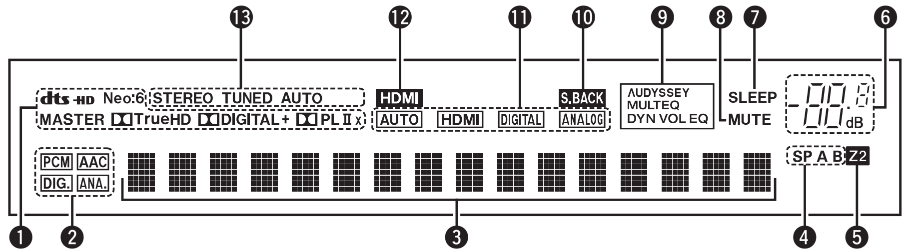
㉓ バンドボタン(BAND)………………………(29)

㉔ ゾーン切り替えボタン(ZONE SELECT)…(45)

㉕ ゾーン2用電源ボタン(ZONE2 ON/OFF)‥(45)

㉖ ピュアダイレクトボタン
(PURE DIRECT)………………………………(33)

ディスプレイ



❶ **デコーダー表示**
各デコーダーが動作しているときに点灯します。

❷ **入力信号表示**

❸ **インフォメーションディスプレイ**
入力ソース名、サラウンドモード、設定値などを表示します。

❹ **フロントスピーカー表示**
フロントスピーカーから音声を出力しているときに点灯します。

❺ **マルチゾーン表示**
ゾーン２(別の部屋)の電源が入っているときに点灯します(☞44 ページ)。

❻ **主音量表示**
音量レベルを表示します。
設定操作中は、メニュー番号を表示します。

❼ **スリープタイマー表示**
スリープタイマーを設定しているときに点灯します(☞43 ページ)。

❽ **ミュート表示**
ミューティング中に点灯します(☞26ページ)。

❾ **Audyssey表示**
"Dynamic EQ"(☞55 ページ)と"Dynamic Volume"(☞56ページ)の設定により、次のように点灯します。

AUDYSSEY MULTEQ DYN VOL	"Dynamic EQ"および"Dynamic Volume"の設定が"ON"のとき
AUDYSSEY MULTEQ DYN EQ	"Dynamic EQ"の設定が"ON"、"Dynamic Volume"の設定が"OFF"のとき
AUDYSSEY MULTEQ	"Dynamic EQ"および"Dynamic Volume"の設定が"OFF"のとき

❿ **サラウンドバック表示**
サラウンドバックスピーカーから音声を出力しているときに点灯します(☞59 ページ)。

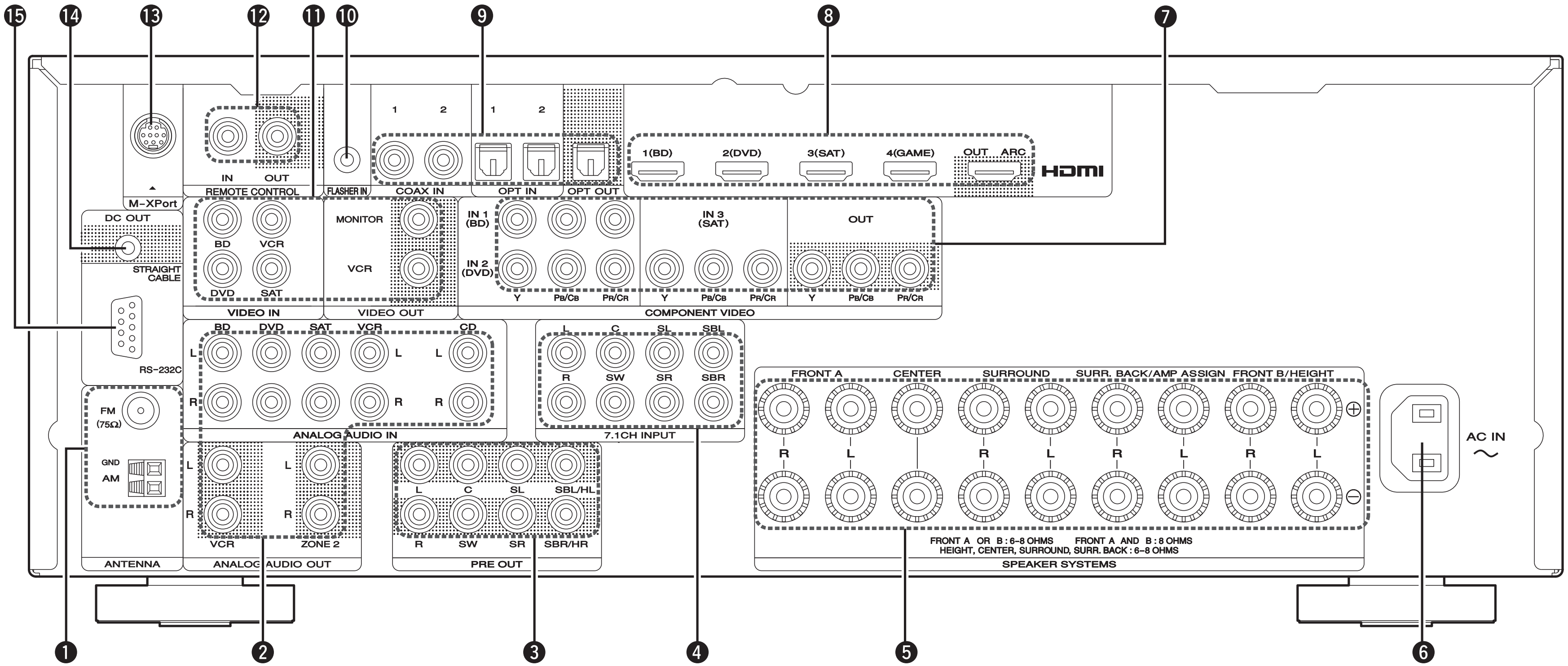
⓫ **入力モード表示**
各入力ソースの音声入力モードの設定により点灯します(☞52 ページ)。

⓬ **HDMI表示**
HDMI 接続で再生しているときに点灯します。

⓭ **チューナー受信モード表示**
入力ソースが"TUNER"のとき、放送局の受信状態により点灯します。
STEREO: FM モードで、ステレオ放送を受信したときに点灯します。
TUNED: 放送を受信したときに点灯します。
AUTO: オートチューニングモードのときに点灯します(☞29 ページ)。

リアパネル

詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。



❶FM/AMアンテナ端子(TUNER ANTENNA)……………(24)
❷アナログ音声端子……………………………………(20, 21, 23)
❸プリアウト端子(PRE OUT)…………………………(25)
❹7.1チャンネル入力端子(7.1CH INPUT)……………(25)
❺スピーカー端子(SPEAKERS) ………………………(36 - 38)
❻ACインレット(AC IN)…………………………………(9)
❼コンポーネントビデオ端子
(COMPONENT VIDEO) ………………………………(20, 21)
❽HDMI端子 ……………………………………………(19)
❾デジタル音声端子(OPTICAL/COAXIAL)……(20, 21, 23)

❿FLASHER IN端子
コントロール BOX やその他のコントロール機器を使って、本機をコントロールするときに使用します。

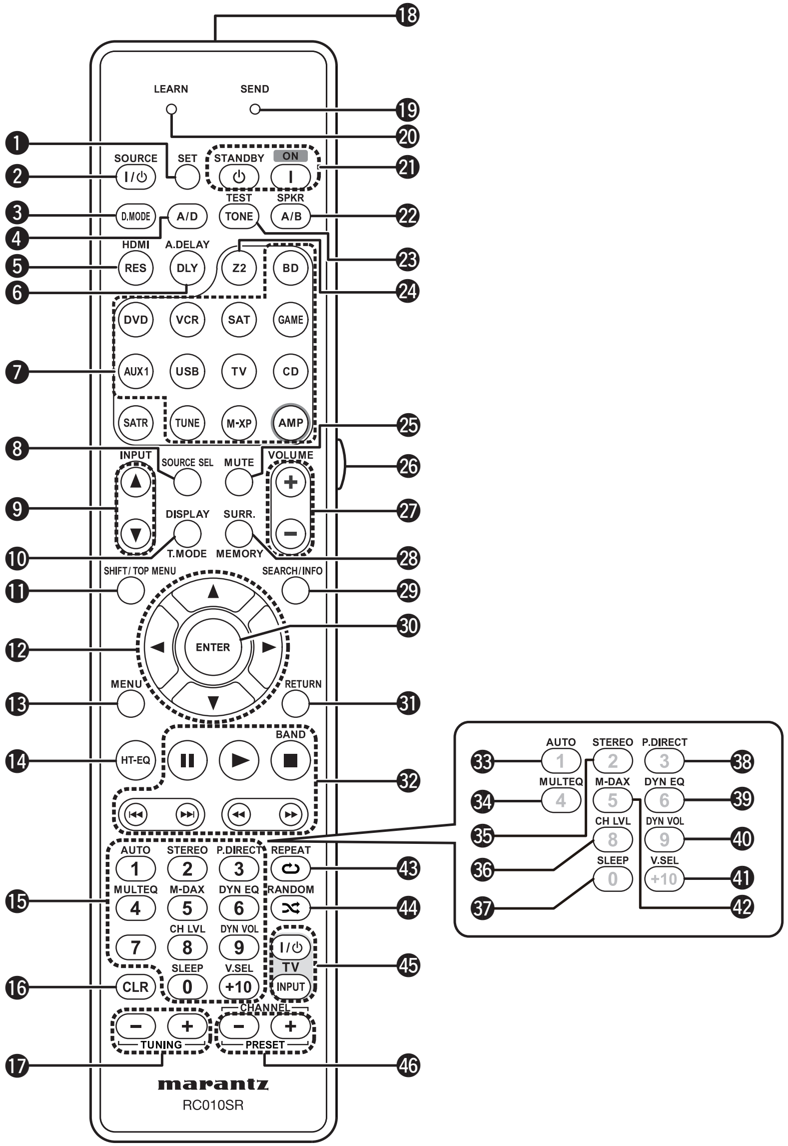
⓫ビデオ端子(VIDEO)…………………………………(20, 21)
⓬リモートコントロール端子(REMOTE CONTROL)…(40)
⓭M-XPort端子 ………………………………………(23, 40)
⓮トリガー出力端子(DC OUT) ………………………(41)
⓯RS-232C端子 ………………………………………(41)

ご注意

端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気を引き起こし、故障の原因になることがあります。

リモコン

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。



❶ セットボタン(SET)……………(67, 69, 70)

❷ ソース電源ボタン
(SOURCE)……………………………………(68)

❸ デコードモードボタン
(D.MODE)……………………………………(52)

❹ 入力モード切り替えボタン (A/D)……(52)

❺ レゾリューションボタン
(HDMI/RES)…………………………………(51)

❻ オーディオディレイボタン(DLY)……(57)

❼ 入力ソース選択ボタン ………………(26)

❽ ソース選択ボタン
(SOURCE SEL) ……………………………(26)

❾ 入力選択ボタン(INPUT) ………………(26)

❿ ディスプレイ/チューナーモードボタン
(DISPLAY/T.MODE)………………(29, 63)

⓫ シフト/トップメニューボタン
(SHIFT/TOP MENU) ………(29, 30, 48)

⓬ カーソルボタン(△▽◁ ▷)………(47 – 49)

⓭ メニューボタン(MENU)………………(46)

⓮ HT-EQボタン ……………………………(53)

⓯ 数字ボタン(0 〜 9, +10)…………(29, 67)

⓰ クリアーボタン(CLR)…………………(68)

⓱ チューニングボタン
(TUNING +, -)………………………………(29)

⓲ リモコン信号送信窓……………………(75)

⓳ SEND表示…………………………………(67)

⓴ LEARN表示 ………………………………(69)

㉑ 電源操作ボタン
(ON, STANDBY)……………………(10, 15)

㉒ スピーカーA/B切り替えボタン
(SPKR A/B) ………………………………(60)

㉓ テストトーンボタン(TEST TONE)‥(60)

㉔ ゾーン2ボタン(ZONE2)………………(45)

㉕ ミューティングボタン(MUTE)
……………………………………………(26, 45)

㉖ ライトボタン……………………………(70)

㉗ 主音量調節ボタン
(VOLUME +, -)……………………………(26)

㉘ サラウンドモード/メモリーボタン
(SURR./MEMORY) ………………………(31)

㉙ サーチ/インフォメーションボタン
(SEARCH/INFO) ……………(27 – 30, 48, 67)

㉚ エンターボタン(ENTER) ………(47 – 49)

㉛ リターンボタン(RETURN)……(47 – 49)

㉜ システムボタン……………………(28, 29, 68)
- ポーズボタン(❚❚)
- プレイボタン(▶)
- ストップボタン(■)
- スキップボタン(|◀◀, ▶▶|)
- サーチボタン(◀◀, ▶▶)
- FM/AM バンド切り替えボタン
(BAND)……………………………………(29)

㉝ オートボタン(AUTO)…………………(31)

㉞ MULTEQ®ボタン…………………………(61)

㉟ ステレオボタン(STEREO)……………(33)

㊱ チャンネルレベル調節ボタン
(CH LVL) …………………………………(43)

㊲ スリープタイマーボタン(SLEEP)……(43)

㊳ ピュアダイレクトボタン(P.DIRECT)‥(33)

㊴ Dynamic EQ®ボタン(DYN EQ)……(55)

㊵ Dynamic Volume®ボタン
(DYN VOL)…………………………………(56)

㊶ ビデオセレクトボタン(V.SEL)………(51)

㊷ M-DAXボタン ……………………………(57)

㊸ リピートボタン(REPEAT)…(28, 29, 52)

㊹ ランダムボタン(RANDOM)‥(28, 29, 52)

㊺ テレビ操作ボタン
(TV POWER/INPUT)………………………(68)

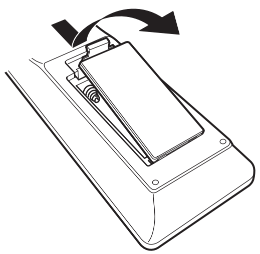
㊻ チャンネル/プリセットボタン
(CHANNEL/PRESET +, -)
………………………………………(29, 30, 68)

ご注意

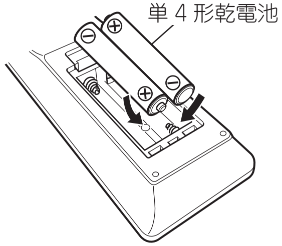
本機では **SATR** ボタンは使用しません。

乾電池の入れかた

① 裏ぶたを矢印の方向へ押し上げて取り外す。



② 乾電池(2本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



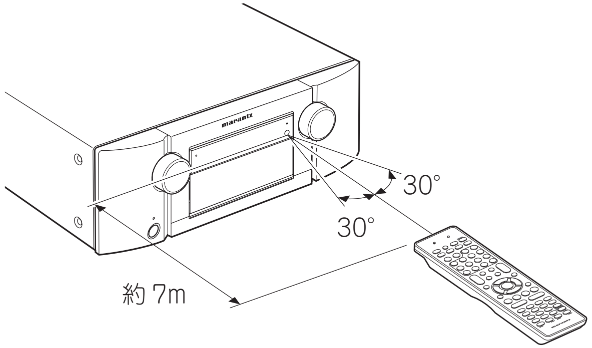
③ 裏ぶたを元通りにする。

ご注意

- リモコンには単 4 形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作しても本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。(付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。)
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示通りに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
  - 電池を直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところに置かないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例にしたがって処理をしてください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。



ご注意

リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。

- ❑ 登録商標について（☞76 ページ）
- ❑ サラウンド（☞77 ページ）
- ❑ 用語の解説（☞81 ページ）

登録商標について

本製品は、次の技術を採用しています。（順不同）

DOLBY TRUE HD PRO LOGIC IIz DOLBY PRO LOGIC IIz DOLBY VIRTUAL SPEAKER	ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
HDMI	HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LCC の商標または登録商標です。
dts-HD Master Audio	本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。米国特許第 5,451,942 号、5,956,674 号、5,974,380 号、5,978,762 号、6,226,616 号、6,487,535 号、7,212,872 号、7,333,929 号、7,392,195 号、7,272,567 号その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS のロゴ、シンボル、DTSHD および DTS-HDMaster Audio は、DTS, Inc. の商標です。DTS, Inc.©1996-2008 DTS, Inc. 版権所有。
dts™ Neural Surround	DTS Neural Surround は楽器やボーカル、残響などマスキングされてしまいがちな音のディティールを再現し、今までの CD やデジタルメディアプレーヤーなどの通常のステレオ信号やサラウンド処理された信号では得ることのできなかった素晴らしい体験をリスナーに届けます。DTS Neural Surround はサラウンドをさらなる高いレベルに引き上げる技術です。 DTS Manufactured under license from DTS Licensing Limited. DTS is a registered trademark & the DTS Logos and Symbol are trademarks of DTS, Inc. © 1996-2008 DTS, Inc. All Rights Reserved.
AUDYSSEY MULTEQ DYNAMIC VOLUME	本機は、Audyssey Laboratories™ からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ®、Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® は、Audyssey Laboratories の商標です。
Made for iPod iPhone	"Made for iPod," and" Made for iPhone," mean that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod, or iPhone, respectively, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with iPod or iPhone may affect wireless performance. iPhone, iPod, iPod classic, iPod nano, iPod shuffle, and iPod touch are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries. • iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod shuffle および iPod touch は、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
	MPEG-2 AAC（Advanced Audio Coding）は、MPEG（Moving Picture Experts Group）により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。 MPEG-2 AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

【米国におけるパテントナンバー】

08/937,950	5,481,614
5848391	5,592,584
5,291,557	5,781,888
5,451,954	08/039,478
5 400 433	08/211,547
5,222,189	5,703,999
5,357,594	08/557,046
5 752 225	08/894,844
5,394,473	5,299,238
5,583,962	5,299,239
5,274,740	5,299,240
5,633,981	5,197,087
5 297 236	5,490,170
4,914,701	5,264,846
5,235,671	5,268,685
07/640,550	5,375,189
5,579,430	5,581,654
08/678,666	05-183,988
98/03037	5,548,574
97/02875	08/506,729
97/02874	08/576,495
98/03036	5,717,821
5,227,788	08/392,756
5,285,498	

サラウンド

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

サラウンドモードとパラメーター一覧表

この表は、各サラウンドモードのときに再生できるスピーカーと、各サラウンドモードのときに調節できるサラウンドパラメーターを示したものです。

表の中の記号について

○ 音声を出力するチャンネル、または設定できるサラウンドパラメーターを示します。
◎ 音声を出力するチャンネルを示します。ただし、"Speaker Config."（☞58ページ）の設定により出力するチャンネルが異なります。

サラウンドモード（☞31 ページ）	チャンネル出力						Surround Parameter (☞page 53)			
	フロント 左 / 右	センター	サラウンド 左 / 右	サラウンドバック 左 / 右	フロントハイト 左 / 右	サブウーハー	HT-EQ. ＊3 (☞53ページ)	DRC ＊4 (☞53ページ)	D. Comp ＊5 (☞53ページ)	LFE ＊6 (☞53ページ)
PURE DIRECT (2 channel)										
PURE DIRECT (Multi-channel)										
DIRECT（2 チャンネル）	○					◎＊2		○	○	
DIRECT（マルチチャンネル）	○	◎	◎	◎＊1	◎＊1	◎		○	○	○
STEREO	○					◎		○	○	○
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	◎	◎	○			○
DOLBY PRO LOGIC IIz	○	◎	◎		◎	◎	○	○	○	
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	◎	◎	◎		◎	○	○	○	
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎			◎	○	○	○	
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎		◎	○	○	○	
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎	◎	○		○	○
MPEG2 AAC	○	◎	◎	◎	◎	◎	○			○
DOLBY DIGITAL Plus	○	◎	◎	◎	◎	◎	○		○	○
DOLBY TrueHD	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○		○
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎	◎	○		○	○
DTS 96/24	○	◎	◎	◎	◎	◎	○		○	○
DTS-HD	○	◎	◎	◎	◎	◎	○		○	○
DTS Express	○	◎	◎	◎	◎	◎	○		○	○
MULTI CH STEREO	○	◎	◎	◎		◎			○	○
DOLBY VIRTUAL SPEAKR	○					◎＊2			○	○
Neural	○	◎	◎	◎		◎	○			
Dolby Headphone	○									

＊1　各チャンネルの入力信号が含まれる場合に音声を出力します。
＊2　メニューの"Subwoofer Mode"設定（☞59 ページ）が"LFE+Main"のときのみ、サブウーハーから音声を出力します。
＊3　入力信号のサンプリング周波数が 96kHz を超過する HD Audio の場合、このサラウンドパラメーターを設定できません。
＊4　この項目は、Dolby TrueHD 信号を再生時に選択できます。
＊5　この項目は、Dolby Digital および DTS 信号を再生時に選択できます。
＊6　この項目は、Dolby Digital、DTS および DVD オーディオを再生時に選択できます。

サラウンドモード（☞31 ページ）	Surround Parameter (☞53 ページ)					Tone ＊7 (☞54ページ)	Audyssey Settings＊11 (☞55 ページ)			M-DAX ＊10 (☞57ページ)
	Height Gain (☞54ページ)	Panorama (☞54ページ)	Dimension (☞54ページ)	Center Width (☞54ページ)	Center Image (☞53ページ)		MultEQ® (☞55ページ)	Dynamic EQ®＊8 (☞55ページ)	Dynamic Volume® ＊9 (☞56ページ)	
PURE DIRECT (2 channel)										
PURE DIRECT (Multi-channel)										
DIRECT (2 channel)										
DIRECT (Multi-channel)										
STEREO						○	○	○	○	○
MULTI CH IN						○	○	○	○	
DOLBY PRO LOGIC IIz	○					○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC IIx		○	○	○		○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC II		○	○	○		○	○	○	○	○
DTS NEO:6					○	○	○	○	○	○
DOLBY DIGITAL						○	○	○	○	
MPEG2 AAC	○					○	○	○	○	
DOLBY DIGITAL Plus						○	○	○	○	
DOLBY TrueHD						○	○	○	○	
DTS SURROUND						○	○	○	○	
DTS 96/24						○	○	○	○	
DTS-HD						○	○	○	○	
DTS Express						○	○	○	○	
MULTI CH STEREO						○	○	○	○	○
DOLBY VIRTUAL SPEAKER						○	○	○	○	○
Neural						○	○	○	○	○
Dolby Headphone						○				○

＊7　メニューの“Dynamic EQ”設定(☞55 ページ)が“ON”のとき、この項目を設定できません。
＊8　メニューの“MultEQ”設定(☞55 ページ)が“OFF”または“Manual”のとき、この項目を設定できません。
＊9　メニューの“Dynamic EQ”設定(☞55 ページ)が“OFF”のとき、この項目を設定できません。
＊10　この項目は、入力信号がアナログ、PCM 48kHz または 44.1kHz のときに設定できます。
＊11　入力信号のサンプリング周波数が 96kHz を超過する HD Audio の場合、このサラウンドパラメーターを設定できません。

❏入力信号の種類と対応するサラウンドモード

この表は、各サラウンドモードのときに再生できる入力信号を示したものです。入力するソースの音声信号をご確認のうえ、サラウンドモードを選んでください。

表の中の記号について

○ 選択できるサラウンドモードを示します。

サラウンドモード（☞31 ページ）	注	Input signal types and formats																	
			PCM		DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL				MPEG-2 AAC	
		ANALOG	LINEAR PCM（マルチチャンネル）)	LINEAR PCM（2ch）	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC（マルチチャンネル）	AAC（2ch）
DTS SURROUND																			
DTS-HD MSTR					○														
DTS-HD HI RES						○													
DTS ES DSCRT6.1	＊1＊4							○											
DTS ES MTRX6.1	＊1＊4								○										
DTS SURROUND								○	○	○									
DTS 96/24											○								
DTS (–HD) + PLⅡx MOVIE	＊2＊4				○	○	○	○	○	○	○								
DTS (–HD) + PLⅡx MUSIC	＊1＊4				○	○	○	○	○	○	○								
DTS (–HD) + PLⅡz	＊3				○	○	○	○	○	○	○								
DTS EXPRESS							○												
DTS (–HD) + NEO:6	＊1＊4				○	○	○		○	○	○								
DTS NEO:6 CINEMA		○		○													○		○
DTS NEO:6 MUSIC		○		○													○		○
DOLBY SURROUND																			
DOLBY TrueHD												○							
DOLBY DIGITAL+													○						
DOLBY DIGITAL EX	＊1＊4													○	○	○			
DOLBY (D+) (HD) +EX	＊1＊4											○	○						
DOLBY DIGITAL														○	○	○			
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLⅡx MOVIE	＊2＊4											○	○	○	○	○			
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLⅡx MUSIC	＊1＊4											○	○	○	○	○			
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLⅡz	＊4											○	○	○	○	○			
DOLBY PRO LOGIC Ⅱx MOVIE	＊1＊4	○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC Ⅱx MUSIC	＊1＊4	○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC Ⅱx GAME	＊1＊4	○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC Ⅱz	＊3	○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ MOVIE		○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ MUSIC		○		○													○		○
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ GAME		○		○													○		○

＊1 メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞59 ページ）が“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊2 メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞59 ページ）が“1sp”または“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊3 メニューの“Speaker Config.”⇨“Front Height”設定（☞59 ページ）が“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊4 このサラウンドモードはメニューの“Amp Assign”（☞59 ページ）が“Normal”のときに選択できます。

サラウンドモード（☞31 ページ）	注	Input signal types and formats																	
			PCM		DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL				MPEG-2 AAC	
		ANALOG	LINEAR PCM（マルチチャンネル）	LINEAR PCM (2ch)	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC（マルチチャンネル）	AAC（2ch）
MULTI CH IN																			
MULTI CH IN			○																
MULTI CH IN + PLⅡx MOVIE	＊2＊4		○																
MULTI CH IN + PLⅡx MUSIC	＊1＊4		○																
MULTI CH IN + PLⅡz	＊3		○																
MULTI CH IN + Dolby EX	＊1＊4		○																
MULTI CH IN 7.1	＊1＊4		○																
DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MULTI CH STEREO		○	○	○				○	○	○	○			○	○	○	○	○	○
DOLBY VIRTUAL SPEAKER		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
NEURAL		○		○															○
DOLBY HEADPHONE		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

＊1　メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞59 ページ）が“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊2　メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞59 ページ）が“1sp”または“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊3　メニューの“Speaker Config.”⇨“Front Height”設定（☞59 ページ）が“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊4　このサラウンドモードはメニューの“Amp Assign”（☞59 ページ）が“Normal”のときに選択できます。

用語の解説

A

A2DP 規格
A2DP は、ケーブルの代わりに無線通信を使用する Bluetooth の車載機器向けや AV 機器向けに定められたプロファイルの 1 つです。

Adobe RGB color / Adobe YCC601 color
x.v.Color と同様、これらのカラースペースは従来の RGB よりも広い色空間を定義します。

Audyssey Dynamic EQ®
Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ® 技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume®
Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調整する技術です。
また、Dynamic Volume は、Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調節時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

Audyssey MultEQ®
Audyssey MultEQ は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。
MultEQ は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

Auto Lip Sync
Auto Lip Sync 機能対応のテレビと接続すると、映像と音声のずれを自動的に補正します。

B

Bluetooth
携帯情報機器などで数 m 程度の機器間接続に使われる短距離無線通信技術の一つです。ノートパソコンや PDA、携帯電話などをケーブルを使わずに接続し、音声やデータをやりとりすることができます。

D

Deep Color
従来の 8 ビットの色数を超える色調表現が可能な技術で、色縞のない、より自然に近い色を再現することができます。

Dolby Digital
Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル（FL、FR、C）とサラウンド 2 チャンネル（SL、SR）、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。
このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital EX
Dolby Digital EX は、ドルビー研究所とルーカスフィルム社が共同で開発した音響フォーマット“DOLBY DIGITAL SURROUND EX”を、家庭で楽しむためにドルビー研究所が提案した 6.1 チャンネルのサラウンドフォーマットです。
サラウンドバックチャンネルを含めた 6.1 チャンネルでの音場再生により、空間表現力、定位感が向上します。

Dolby Digital Plus
Dolby Digital Plus は、Dolby Digital を改良した信号フォーマットで、最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来の Dolby Digital に対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby Headphone
ドルビーラボラトリーズと豪州レイクテクノロジー社との共同開発による立体音響技術で、サラウンド音場を通常のヘッドホンで再生できる技術です。
部屋でのスピーカー再生をシュミレートしたドルビーヘッドホンは音源が前方あるいは側面にしっかり頭外定位するため、まるで映画館かホームシアターにいるような迫力のあるサウンドを聞くことが可能です。

Dolby TrueHD
Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。
このフォーマットはサンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルの音声に対応しており、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

Dolby Pro Logic Ⅱ
Dolby Pro Logic Ⅱ は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。
CD のような通常の音楽は 5 チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。
サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化（周波数特性 20Hz～20kHz 以上）し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

Dolby Pro Logic Ⅱx
Dolby Pro Logic Ⅱx は、Dolby Pro Logic Ⅱ をさらに改良したマトリクスデコード技術です。
2 チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大 7.1 チャンネルの音声を再生できます。
音楽再生に適した“Music”モードと映画再生に適した“Movie”モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な“Game”モードがあります。

Dolby Pro Logic Ⅱz
Dolby Pro Logic Ⅱz は、ソースに収録されている高いところで鳴っている「空間的な手がかり」を持った音響成分から、フロント・ハイトチャンネル信号を生成し出力するデコード技術です。2 チャンネルソースや 7.1/5.1 マルチチャンネルソースなどのあらゆるソースに対応します。
リスニング空間の前方上の左右にハイトスピーカーを加えることで、映画 / 音楽 / ゲームなどの再生により一層の空間の広がり感や奥行き感をお楽しみいただけます。
フロントハイトスピーカーは本棚などに設置できますので、サラウンドバックスピーカーのようにフロアスペースを使わずに、より簡単に理想的なサラウンド環境をつくることができます。

Dolby Virtual Speaker
ドルビーバーチャルスピーカーはドルビーラボラトリーズにより承認された技術であり、マルチチャンネルドルビーデジタルソースを 2 本のスピーカーから出力し、バーチャル化されたサラウンド音声体験を作り出します。さらにドルビーバーチャルスピーカーはドルビープロロジックやドルビープロロジック Ⅱ により作り出されたサラウンド音響効果をシミュレートします。ドルビーバーチャルスピーカーは元のマルチチャンネルオーディオ情報をすべて保持してリスナーにスピーカーに囲まれているかのような感覚を提供します。

DTS
Digital Theater System の略で、DTS 社が開発した、デジタル音声システムです。DTS 対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS 96/24
DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/ 量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1 チャンネルとなります。

DTS Digital Surround
DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1 チャンネルのデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS-ES™ Discrete 6.1
DTS-ES™ Discrete 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えて SB チャンネルを追加した 6.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1
DTS-ES™ Matrix 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に SB チャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1 チャンネル音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS Express
DTS Express は、最大 5.1 チャンネルの 24kbps ～ 256kbps までのロービットレートをサポートする音声フォーマットです。

DTS-HD
ブルーレイディスクのオプション音声として採用された、従来の DTS をさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数や、ロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイディスクでは、最大 7.1 チャンネルまで対応しています。

DTS-HD High Resolution Audio
DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声に対応しています。余裕あるデータビットレートによって高音質化を図るとともに、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-HD Master Audio
DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットで、サンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルに対応しています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS Neural Surround
Neural Surround は音楽再生のために開発された最新のサラウンド技術です。音響心理学に基づいた周波数領域処理をおこなうことにより、優れたチャンネルセパレーションと定位を実現し、より精細なサウンドステージを再現します。

DTS NEO:6™ Surround
DTS NEO:6™ は、2 チャンネルソースを 6.1 チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した“DTSNEO:6 Cinema”と、音楽再生に適した“DTS NEO:6 Music”があります。

H

HDCP
機器間でデジタル信号を送受信する際に、信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の一つです。

HDMI
High-Definition Multimedia Interface の略で、テレビやアンプなどと接続できる AV 用のデジタルインターフェースです。映像信号と音声信号を 1 本のケーブルで接続できます。

L

LFE
Low Frequency Effect の略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz～120Hz の重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

M

MP3 (MPEG Audio Layer-3)
音声データ圧縮方式のひとつで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できます。

MPEG (Moving Picture Experts Group)、MPEG-2、MPEG-4
デジタル圧縮形式として映像や音声を符号化するために使用される規格群の名前です。動画の規格には、「MPEG-1 Video」、「MPEG-2 Video」、「MPEG-4 Visual」、「MPEG-4 AVC」などがあります。音声の規格には、「MPEG-1 Audio」、「MPEG-2 Audio」、「MPEG-4 AAC」などがあります。

MPEG-2 AAC
MPEG-2 AAC（Advanced Audio Coding）は、MPEG（Moving Picture Experts Group）により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。
高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。MPEG-2 AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

S

sYCC601 color
x.v.Color と同様、このカラースペースは従来の RGB よりも広い色空間を定義します。

W

WAV(Wave)
Windows 標準の音声フォーマットです。ファイルサイズは大きくなる傾向がありますが、原音に近い音声を保持できます。

WMA (Windows Media Audio)
米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。
WMA データは、Windows Media® Player Ver.7、7.1、Windows Media® Player for Windows® XP、または Windows Media® Player 9 Series を使用してエンコード（符号化）することができます。
WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正常に動作しないことがあります。

X

x.v.Color
色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。
“x.v.Color”はソニーの登録商標です。

さ行

サンプリング周波数
サンプリングとは、音の波（アナログ信号）を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化（デジタル信号化）することです。
1 秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

スピーカーインピーダンス
交流抵抗値のことでΩ（オーム）という単位であらわします。この値が小さいほど大きな電力が得られます。

た行

ダイナミックレンジ
機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンミックス
サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

は行

プログレッシブ（順次走査）
映像の 1 フレームを 1 つの画像として表示する映像信号の走査方式です。インターレース方式に比べ画像のちらつきやにじみが少ない映像を再生できます。

保護回路
何らかの原因で過負荷や過電圧などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。
本機では、異常発生時には電源表示が点滅し、スタンバイ状態になります。

ま行

メインゾーン
本機が設置されている部屋をメインゾーンと呼びます。

故障かな？と思ったら

- ❑ 各接続は正しいですか
- ❑ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
- ❑ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【共通】

症　状	原　因／対　策	関連ページ
電源が入らない。 または、入れてもすぐに切れる。	• コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。 • 保護回路が働いています。このような場合、一度電源プラグをコンセントから抜き、5～10 秒後に再びコンセントに差し込んでください。	9 8、83
ディスプレイの表示が消える。	• メニューの“Display”設定を“OFF”以外の設定にしてください。	63
本機を使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。 • 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	– –
本機を使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 指定されたインピーダンスのスピーカーを使用してください。 • スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいています。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどした後で、接続し直してください。	8 8
電源を入れても、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 本機のアンプ回路が故障しています。電源を切り、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	–
本機が正常に動作しない。	• マイコンを初期化してください。	86

【映像】

症　状	原　因／対　策	関連ページ
映像が映らない。	• 本機の映像出力端子とテレビの入力端子の接続を確認してください。 • 本機に接続したテレビの入力端子と入力設定を合わせてください。	9 10
OSD が表示されない。またはノイズが出る。	• お使いのテレビや接続方法に合わせて、OSD の出力モードを設定してください。	65

【音声】

症　状	原　因／対　策	関連ページ
音が出ない。	• すべての機器の接続を確認してください。 • スピーカーの接続を確認してください。 • 音声の接続をしている機器の電源が入っているか確認してください。 • 主音量を適切な大きさに調節してください。 • ミューティング（消音）モードを解除してください。 • 再生機器との接続を確認し、適切な入力ソースを選んでください。 • デジタル入力端子を割り当てた端子と入力モードを合わせてください。 • 本機の PHONES 端子からヘッドホンのプラグを取り外してください。ヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカーやプリアウト端子から音が出なくなります。	8、18～25 8、35～38 – 26 26 26 52 72
サラウンドスピーカーから音が出ない。	• SURROUND 端子にサラウンドスピーカーを接続しているか確認してください。	–
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	• メニューの“Amp Assign”設定が“Normal”になっているか確認してください。 • メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定が“None”以外になっているか確認してください。 • サラウンドモードが“STEREO”以外になっているか確認してください。	58 59 31
フロントハイトスピーカーから音が出ない。	• メニューの“Amp Assign”設定が“Normal”になっているか確認してください。 • メニューの“Speaker Config.”⇨“Surround”設定が“None”以外になっているか確認してください。	58 59
サブウーハーから音が出ない。	• サブウーハーの接続を確認してください。 • サブウーハーの電源を入れてください。 • メニューの“Speaker Config.”⇨“Subwoofer”を“Yes”に設定してください。 • メニューの“Speaker Config.”の“Front.”、“Center”の設定が“Large”で、なおかつ“Subwoofer Mode”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサラウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。	8、36 – 38 10 58 58、59
DTS 音声が出力されない。	• メニューの“Decode Mode”を“Auto”または“DTS”にしてください。	52
Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声が出力されない。	• HDMI で接続してください。	18

【HDMI】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
HDMI で接続したときに、音声が出力されない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。 • HDMI の音声信号をスピーカーから出力するときは、メニューの"HDMI Audio Out"の設定を"Amp"に設定してください。 • HDMI の音声信号をテレビから出力するときは、メニューの"HDMI Audio Out"の設定を"TV"に設定してください。	18 61 61
HDMI で接続したときに、映像が映らない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。 • 接続した HDMI 端子に合わせて、入力ソースを設定してください。 • テレビが著作権保護（HDCP）に対応しているか確認してください。HDCP に対応していない機器を接続した場合、映像が正しく出力されません。	18 18、26 18
HDMI コントロール対応機器に次の操作をすると、本機も同じ動作をする。 • 電源のオン / オフ • 音声を出力する機器の切り替え • 音量の調節 • 入力ソースの切り替え	• メニューの"HDMI Control"を"OFF"に設定してください。各機器の電源のオン / オフのみ操作したい場合は、メニューの"Power Off Control"を"OFF"に設定してください。	42、61

【FM/AM チューナー】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
受信できない。または、雑音や歪みが多い。	• アンテナの向きや位置を変えてください。 • 本機から AM ループアンテナを離してください。 • FM 屋外アンテナを使用してください。 • アンテナと他の接続ケーブルを離してください。	24 24 24 24

【iPod】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
iPod が再生できない。	• iPod の接続を確認してください。 • 入力ソースを"USB"に切り替えてください。 • USB 端子に iPod を直接接続して使用する場合、対応していない iPod があります。	22 27 22
ディスプレイに"Connection Error"が表示される。	• 正常に通信できません。本機の電源を切ってから iPod を外し、再度接続してください。 • iPod からの応答がありません。本機の電源を切ってから iPod を外し、再度接続してください。	– –
ディスプレイに"Not Support"が表示される。	• 本機が対応していない iPod を接続しています。対応している iPod か確認してください。 • バージョンが古い iPod を接続しています。最新のバージョンにアップデートしてください。	22 –

【USB メモリー】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
USB メモリーを接続したとき、メニュー画面に"USB"が表示されない。	• 接続不良などで、本機が USB メモリーを認識できない場合があります。接続を確認してください。 • 本機は、マスストレージクラス対応の USB メモリーに対応しています。それ以外の USB メモリーは認識できません。 • USB ハブを経由した接続はできません。	22 – 22
USB メモリーのファイルを再生できない。	• USB メモリーのフォーマットを FAT16 または FAT32 に設定してください。詳しくは、USB メモリーの取扱説明書をご覧ください。 • USB デバイス内が複数のパーティションに別れている場合は、第 1 パーティション以外は再生できません。 • ファイルが対応しているフォーマット以外で記録されています。対応しているフォーマットで記録してください。 • 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。	– – – –
ファイル名が"．．．"など、正しく表示されない。	• 本機で表示できない文字は、"．（ピリオド）"に置き換えて表示します。	27
音質が良くない。または再生中にノイズが入る。	• 再生しているファイルのビットレートが低いです。	–
ディスプレイに"Connection Error"が表示される。	• 正常に通信できません。本機の電源を切ってから USB メモリーを外し、再度接続してください。 • USB メモリーからの応答がありません。本機の電源を切ってから USB メモリーを外し、再度接続してください。	– –
ディスプレイに"Overcurrent"が表示される。	• USB メモリーの消費電力が大きすぎます。AC アダプターを接続して電源を供給できる USB ポータブルハードディスクを使用する場合は、AC アダプターを接続してください。	–

【M-XPort】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
ワイヤレスレシーバー（RX101）を接続時、音声が出力されない。	• Bluetooth 機器とワイヤレスレシーバー（RX101）の間で、正しくペアリングされているか確認してください。	–

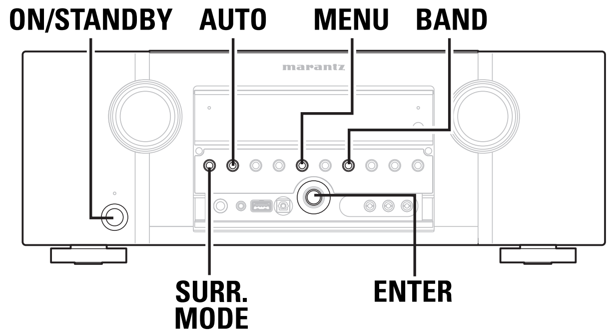
【 リモコン 】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
リモコンを操作しても、正しく動作しない。	• 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。 • リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。 • 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。 • 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。 • 本機のリモコン受光部に強い光（直射日光、インバーター式蛍光灯の光など）が当たっています。受光部に強い光が当たらない場所に設置してください。	75 75 75 75 75

マイコンの初期化

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種ボタンの設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。
本機は各種設定内容の保存と、保存した内容の再設定ができます。初期化の前に設定内容を保存しておくと、初期化した後も設定の内容を初期化前の状態に戻すことができます。

すべての設定を初期化するときは、手順 1 をおこなわずに手順 2 から 4 をおこなってください。



1 **電源がオンのとき、BAND と ENTER を 3 秒以上続けて押す。**
ディスプレイに“MEMORY SAVING”を表示したあと、“COMPLETE”を表示し、設定の保存を完了します。

2 **ON/STANDBY を押して、電源を切る。**

3 **SURR.MODE と AUTO を同時に押しながら、ON/STANDBY を押す。**

4 **ディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅したら、2 つのボタンから指を離す。**

5 **MENU と BAND を 3 秒以上続けて押す。**
ディスプレイに“MEMORY LOAD”を表示したあと、“COMPLETE”を表示し、手順 1 で保存した設定が復帰したことをあらわします。

手順 4 でディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅しない場合は、手順 2 からやり直してください。

保障と修理について

❏保証書について

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

❏修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

❏依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名 ……… 取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号 … 保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

❏補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後８年です。

❏お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様（仕様・外観寸法図）

❑ オーディオ部

- **パワーアンプ部**

定格出力：
フロント：
100W+100W（負荷 8 Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.08%）
センター：
100W（負荷 8 Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.08%）
サラウンド：
100W+100W（負荷 8 Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.08%）
サラウンドバック：
100W+100W（負荷 8 Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.08%）

実用最大出力：
フロント：
180W+180W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA）
センター：
180W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA）
サラウンド：
180W+180W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA）
サラウンドバック
180W+180W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA）

出力端子： 6～8 Ω

- **アナログ部**

入力感度 / 入力インピーダンス： 165mV/50k Ω
周波数特性： 10Hz～100kHz — ± 3dB（DIRECT モード時）
S/N 比： 98dB（DIRECT モード時）

❑ ビデオ部

- **標準ビデオ端子**

入出力レベル / インピーダンス： 1Vp-p、75 Ω
周波数特性： 5Hz～10MHz — +1、-3dB

- **コンポーネントビデオ端子**

入出力レベル / インピーダンス：
Y（輝度）信号：1Vp-p/75 Ω
PB/CB（青色）信号：0.7Vp-p/75 Ω
PR/CR（赤色）信号：0.7Vp-p/75 Ω
5Hz ～ 60MHz：＋ 0、-3dB

❑ チューナー部

- **FM 部**

受信周波数範囲： 76.0MHz～90.0MHz
アンテナ端子： 75 Ω
実用感度 1.2 μ V/75 Ω（12.8dBf）
S/N 比： ステレオ：67dB
モ　ノ：72dB
ひずみ率 ステレオ：0.7%（90% 変調時）
モ　ノ：0.3%（100% 変調時）

- **AM 部**

受信周波数範囲 522kHz～1629kHz
アンテナ ループアンテナ（付属）
実用感度 18 μ V

❑ 総合

電源： AC 100V、50/60Hz
消費電力： 650W（電気用品安全法による）
0.2W（スタンバイ時）
3 W（CEC スタンバイ）
最大外形寸法： 440（幅）× 161（高さ）× 389（奥行き）mm
質量： 11.6kg

❑ リモコン（RC010SR）

乾電池： R03（単 4 形）乾電池 2 本使用

＊ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

- 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
- 本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。
- 本機は国内仕様です。
必ず AC 100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC 100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

索引

プリセットコード表

Device select : BD

Blu-ray Disc Player

D	Denon	5034, 5035, 5036
H	Hitachi	5031, 5032, 5033
I	Integra	5013
J	JWC	5014, 5015, 5017, 5018, 5019, 5020
L	LG	5010, 5011
M	Marantz	5000, 5026, 5027
	Mitsubishi	5024, 5025
O	Onkyo	5013
P	Panasonic	5001, 5002, 5003
	Philips	5004
	Pioneer	5005
R	RCA	5012
S	Samsung	5005
	Sharp	5028, 5029, 5030
	Sony	5007, 5008, 5009, 5016
T	Toshiba	5012
Y	Yamaha	5021, 5022, 5023

Device select : DVD

DVD Player

A	Aiwa	2036, 2037
	Apex	2012, 2017, 2018, 2019, 2021, 2034
B	BOSE	2038, 2039, 2063
D	Denon	2047, 2048
F	Funai	2049
G	GE	2009, 2020, 2029, 2033
H	Harman Kardon	2061
	Hitachi	2008, 2012, 2031
J	JVC	2006, 2010, 2040, 2041, 2042, 2043
K	Kenwood	2053, 2054
	Koss	2058
M	Magnavox	2007, 2011, 2023, 2025
	Marantz	2025, 2065
	Marantz (Blu-ray)	2064
	Mitsubishi	2011, 0215
O	Onkyo	2062
	Oritron	2009, 2030
P	Panasonic	2003, 2015, 2016, 2055
	Philips	2007, 2011, 2058
	Pioneer	2002, 2014, 2056
	Proscan	2009, 2020, 2032
R	RCA	2005, 2009, 2020, 2035, 2057
S	Sampo	2041
	Samsung	2008, 2012, 2022, 2024, 2027
	Sanyo	2050, 2052
	Sharp	2044, 2045
	Sherwood	2051
	Sony	2001, 2013, 2059
T	Toshiba	2004, 2008, 2026, 2028
Y	Yamaha	2046, 2060
Z	Zenith	2010

Device select : SAT

Satellite Receiver

A	Alphastar	4027
	Amstrad	4046, 4047, 4050
	Atsky	4048
B	B Sky B	4021, 4045, 4046
C	Chaparral	4039
D	DIRECTV	4001, 4016, 4044
	DISH Network	4030
	Drake	4026
E	Echostar	4007, 4017, 4018, 4019, 4020, 4062, 4063, 4064
	Eurosky	4047, 4056
	Express Vu	4017
F	Foxtel	4051
	Freesat	4056
	Fujitsu	4025
G	GE	4002, 4008, 4009
	General Instruments	4036, 4037
	Gradiente	4044, 4057
H	Hitachi	4001, 4015
	Hughes	4001, 4016
	Humax	4049, 4050, 4051, 4052, 4053
J	Janeil	4025
	JVC	4017
M	Mitsubishi	4001
N	Nokia	4058, 4059, 4060, 4061
O	Optima	4048
P	Panasonic	4004, 4010
	Philips	4031, 4035, 4044, 4057
	Proscan	4002, 4008, 4009, 4011
R	Radio Shack	4036, 4037
	RCA	4002, 4008, 4009, 4029
	Realistic	4040
	Rural Cable	4036
S	Samsung	4022, 4027, 4042, 4043, 4050, 4054, 4055
	Schneider	4041, 4043
	SKY	4044, 4045, 4057
	Skyplus	4048
	Skysat	4041, 4047, 4056
	Sony	4003, 4012, 4014, 4065, 4066, 4067
	Star Choice	4032
	Star Trak	4024
	STS	4038
	SuperDish	4028
T	Teac	4049
	Thomson	4046, 4056
	Toshiba	4001, 4034
U	Uniden	4005, 4006, 4013
	Universum	4056
V	Video Pall	4025
Z	Zenith	4023, 4025, 4033

Device select : TV

Television

A	Acer	1141
	Admiral	1002, 1009, 1089
	Aiko	1059
	Aiwa	1117, 1118
	Akai	1001
	Amtron	1023
	Anam	1113
	Anam National	1023, 1069, 1092
	AOC	1003, 1024, 1049, 1127
	Audiovox	1023
B	Bell & Howell	1009, 1025
	Benq	1104, 1142
	Broksonic	1003, 1097, 1098, 1113
C	Celebrity	1001
	Citizen	1003, 1013, 1023, 1026, 1059, 1063
	Colortyme	1003, 1043
	Contec	1113
	Contec/Cony	1023, 1045, 1047
	Craig	1020, 1022, 1023, 1113
	Crown	1023, 1067
	Curtis Mathes	1003, 1013, 1025, 1026, 1062, 1103, 1110
D	Daewoo	1003, 1013, 1024, 1035, 1036, 1059, 1084, 1101
	Daytron	1003, 1013, 1016
	Dimensia	1103, 1110
	Dumont	1003, 1010, 1153
E	Electroband	1001
	Electrohome	1001, 1003, 1069, 1133
	Emerson	1003, 1013, 1015, 1020, 1021, 1022, 1023, 1025, 1038, 1044, 1045, 1048, 1055, 1061, 1094, 1096, 1099, 1101, 1113
	Envision	1003
F	Fisher	1025, 1051, 1091, 1160
	Fujitsu	1038, 1124, 1125, 1155
	Funai	1023, 1038, 1113
G	Gateway	1150
	GE	1003, 1018, 1022, 1046, 1054, 1069, 1085, 1103, 1110, 1113, 1133, 1136, 1153
	Goldstar	1003, 1013, 1024, 1030, 1045, 1080, 1100 1112, 1154
H	Hallmark	1003
	Hisense	1116
	Hitachi	1003, 1012, 1031, 1032, 1037, 1041, 1045, 1047, 1065, 1068, 1082, 1088, 1094, 1139, 1140, 1145, 1159
I	Infi nity	1067
J	Janeil	1134
	JBL	1067
	JC Penney	1003, 1013, 1018, 1019, 1024, 1026, 1046, 1047, 1054, 1063, 1083, 1085, 1100, 1103, 1110, 1112, 1133, 1154
	Jensen	1003
	JVC	1028, 1029, 1045, 1047, 1050, 1060, 1065
K	Kawasho	1001, 1003
	Kenwood	1003
	Kloss Novabeam	1023, 1056, 1057, 1134
	KTV	1013, 1023, 1033, 1034, 1073, 1099, 1113
L	LG	1024, 1030
M	M.Wards	1002, 1009, 1038
	Magnavox	1003, 1052, 1053, 1056, 1057, 1063, 1067, 1081, 1106
	Marantz	1003, 1031, 1067, 1122
	Mitsubishi	1003, 1024, 1051, 1115, 1122, 1133
	Motorola	1014, 1069
N	NEC	1003, 1012, 1024, 1043, 1069
	NET-TV	1137, 1150
O	Orion	1020, 1096
P	Panasonic	1017, 1067, 1069, 1095, 1111
	Philips	1003, 1011, 1045, 1052, 1054, 1056, 1057, 1058, 1063, 1067, 1069, 1106
	Pioneer	1003, 1018, 1037, 1070, 1071, 1094, 1145, 1147, 1149
	Plasmsync	1135
	Portland	1003, 1013, 1024, 1059
	Price Club	1026
	Prism	1018
	Proscan	1004, 1005, 1006, 1007, 1008, 1085, 1103, 1110
	Proton	1003, 1045
Q	Quasar	1010, 1069, 1073, 1111, 1153
R	Radio Shack	1003, 1013, 1015, 1023, 1024, 1025, 1045, 1100, 1103, 1110, 1113
	RCA	1003, 1004, 1005, 1006, 1007, 1008, 1014, 1024, 1049, 1069, 1075, 1079, 1085, 1087, 1088, 1093, 1094, 1101, 1103, 1110, 1113, 1153
	Realistic	1013, 1015, 1023, 1025, 1045, 1100, 1103, 1110
	Runco	1010, 1153
S	Sampo	1150
	Samsung	1003, 1013, 1024, 1026, 1040, 1045, 1062, 1078, 1083, 1090, 1100, 1105, 1114, 1120, 1121, 1146, 1148, 1157
	Sansui	1119
	Sanyo	1003, 1025, 1051, 1072, 1077, 1091, 1156, 1157, 1158
	Sharp	1003, 1013, 1014, 1015, 1045, 1055, 1064, 1066, 1076, 1089, 1123
	Signature	1009
	Sony	1001, 1102, 1108
	Soundesign	1003, 1023, 1038, 1063, 1113
	Starlite	1023
	Supre-Macy	1134
	Sylvania	1003, 1039, 1042, 1052, 1053, 1056, 1057, 1063, 1067, 1089, 1151
	Symphonic	1023, 1039, 1044
T	Tandy	1014
	Tatung	1069
	Technics	1018
	Techwood	1003, 1018
	Teknika	1003, 1009, 1013, 1023, 1024, 1026, 1038, 1045, 1047, 1059, 1063, 1111, 1113
	Telecaption	1074
	Toshiba	1003, 1019, 1025, 1026, 1042, 1074, 1098, 1107, 1111, 1135, 1136
	Totevision	1013
U	Universal	1046, 1054
V	Video Concepts	1113
	Viewsonic	1006, 1022, 1109, 1128, 1129, 1130, 1131, 1138, 1143, 1145, 1150
W	Wards	1003, 1009, 1015, 1024, 1038, 1044, 1046, 1052, 1054, 1056, 1057, 1067, 1086, 1103, 1110

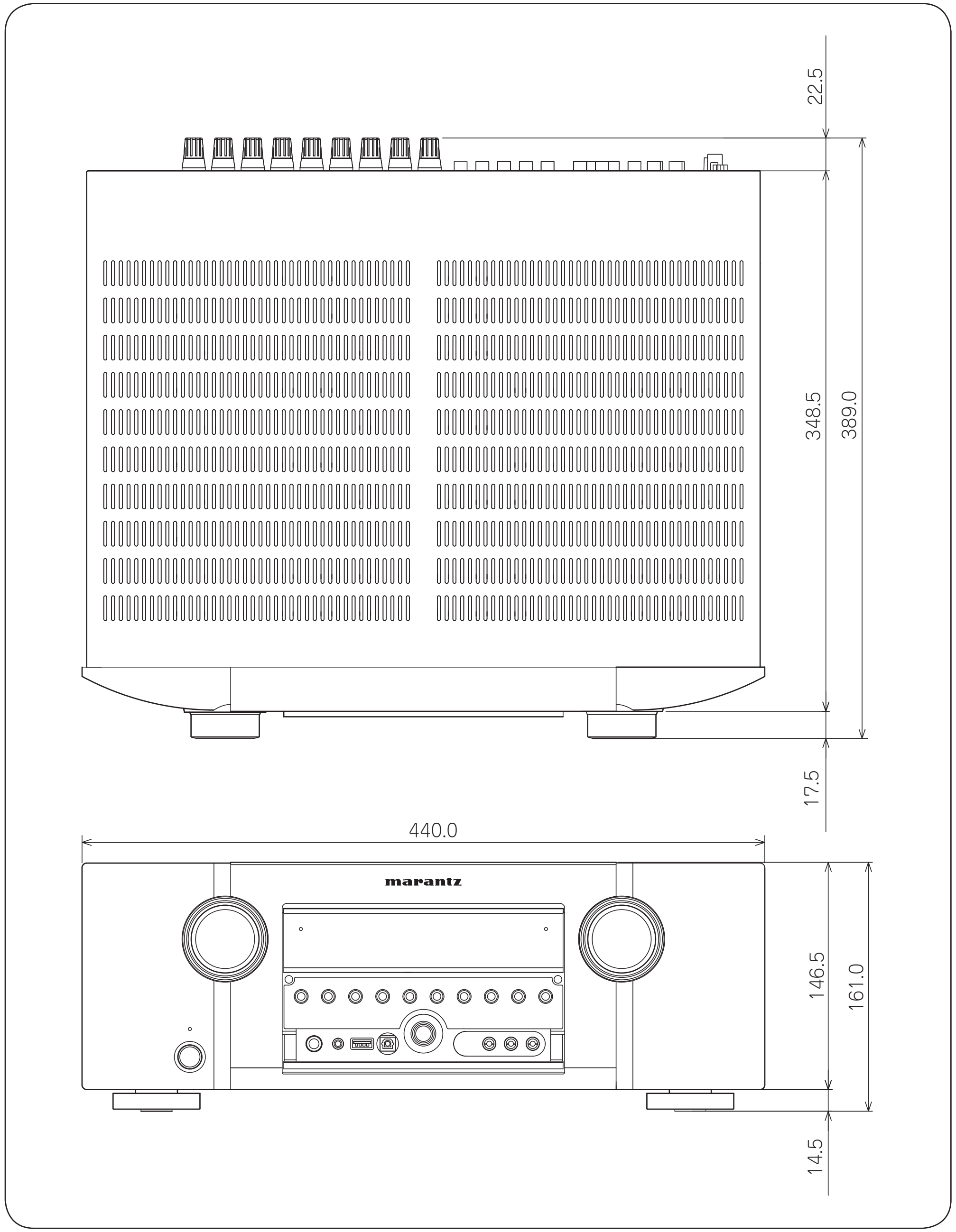
	White Westinghouse	1001, 1101
Y	Yamaha	1003, 1024
Z	Zenith	1003, 1009, 1010, 1132, 1144, 1153

Device select : CD

CD Player

A	AIWA	3001, 3002, 3003
	AKAI	3004, 3005, 3006
	AUDIO	3007
	AUDIO LABS	3008
C	CALIFORNIA	3008
	CARVER	3010, 3011, 3009
	CASIO	3012, 3020
	CURTIS	3020, 3012
D	DENON	3013
E	EMERSON	3014
F	FISHER	3011, 3015, 3016, 3017, 3018
G	GE	3019
	GENEXXA	3014, 3021, 3020
H	HARMON	3022, 3023, 3051
	HITACHI	3020
I	INKEL	3024
J	JC PENNEY	3012, 3020, 3025
	JVC	3026, 3027
K	KARDON	3022, 3051, 3023
	KRELL	3010
L	LUXMAN	3035, 3036, 3037, 3038
	LX I	3012, 3020, 3014
M	MAGNAVOX	3010, 3039, 3040
	MARANTZ	3010, 3041, 3042, 3043
	MATHES	3012, 3020
	MCS	3012, 3020
	MGA	3023
	MISSION	3010
	MITSUBISHI	3023, 3044
N	NAD	3034, 3045
	NAKAMICHI	3046, 3047, 3048
	NEC MCS	3025
	NIKKO	3007, 3016
O	ONKYO	3049, 3050, 3051, 3052, 3055, 3102, 3103
	OPTIMUS	3011, 3014, 3020, 3028, 3053, 3054, 3056, 3057, 3058, 3059
P	PANASONIC	3008, 3060, 3061
	PHILIPS	3009, 3010, 3010, 3040
	PIONEER	3020, 3021, 3062, 3063, 3064
Q	QUASAR	3008
R	RCA	3011, 3014, 3065, 3066, 3067, 3068, 3069
	REALISTIC	3011, 3014, 3020, 3042, 3054, 3057
	ROTEL	3010
	RS ORIGINAL	3070
S	SAE	3010, 3083
	SAMSUNG	3071
	SANSUI	3014, 3068, 3072, 3073
	SANYO	3011, 3018, 3074, 3075, 3076
	SCOTT	3014
	SEARS	3012, 3014, 3020, 3028, 3042
	SHARP	3028, 3042, 3077
	SHERWOOD	3042, 3056, 3070, 3078, 3024
	SHURE	3025
	SONY	3039, 3079, 3080, 3081, 3082, 3097, 3098, 3099, 3100, 3101
	SYLVANIA	3010
	SYMPHONIC	3083
T	TEAC	3016, 3042, 3057, 3083, 3084, 3085, 3086
	TECHNICA	3007, 3008, 3061, 3087, 3088
	THETA DIGITAL	3040
	TOSHIBA	3045
V	VICTOR	3026
Y	YAMAHA	3007, 3089, 3090, 3091, 3092
Z	ZENITH	3016, 3093, 3094, 3095, 3096

❏外観寸法図（単位：mm）



marantz®

お客様ご相談センター

☎ (03) 3719-3481

ご相談受付時間

9：30－12：00　13：00－17：00

（土　日　祝日　当社休日を除く）

修理に関しましては 添付の「 **製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内** 」をご覧ください。

株式会社**マランツ**コンシューマー マーケティング

当社の最新情報をインターネット上でご覧ください。

http://www.marantz.jp

Printed in China　5411 10481 014M